

病 院 年 報

— 第 12 号 —

平 成 25 年 度



杉田玄白記念公立小浜病院

病院理念と基本方針

病 院 理 念

『 地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院 』

基 本 方 針

- 1) 杉田玄白の進取の精神を受け継ぎ、良質・最新の医療を提供します。
- 2) 医療連携を推進し、中核病院として地域のニーズに応えます。
- 3) 安全・安心な医療サービスに努めます。
- 4) 公共性に配慮しつつ、健全な経営をめざします。
- 5) 教育・研修を充実させ、優れた人材を育成します。

巻頭言

今こそ全員で改革を！



病院長 吉田 治義

わが国は 2025 年にはいわゆる団塊の世代が後期高齢者になり、人口構造では 4 人に 1 人が 75 歳以上という超高齢社会になることに照準を当てて、昨年、厚生労働省は、医療、介護、福祉の見直しを行いました。その中で医療行政では、病床機能の見直しと地域包括医療制度の導入を打ち出しました。当院のように連携する医療施設数が圧倒的に少なく、勤務医数と看護師数が共に不足している病院においては一般病床数の削減や看護体制の見直しなど、厳しい対応を迫られることになりました。特に 26 年度初めの 4 か月間は、医師の大幅な交代もあり収益の悪化をもたらしました。その後、経営危機の実情を全職員の皆様に訴え、一丸となって対処してきた結果、8 月から 7：1 看護体制に戻ることができ、入院、外来共に診療単価を上げることができました。このままでいけば、最悪の事態は避けられる見通しです。多忙で過密な業務に携わって頂いている医師、看護師、薬剤師、各種医療技術者そして事務部の皆様に改めてお礼を申し上げます。

今回の経営危機の対処のために、皆様と協力して取り組んできたこと、今なお進行中の改革は、これからの当院の健全な運営の基盤になるものとして意義深いものであります。すなわち、1 つには、DPC を意識した入院患者の在院日数の調整と入院患者数確保のための具体的な方策の徹底があり、二つ目には診療報酬増加のための各種施設基準の新規取得活動があります。また、外来においては、必要な検査の充実をはじめ、きめ細かい診療が開始されました。これらの諸改革のために、「診療支援課」や「診療内容検討委員会」が新しく設置されたところです。今後、実行に当るものの権限と責任を明らかにして、効果を検証しながら改革を進めて行きたいと思います。一方、収益確保とともに重要な、費用の削減においては、薬品費の削減は薬剤部長の尽力で効果を上げているところですが、診療材料費については、SPD の見直しやベンチマークの活用を含め、専門委員会を中心に思い切った改革に取りかかったところです。

今年ほど、全職員の皆様に、病院経営の実情を公開した上で積極的な業務改善を呼びかけた年はありません。感染防止管理加算 1 や画像診断管理加算 2 の取得などは、現場の担当者の経営改善への熱意から生まれました。また、救急外来チームからは、電子カルテ上の「経営改善提案メール」を通して提案を頂き、「院内トリアージ実施料加算」の申請をすることになりました。今後も新提案に期待致しますし、また、努力頂いた職員への報償なども検討したいと考えています。

最後に、医師獲得活動について触れたいと思います。初期研修医の獲得状況については、例年ほぼ定数を満たしておりますが、新年度には定数 4 名のフルマッチに加えて、さらに 1 年間のたすきがけ研修医 2 名を獲得することができました。救命救急センター活動などの魅力ある研修プログラムを展開していく所存です。昨年 4 月からは京都大学寄付講座「地域医療システム学講座」が始まり、内科での循環器と呼吸器の専門診療と教育が順調にスタートしたところです。また、関連して開催している「京大連携わかさセミナー」では、京大病院の若手医師から毎月、各分野の最新の診療と研究状況を知ることができる良い機会になっており、院内外の医療従事者に良い刺激になっております。新年度におきましても、整形外科を始めとする診療科の医師獲得のために一層の努力を続けていく所存です。

さて、全国的にみて医師の都市部特に県庁所在地への偏在は従来からの課題です。その対策として、福井県庁地域医療課からは当院へ重点的な若手医師の配置を頂いているところですが、診療と研修の一層の充実のために昨年から指導的内科医師の派遣を市長、町長と、さらに当病院組合議会議員の皆様と共に強く訴えて参りました。その効果もあり県当局で、福井大学と嶺北の基幹病院から指導医を当院に派遣する制度が立案され、予算化して頂き、早速 27 年度からは、福井大学の総合診療専門医が当院を拠点にして院内外で地域医療活動を開始することになりました。今後、舞鶴若狭道の全通とともに新制度に乗っ取って、嶺北と若狭の医師の交流がますます盛んになることを期待しております。

(平成 27 年 1 月 記)

— 目 次 —

病院理念・基本方針

巻頭言 病院長 吉田 治義

I. 病院概況	1
施設概況	2
沿革	4
建物配置図・断面図	6
組織図	7
役職員一覧	8
院内会議・委員会一覧	9
職員数	10
II. 活動状況	11
1. 各科・各部署の活動状況	
内科	12
循環器内科	16
外科	17
整形外科	20
形成外科	22
脳神経外科	23
心臓血管外科	24
小児科	25
産婦人科	28
眼科	29
耳鼻いんこう科	30
精神科	31
泌尿器科	33
皮膚科	35
手術センター・麻酔科	36
放射線科	37
救命救急センター	38
救急総合診療科	38
歯科口腔外科	39
健診センター	41
血液浄化センター	42
消化器センター	43
薬剤部	44
画像診断センター	45
臨床検査科	46
病理	47
リハビリテーション科	48
食事療法科	56
看護部	57
2. 院内委員会の活動状況	69

Ⅲ. 各種統計	79
外来患者数、入院患者数	80
平均在院日数、病床利用率、救急車搬送患者数	84
時間外診療患者数、へき地巡回診療患者数	84
手術件数、分娩件数、人工透析件数、内視鏡検査件数	85
薬剤件数	86
画像検査件数、リハビリテーション件数、患者給食数	87
臨床検査件数	88
地域連携・医療福祉相談件数	89
Ⅳ. 決算概要	91
事業報告	92
経営概要・経営分析	93
収益的収入および支出	94
資本的収入および支出	98
Ⅴ. 公立病院改革プラン概要・評価	99
平成 23 年度杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン実績評価	100
杉田玄白記念公立小浜病院改革プランの概要	108
Ⅵ. 医師臨床研修概要	121
Ⅶ. 公立小浜病院組合構成施設の紹介	125
公立若狭高等看護学院	126
介護老人保健施設アクール若狭	128
レイクヒルズ美方病院	131

I . 病院概況



本館・救命救急センター



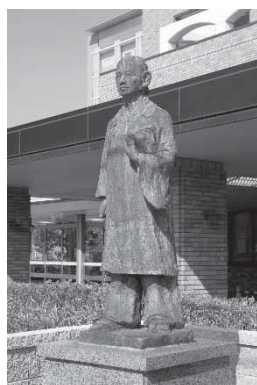
正面玄関（西館）



東館



外来新棟



杉田玄白像



東側玄関

施設概況 (平成 26 年 4 月 現在)

所在地 福井県小浜市大手町 2 番 2 号
設立形態 一部事務組合立病院
構成市町 小浜市、若狭町、おおい町、美浜町
代表者 組合長 (小浜市長)

敷地面積 24,479 m²
建築面積 9,029 m²
延床面積 32,027 m²
(本館は免震構造)



病床数 456 床 (一般 246、療養 100、結核 8、感染症 2、精神 100)

診療科目 救急総合診療科、内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、
消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、
泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、
放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

入院基本料 一般病棟 10 対 1 入院基本料
療養病棟 入院基本料 2
結核病棟 10 対 1 入院基本料
精神病棟 15 対 1 入院基本料

特殊診療機能
機器・設備等 救命救急センター(12 床、うちICU・CCU 7 床、無菌室 1 床)、
HCU(15 床)、健診センター(6 床)、血液浄化センター(42 床)、
画像診断センター(PET-CT、MDCT、MRI、IVR-CT、骨塩量測定装置等)、
高気圧酸素治療装置、放射線治療装置、結石破碎装置

併設施設 公立若狭高等看護学院、介護老人保健施設アクール若狭、
院内保育所 (ふくろう)、小浜市病後児保育所 (とまと)

指定医療機関等の状況（平成 26 年 4 月 1 日現在）

健康保険法保険医療機関、国民健康保険療養取扱機関、労働災害補償保険指定医療機関、結核予防法指定病院、生活保護法指定病院、被爆者一般疾病医療機関、養育医療指定医療機関、厚生医療指定病院、育成医療指定病院、身体障害者福祉法指定医、第 2 種感染症指定医療機関、救急告示病院、へき地医療拠点病院、災害拠点病院、病院郡輪番制病院、地域周産期医療母子センター、母体保護法指定施設、単独型臨床研修指定病院、協力型臨床研修施設（福井大学・岐阜大学医学部附属病院）、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設、救命救急センター（新型）、DMAT 指定医療機関
(財)日本医療機能評価機構認定病院（病院機能評価 審査体制区分 3 Ver. 6.0）

専門医、認定医教育病院等、学会の指定状況（平成 26 年 4 月 1 日現在）

日本内科学会教育関連病院、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本外科学会認定医修練施設、日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設、日本小児科学会専門医関連施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本麻酔科学会認定病院、日本救急医学会認定救急科専門医指定施設



MRI (1.5 Tesla)



健診センター



血液浄化センター



医師公舎・看護師宿舎



無菌病室



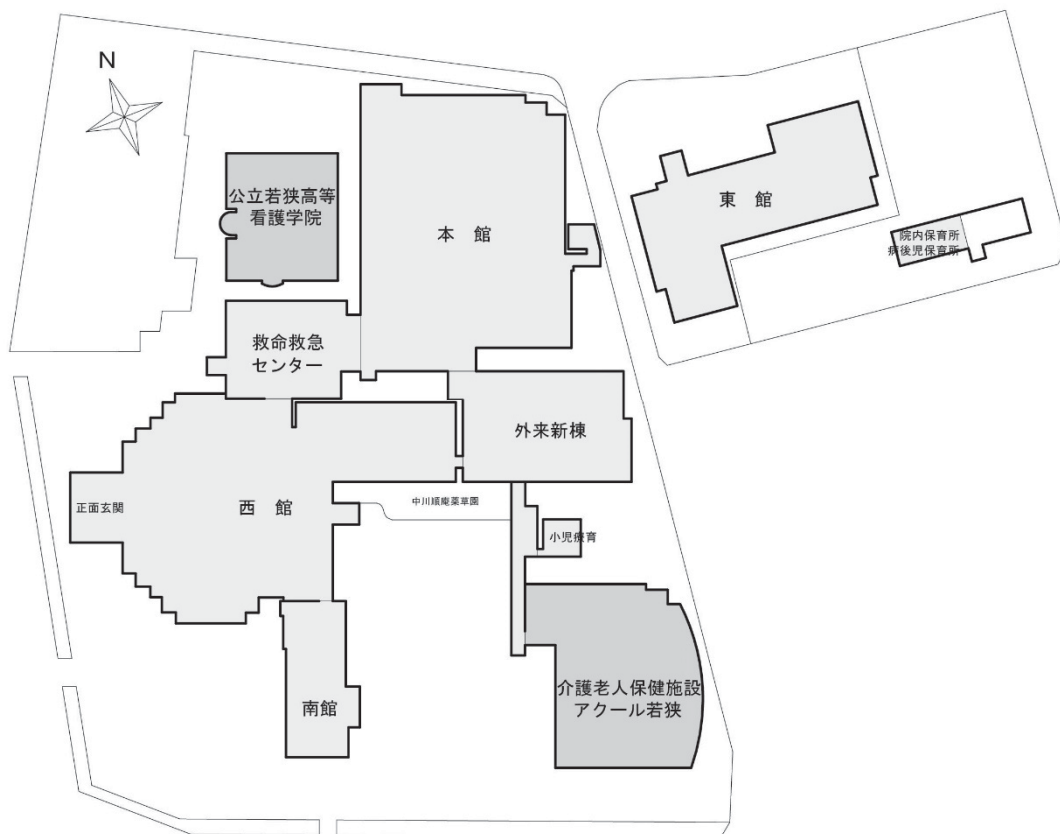
高気圧酸素治療装置

沿革

	年	月	日	事 項
明治	16	1	4	「県立小浜病院」として開設
	26	4	1	郡制実施により「郡立小浜病院」と改称
大正	12	4	1	郡制廃止に伴い小浜病院組合を設け「共立小浜病院」と改称
昭和	26	4	1	町村合併により一市八村の組合立病院となり、「公立小浜病院」と改称
	30	1	1	町村合併により一市一町一村の組合立病院となる(小浜市、上中町、名田庄村)
	32	9	1	総合病院の承認を受ける
	35	6	12	救急告示病院の指定を受ける
	53	12	1	第2次救急病院群輪番制病院の指定を受ける
	55	4	1	へき地中核病院の指定を受ける
	58	11	24	創立100周年記念式典
平成	2	4	1	公立若狭高等看護学院開校
	3	5	15	自治体立優良病院表彰式において自治大臣表彰を受ける
	4	7	2	病院施設整備事業起工式典(西館建設、既存病棟改修など)
	5	8	30	西館完成
	5	9	1	病床数変更 391床 (一般271床、精神100床、隔離20床)
	5	12	18	第2病棟、第3病棟 改修工事完了
	6	5	27	病院施設整備事業竣工式典(西館建設、既存病棟改修など)
	7	6	1	脳ドック開設
	10	1	19	災害拠点病院(地域災害医療センター)の指定を受ける
	10	4	1	院内保育所開設
	10	8	25	立体駐車場完成
	11	5	25	遠隔医療システム稼働
	11	12	13	リハビリテーション施設整備工事完成
	12	3	29	介護老人保健施設アクル若狭開設
	13	4	1	三方町、美浜町が病院組合へ加入
	15	7	1	レイクヒルズ美方病院開設
	15	8	11	高度医療施設整備事業 第1期工事起工式典 (東館、医師公舎、看護師宿舎、学生寮建設など)
	15	10	30	単独型臨床研修病院の指定を受ける
	16	11	2	病床数変更 410床 (一般308床、精神100床、感染2床)
	16	11	10	高度医療施設整備事業 第1期工事竣工式典 (東館、医師公舎、看護師宿舎、学生寮建設など)
	17	3	30	上中町、三方町が病院組合から脱退(合併による)
	17	3	31	若狭町が病院組合へ加入
	17	6	1	福井県地域療育拠点設置事業受託開始

17	10	1	指定居宅介護支援事業開始
17	10	3	第1期オーダーリングシステム運用開始、院外処方箋発行開始
17	10	27	高度医療施設整備事業 第2期工事起工式典(本館、救命救急センター建設など)
17	11	1	小浜市病後児保育事業受託開始、病後児保育所開設
18	1	18	協力型臨床研修施設(歯科口腔外科)の指定を受ける
18	3	2	名田庄村が病院組合から脱退(合併による)
18	3	3	おおい町が病院組合へ加入
18	3	20	(財)日本医療機能評価機構による認定を受ける(審査体制区分3 Ver.4.0)
18	4	1	救急総合診療科開設、精神科デイケア開始
19	10	1	病院の名称を「杉田玄白記念 公立小浜病院」と改称 救命救急センター開設
19	10	25	高度医療施設整備事業 第2期工事竣工式典(本館、救命救急センター建設など)
19	10	29	第2期オーダーリングシステム運用開始 病床数変更 456床 (一般296床、療養50床、感染2床、結核8床、精神100床)
19	11	1	療養病床運用開始
20	4	1	単独型臨床研修指定病院として医科臨床研修医を受入れ
20	11	1	小児科休日当番医制度を開始
21	3	30	DMAT 指定病院となる
22	3	15	エネルギー研究開発拠点化事業竣工
22	4	1	消化器センター開設
22	7	1	DPC 対象病院となる
23	2	19	高度医療施設整備事業 第3期工事起工式典(外来新棟建設など)
23	3	20	(財)日本医療機能評価機構による認定の更新(審査体制区分3 Ver.6.0)
23	3	22	東日本大震災に係る救護班派遣(計5班)
23	11	21	外来新棟 診療開始 (脳外科、泌尿器科、眼科、精神科、皮膚科、歯科口腔外科、リニアック、売店、一般食堂)
24	11	24	高度医療施設整備事業 第3期工事竣工式典(外来新棟建設など)
25	5	25	中川淳庵薬草園を開園
25	11	24	開設130周年記念若狭健康フォーラムを開催
26	1	12	電子カルテシステム運用開始
26	4	1	病床数変更 456床 (一般246床、療養100床、感染2床、結核8床、精神100床)

建物配置図



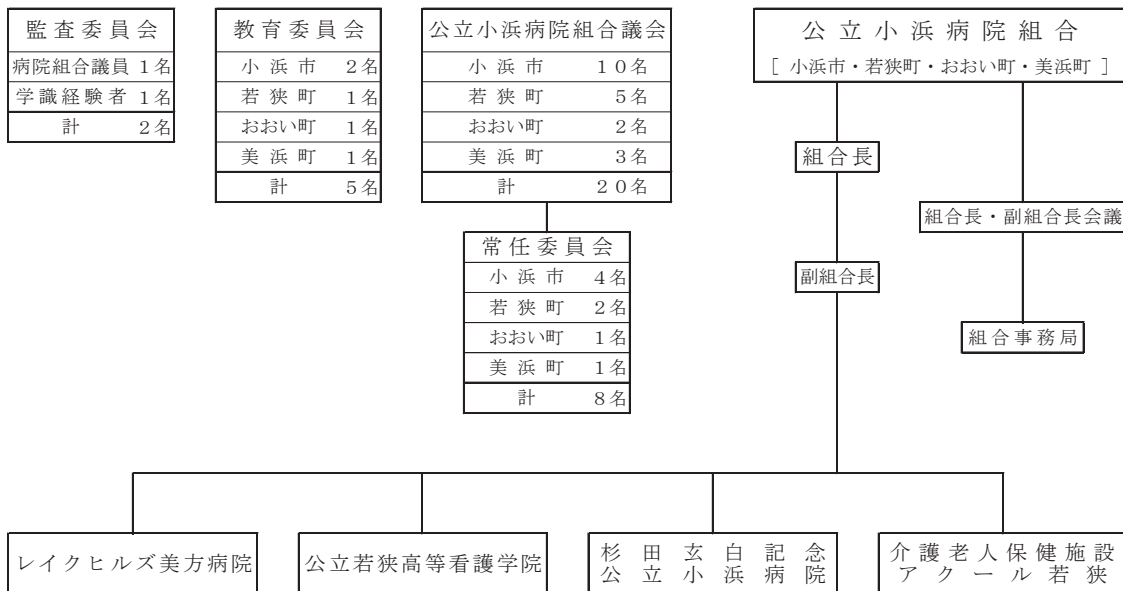
各階案内図

本 館		小児療育		南 館	
9階	会議室	1階	小児療育	4階	福井県健康管理協会
8階	一般病床、感染症病棟、結核病棟	外来新棟		3階	管理部門
7階	一般病棟	2階	外来診療科	2階	管理部門
6階	一般病棟	1階	外来診療科、放射線治療、災害処置室、食堂、売店	1階	管理部門
5階	一般病棟				
西 館		アクール若狭		東 館	
4階	療養病棟	療養室			療養室
3階	療養病棟	血液浄化センター			療養室
2階	手術センター、中央材料室、管理部門	検診センター、中央検査	救命救急センター	精神科病棟	療養室
1階	外来診療科、外来検査室、受付、会計、薬剤部、紹介患者窓口	画像診断、地域連携室、杉田玄白コーナー	ICU、CCU	精神科病棟	療養室
		救急診察室、救急専用病床		精神科デイケア室、医療福祉相談室	リハビリテーション科、通所レクリエーション室

組織図

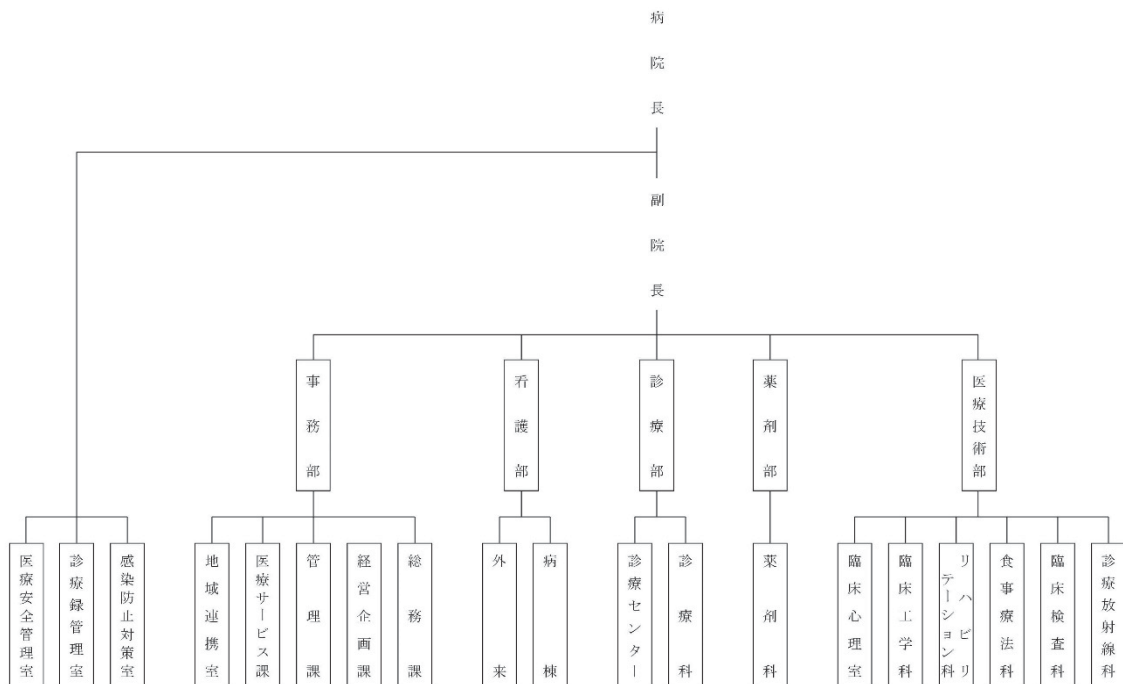
公立小浜病院組合 組織図

平成24年4月1日～



杉田玄白記念 公立小浜病院 組織図

平成26年4月1日～



役職員一覧（平成 26 年 4 月 1 日現在）

公立小浜病院組合

組 合 長	松 崎 晃 治	(小浜市長)
副 組 合 長	森 下 裕	(若狭町長)
〃	中 塚 寛	(おおい町長) ※平成 26 年 4 月 2 日より
〃	山 口 治太郎	(美浜町長)
〃	東 武 雄	(小浜市副市長)
事 務 局 長	北 原 幹 三	(事務代理)

杉田玄白記念 公立小浜病院

病 院 長	吉 田 治 義	(内 科)
名 誉 院 長	小 西 淳 二	(内 科)
副 院 長	福 井 泉	(外 科)
〃	服 部 泰 章	(外 科)
診 療 部 長	大 谷 秀 夫	(内 科)
〃	廣 瀬 敏 士	(脳神経外科)
手術センター長	荘 司 勸	(麻酔科)
血液浄化センター長	鈴 木 裕 志	(泌尿器科)
救命救急センター長	廣 瀬 敏 士	(兼 務)
消化器センター長	菅 野 元 喜	(外 科)
画像診断センター長	川 上 悟 司	(放射線科)
健診センター長	福 井 泉	(兼 務)
薬 剤 部 長	内 田 博 友	
医療技術部長	池 田 勘 一	
看 護 部 長	大 枝 かよ子	
事 務 部 長	北 原 幹 三	

公立若狭高等看護学院

学 院 長	吉 田 治 義	(兼 務)
副 学 院 長	百 合 淳 子	
事 務 局 長	田 邊 靖 雄	

介護老人保健施設 アクルス若狭

施 設 長	服 部 泰 章	(外 科) (兼務)
事 務 長	田 邊 靖 雄	(兼 務)
総 看 護 師 長	大 森 美代子	

レイクヒルズ美方病院

病 院 長	入 江 善 二	(整形外科)
副 院 長	東 博 司	(内 科)
診 療 部 長	東 博 司	(内 科) (兼 務)
総 看 護 師 長	竹 内 みゆき	
事 務 局 長	中 山 浩	

院内会議・委員会一覧（平成 25 年 4 月 1 日現在）

【 会 議 】

病院組合事業運営会議

部長連絡会議

医療安全会議

所属長会議

診療科代表者会議

臨床部門連絡会議

病院・アクール連絡会議

【 委 員 会 】

倫理委員会

診療材料検討委員会

人事委員会

輸血療法委員会

医療安全管理員会

化学療法室運営委員会

臓器移植普及推進検討委員会

病院機能評価委員会

防災対策委員会

クリニカルパス推進委員会

医療ガス安全管理委員会

病床運営委員会

放射線安全委員会

手術室運営委員会

院内感染対策委員会

画像診断運営委員会

安全衛生委員会

臨床検査適正化委員会

情報システム委員会

院内保育所運営委員会

薬事委員会

栄養治療食委員会

保険診療検討委員会

図書委員会

診療録管理委員会

褥瘡対策委員会

研修管理委員会(臨床研修病院関係)

DPC委員会

地域医療連携委員会

血液浄化運営委員会

接遇委員会

医療機器安全管理委員会

広報委員会

行動制限最小化委員会

緩和医療検討委員会

病態栄養改善委員会

救命救急センター運営委員会

職 員 数

職員数の推移（各年度４月１日の数）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医 師 臨床研修医(医科) 臨床研修医(歯科)	43 (7)	43 (8)	42 (4) (8) (1)	45 (1) (8) (1)	46 (4) (7)
薬剤師	11	10	11	11	9
診療放射線技師	11	10	11	11	11
臨床検査技師	15	14	14	14 (1)	13 (2)
歯科衛生士	1 (2)	1 (2)	1 (3)	1 (3)	1 (3)
管理栄養士	3	3	2	3	3
栄養士	3 (1)	3 (2)	3 (1)	3 (2)	3 (2)
理学療法士	8	8	8	8	10
作業療法士	8	8	8	8	9
言語聴覚士	4 (1)	4 (1)	4	4	4
臨床工学技士	3	4	4	6	6
視能訓練士	2	2	2	2	2
臨床心理士	1	1	1 (1)	1 (1)	2
助産師	6 (6)	7 (6)	9 (6)	10 (4)	9 (5)
看護師	207 (34)	217 (41)	215 (46)	210 (40)	213 (39)
准看護師	17 (28)	17 (27)	16 (26)	13 (25)	11 (23)
看護補助員	27 (7)	27 (9)	27 (12)	27 (18)	26 (18)
事務職員	39 (3)	39 (3)	38 (4)	42 (4)	44 (3)
その他職員	31 (15)	29 (19)	30 (19)	22 (19)	19 (29)
合 計	440 (104)	447 (118)	446 (131)	441 (127)	441 (135)

（ ）内は非常勤職員数を示した別掲数

医師の非常勤職員数には、他病院等からの嘱託医師数を含まず。

Ⅱ．活動状況

1. 各部署の活動状況

内 科

[常勤医師]	吉田 治義	小西 淳二	本馬 徳人	布居 剛洋
	笠原 勝宏	鈴木 将智	松田 安史	山村 遼
	高崎 俊和	伊藤 和広	貴島 啓介	山本 裕子
	齊藤 恭志	野阪 拓人		

[非常勤医師] 伊藤 巧朗、中井 健太郎、口出 将司、小西 聡史、坪坂 誠司、
山本 祐樹、上野 亜佐子、神澤 朋子、白藤 法道、糟野 健司、
堀口 孝泰、横山 由就、福永 康智、佐藤 雄一、田中 大祐、
松原 靖、秋月 修治、辻 英輝、細野 祐司、須藤 弘之

【平成 25 年度の診療状況等】

当科では、消化器疾患、呼吸器疾患、糖尿病疾患、内分泌疾患、腎疾患、高血圧疾患、膠原病疾患、神経疾患などに対し専門的に対応できる医師が診療にあたり、当地域における内科診療の中心的役割を担っています。

地域柄、高齢者の比率が高く、呼吸不全、消化管出血、急性冠動脈疾患などの救急搬送も多くあることから、関連施設や行政とも連携を密にし、地域に信頼される医療を提供すべく努力しております。

一般内科・循環器科の初診につきましては、平成 19 年より紹介外来制をとらせていただいておりますが、特に木曜日は多くの医院が休診のため、患者の皆様には大変ご不便をおかけしていました。そこで、平成 22 年 9 月より毎週木曜日に紹介状なしで受診していただける内科・循環器科の初診外来を開き、急なご病気の方や、かかりつけ医をお持ちでない方の診療をおこなっています。

今後も地域の診療所や開業医の皆様との連携をより一層強化し、外来では救急対応と紹介制による専門医療を担当させて頂き、入院では急性期を中心とした高度医療を担当することで、地域医療に貢献してきたいと考えています。

<消化器>

当専門科は、消化器疾患（上下部消化管、肝胆膵）の治療及び検査全般に関して幅広く対応し、平成 21 年 4 月には消化器を専門とする常勤医師 3 名の増員、平成 21 年 7 月には、より侵襲の少ない経鼻式内視鏡を導入し、より多くの症例に対応できる体制を整えました。また、早期胃癌（粘膜内癌）に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や、肝腫瘍（肝臓癌、肝転移）に対する経皮的ラジオ波焼灼術を導入し、最先端の医療技術についても対応しています。

平成 19 年度以降、内視鏡検査件数の増加と多様性に対応するため、平成 22 年 4 月に消化器内科、消化器外科、画像診断の各医師が、診断から治療まで一貫した方針で迅速かつ的確に診療が行えるように消化器センターが設置されました。

消化器疾患は非常に頻度が高く多様であり、緊急対応が必要な場合も多く、地域での初期対応が非常に重要と考えていますので、当センターの地域における役割を果たすべくスタッフ一同努めて参ります。

<呼吸器>

呼吸器科外来では、非常勤の応援医師に協力をいただき、週 4 回の外来診療を行っています。

<生活習慣病・糖尿病>

当専門外来では、京都大学の内分泌代謝内科と糖尿病栄養内科から派遣される各専門医により、それぞれ週 1 回（生活習慣病は毎週水曜日、糖尿病は毎週金曜日）の外来診療を行っています。

両専門外来ともに他科と連携した合併症の治療と同時に、糖尿病学会認定療養指導士資格を有する管理栄養士による治療前後の栄養評価と、それに基づく食事指導を実践しており、患者個人の生活習慣や嗜好などを加味した個別指導を目指しています。

また、疾患の性格上、高い再診率が特徴ですが、近年の病診連携の充実により、紹介・逆紹介数も増加しています。

<内分泌>

小西名誉院長により毎週水曜日に甲状腺疾患を中心とする専門外来が行なわれており、多くの患者様が定期的に治療を受けておられます。この実績をふまえて、平成 16 年 4 月より、内分泌代謝科認定教育施設、また同年 12 月より甲状腺学会認定専門医施設となっています。

<腎臓>

糸球体腎炎やネフローゼ症候群などの腎臓内科一般の疾患に加えて膠原病や糖尿病による腎病変など幅広く診断治療を行っています。また、膠原病や心血管障害に対する血漿交換治療や肝不全などの血液浄化療法も数多く行っています。

血液浄化センターでは、臨床工学技士 4 名で機器の管理を行っています。平成 25 年度の血液透析治療の延べ件数は 13,321 名で前年度より 313 名増加しました。平成 25 年度末の透析患者数は 98 名で昨年度から 3 名増加しています。一方、腹膜透析患者数は 4 名で増減はありませんでした。特殊血液浄化治療については、持続血液ろ過透析のべ 8 日、エンドトキシン吸着治療 (PMX) 8 回、LDL 吸着 0 回、腹水濾過濃縮再生静注療法・腹水濃縮濾過透析療法 3 回、白血球除去療法 (LCAP) 2 回でした。

<リウマチ・免疫膠原病>

京都大学の免疫膠原病内科から派遣される担当医が専門外来を行っています。

平成 22 年 4 月より、診療日を以前の隔週から毎週月曜日に増やし、より良い充実した医

療の提供を目指しています。

診療内容は、免疫異常の発症を基盤とする膠原病、自己免疫疾患、リウマチ疾患、アレルギー疾患などが中心となり、これら疾患の多くは、多臓器の障害を引き起こす全身性疾患であり、全身の臓器に対する幅広い見識が必要であることから、関連診療科との連携を密にとりながら、身体全体を見据えた総合的な治療を行っています。

<神経>

毎週月曜日に福井大学より派遣される神経内科専門医が外来を担当しています。当専門外来では、頭痛、めまい、しびれ、麻痺、ふらつき、物忘れ、意識障害、ふるえ等、様々な症状をきたす患者さんの診断、治療を行っています。

パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経内科の専門診療を必要とする疾患に対しては、診断や薬物療法だけでなく、リハビリ診療や行政機関との協力のもとでご家族も含めた支援を行っています。また、認知症、脳血管障害に関しても他科の先生方と協力して充実した診療を提供させていただきます。

【学会発表】

高崎俊和、山本裕子、伊藤和広、鈴木将智、布居剛洋、笠原勝宏、本馬徳人：ゴリムマブ使用中にニューモシスチス肺炎を発症した関節リウマチの一例：第70回呼吸器合同北陸地方会、2013、6、1。新潟

佐藤博文、伊藤和広、山本裕子、高崎俊和、鈴木将智、笠原勝宏、布居剛洋、本馬徳人：random skin biopsy が診断に有用であった IVL の1例：第220回日本内科学会北陸地方会例会、2013、6、9。富山

高崎俊和、野阪拓人、山本裕子、貴島啓介、山村 遼、鈴木将智、布居剛洋、笠原勝宏、本馬徳人、内木宏延：劇症肝炎を呈した初発のびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の1剖検例：第222回日本内科学会北陸地方会例会、2014、3、2。福井

木村 秀樹、三上 大輔、上山 和子、高橋 直生、糟野 健司、吉田 治義、岩野 正之：近位尿細管細胞では、TNF- α は p38MAPK/HSP27 経路を介して VEGF-C 発現を誘導し、テルミサルタンはこれを抑制する。：第56回日本腎臓学会総会。2013.5。東京

糟野 健司、高橋 直生、武曾 恵理、三上 大輔、横山 由就、横井 靖二、木村 秀樹、吉田 治義、岩野 正之：レドックス制御蛋白「チオレドキシン」は酸化ストレスにより尿細管上皮細胞から尿中に分泌される：第56回日本腎臓学会総会。2013.5。東京

高橋 直生、糟野 健司、上山 和子、黒澤 寛之、平山 吉朗、黒瀬 知美、横井 靖二、横山 由就、三上 大輔、木村 秀樹、吉田 治義、原 正則、岩野 正之：低酸素ストレス性障害マーカーとしての尿中ポドカリキシン濃度-db/db マウスを用いて：第56回日本腎臓学会総会。2013.5。東京

嶋田章弘、杉本英弘、橋本儀一、吉田治義、平野 勉、岩野正之、木村秀樹：2 型糖尿病患者においてコレステリルエステル転送蛋白はピタバスタチンの脂質減少作用に影響する：第 60 回日本臨床検査医学会学術集会． 2013. 11. 神戸

Naoki Takahashi, Kenji Kasuno, Kazuko Kamiyama, Tomomi Kurose, Hiroyuki Kurosawa, Yoshiaki Hirayama, Seiji Yokoi, Yoshinari Yokoyama, Daisuke Mikami, Hideki Kimura, Haruyoshi Yoshida, Masanori Hara, Masayuki Iwano.: Urinary Podocalyxin Reflects Podocyte Injury in Hypoxia-Exacerbated Diabetic Glomerulosclerosis.: American Society of Nephrology Kidney Week 2013, Nov, 5-10, 2013, Atlanta, GA, USA.

Hideki Kimura, Daisuke Mikami, Kazuko Kamiyama, Naoki Takahashi, Kenji Kasuno, Haruyoshi Yoshida, Masayuki Iwano.: Vascular Endothelial Growth Factor-C Production Stimulated by TNF- α through p38/HSP27 Pathway and Its Therapeutic Reduction in Human Proximal Renal Tubular Cells. : American Society of Nephrology Kidney Week 2013, Nov, 5-10, 2013, Atlanta, GA, USA

【著書】

吉田治義：アミロイドーシス：pp 847-849, わかりやすい内科学、第 4 版、井村裕夫編集主幹、2014 年 2 月発行、文光堂

吉田治義：感染症に伴う腎障害：pp 849-850, わかりやすい内科学、第 4 版、井村裕夫編集主幹、2014 年 2 月発行、文光堂

循環器内科

[常勤医師] 本馬 徳人 鈴木 将智 山村 遼 亀井 俊治

[非常勤医師] 土井 孝浩、 塩見 紘樹 、 臼井 公人

【平成 25 年度の診療状況等】

日本循環器学会専門医教育施設です。虚血性心疾患、不整脈など特に迅速な対応が必要な疾患に即応する体制を取っています。また高血圧、糖尿病、高脂血症など、生活習慣病の予防も行っています。内科の他スタッフと協力し内科全般の疾患も併せて診療しています。

急性心筋梗塞に対する緊急ステント留置術は 23 例、昨年度 16 件から増加しています。治療総数は 48 例でした。生活習慣の欧米化や糖尿病罹患率の増加に伴う心血管疾患の増加への取り組みを強化しています。福井県の急性心筋梗塞地域連携パスも導入しています。

学会発表

第 32 回心血管インターベンション治療学会 東北北陸地方会

Silent double aortic arch のカテーテルアプローチに注意を要した急性冠症候群の一例

第 223 回 日本内科学会 北陸地方会

右膝原発の悪性リンパ腫と診断し、急激な経過をたどった 1 剖検例

外 科

[常勤医師] 福井 泉 服部 泰章 菅野 元喜 伊藤 鉄夫
 八木 大介 西川 徹 鎌田 泰之

[非常勤医師] 和田 洋巳、木村 元英

【平成 25 年度の診療状況等】

消化器センター内科部門・画像診断部門の協力のもと消化管・肝胆膵疾患に対する外科治療を中心に、呼吸器外科領域、乳腺外科領域においても内視鏡手術も含め、臨床研修施設としての安全性の担保のため適正な適応でガイドラインを遵守した治療を行っております。

（内視鏡手術）

手術の低侵襲化を目指し消化器外科領域、呼吸器外科領域、乳腺外科領域の良性疾患及び早期癌・他臓器非浸潤進行癌に対する標準癌手術を中心に内視鏡手術を施行してきた結果、年間450例弱の手術のうち80%を内視鏡手術が占めました。

（開胸・開腹手術）

多臓器浸潤癌や横隔膜をまたいで腹部臓器に浸潤する肺癌等については確実な根治切除を旨に開胸・開腹手術の適応としています。

《当院の先進的手術》

消化器外科領域

- ①腹臥位気胸下胸腔鏡下食道癌手術：良視野低侵襲下に縦郭郭清が可能
- ②腹腔鏡下胃癌手術：幽門側胃切除から胃全摘まで低侵襲に標準郭清が可能
- ③腹腔鏡下直腸低位前方切除・切断術：術後創痛を軽減
- ④腹腔鏡下肝切除術：術後創痛を軽減
- ⑤腹腔鏡下膵臓手術：手術の低侵襲化を実現
- ⑥腹腔鏡下脾摘術：手術の低侵襲化と術後創痛の軽減を実現
- ⑦腹腔鏡下穿孔性胃・十二指腸潰瘍手術：手術の低侵襲化と術後創痛の軽減を実現
- ⑧腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア根治術：手術の低侵襲化と術後創痛の軽減を実現
- ⑨腹腔鏡下イレウス解除術：術後創痛を軽減
- ⑩腹腔鏡下直腸脱根治術：術後の疼痛はわずかで、排便もスムーズ

呼吸器外科領域

胸腔鏡下気胸手術：術後創痛の軽減を実現

乳腺外科領域

- ①乳輪単孔吊り上げ式（小浜式）鏡視下乳腺切除術：整容性と術後創痛の軽減を実現
- ②鏡視下腋窩郭清：整容性と術後創痛の劇的軽減を実現
- ③センチネルリンパ節生検（色素法）：放射線被曝の危険を回避したセンチネルノドナビゲーションサージェリーが可能

肛門外科

- ①PPH痔核・脱肛根治術：術後疼痛を軽減

《今後の取り組み》

適正な手術適応で、ガイドラインを遵守し、適正な手術時間・出血量で安全確実な外科治療を実現する。

《外科業績》

菅野 元喜

- 小浜式単孔吊り上げ腹腔鏡下虫垂切除術(LAPP)のCO2排出削減効果

第26回日本内視鏡外科学会総会

2013年11月28日 福岡県

- 小浜式単孔吊り上げ腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(TAPP)CO2排出削減効果

第26回日本内視鏡外科学会総会

2013年11月30日 福岡県

- 小浜式単孔吊り上げ 腹腔鏡下虫垂切除術(LAPP)のCO2排出削減・経済効果

第75回日本臨床外科学会総会

2013年11月23日 愛知県

- 小浜式単孔吊り上げ 腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(TAPP)のCO2排出削減・経済効果

第75回日本臨床外科学会総会

2013年11月23日 愛知県

- 小浜式単孔吊り上げ 腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(TAPP)のCO2排出削減・経済効果

第52回全国自治体病院学会

2013年10月18日 京都府

- B-I 再建後の残胃癌に対するLTGの問題点

第45回北陸内視鏡外科研究会

2013年11月9日 石川県

- 特命：お水送りを堰き止めよ！！

第25回 日本海側京大病院関係病院長協議会

2013年8月23日 福井県

- 小浜病院における現在までの内視鏡下手術の成績と今後の展望

杉田玄白記念公立小浜病院130周年記念 若狭健康フォーラム

2013年11月24日 福井県

○小浜病院における現在までの内視鏡下手術の成績と今後の展望

今富健康講演会

2014 年 2 月 28 日 福井県

八木 大介

○小浜式単孔吊り上げ腹腔鏡下虫垂切除術(LAPP)の CO2 排出削減効果

第 75 回日本臨床外科学会

2013 年 11 月 21 日 愛知県

○綿テープを用いた腹腔鏡下直腸前方切除における直腸牽引の工夫

～穿孔ループ作成法～

第 26 回 日本内視鏡外科学会

2013 年 11 月 29 日 福岡県

鎌田 泰之

○腹腔鏡手術全盛時代の若手外科医育成について研修医の立場から考える

日本外科学会

2013 年 4 月 11 日 福岡県

○後期研修医が腹腔鏡手術を安全に行うために留意すべきこと

北陸内視鏡外科研究会

2013 年 6 月 8 日 福井県

○研修医の立場から、腹腔鏡手術のメリットを最大限に活かしたトレーニングを考える

日本消化器外科学会

2013 年 7 月 17 日 宮崎県

○外科研修医による内側アプローチを正しい層で剥離するための工夫

ー腹腔鏡下左側結腸切除術ー

日本臨床外科学会

2013 年 11 月 23 日 愛知県

○若手外科医が主体性を持って手術を行うための準備

日本内視鏡外科学会

2013 年 11 月 30 日 福岡県

整形外科

[常勤医師] 竹野 建一 平井 貴之

[非常勤医師] 入江 善二、内田 研造、小久保 安朗、坂本 拓己、竹浦 直人、
中嶋 秀明、長谷 健司、本定 和也、吉田 藍

【平成 25 年度の診療状況等】

平成 25 年度も引き続き常勤医師 2 名と非常勤医師の状態であり、平成 23 年度より継続しております紹介外来制を継続しておりますことは非常に御迷惑をおかけしております。当分の間、初期治療につきましては、地域の診療所等に継続をお願いする次第でございます。

外来は初診、再診に分かれ、あらゆる整形外科領域の症例を治療しております。

高齢化社会の昨今、転倒による骨折、骨粗鬆症、変形性疾患、廃用症候群の増加がみられており、少ない医師で対応しなければならないことに歯がゆさを感じておりますが、患者の皆様にも良質な医療を提供できるように努めてまいります。

手術は外傷を中心とし、変形性関節症に対する人工関節術、関節鏡手術、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対する椎弓切除術、ヘルニア摘出術も適応に応じて行なっております。症例によっては福井大学医学部附属病院整形外科より非常勤医師に来て頂き、手術を行なっております。常勤医師 2 名でありながら、毎年手術件数は増加傾向であり 300 件に達する状態となっております。

厳しい状況は継続しておりますが、今後も他科の先生方と協力して充実した診療を行ってまいります。

【学会発表】

竹野建一、小久保安朗、根来航平、杉田大輔、山岸淳嗣、北出誠、内田研造、馬場久敏：人工関節置換術におけるセメントレスカップの形状による長期成績の比較：第 40 回日本股関節学会 2013.11. 広島

平井貴之、内田研造、中嶋秀明、馬場久敏：抗 IL-6 受容体抗体併用が急性脊髄損傷における移植骨髄間質細胞生存率に与える影響：第 28 回日本整形外科学会基礎学術集会.2013.10.千葉

平成 25 年度の手術件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 24 年度 手術件数	22	30	24	19	26	22	26	18	26	25	19	28	285
平成 25 年度 手術件数	26	25	20	21	29	31	25	17	28	25	32	26	305
前年度比較	4	△5	△4	2	3	9	△1	△1	2	±0	13	△2	20

形成外科

〔非常勤医師〕 石川 陽子 神野 千鶴

【平成 25 年度の診療状況等】

毎週月曜日に京都大学から派遣される担当医が、皮膚科の先生方と連携し、診療を行っています。午前が外来で午後が手術となっています。

形成外科は皮膚の外科と考えていただければいいと思います。全身のケガやヤケドなどの外傷を受けた時に、なるべく傷跡が目立たなくなるように治していくことを目標としています。また、出来てしまった傷痕を手術や保存的方法で治していくことも行っています。特に顔面に関しては鼻骨骨折を含め、形状及び機能温存に少なからず形成外科が関与することになります。

皮膚腫瘍の切除、再建、眼瞼下垂の手術、顔面・手足の先天奇形や蜂窩織炎（皮膚の腫れや膿）、褥瘡（とこずれ）、陥入爪（まきづめ）の治療なども行っています。また、ほくろや老人性のイボ、しみやアザの診療も行っています。 範囲が多岐に渡りますので、さらに専門性を要する場合は他機関に紹介させていただくこともありますが、まずは、気軽にご相談下さい。

脳神経外科

[常勤医師] 廣瀬 敏士 松田 謙 山内 貴寛
[非常勤医師] 新井 良和

【平成 25 年度の診療状況等】

平成 25 年度の目標として、血管内手術の件数増加を挙げ、着実に手術件数を増やすことができました。これにより total の手術件数も昨年を上回ることができ、当科の activity も up しています。今後も引き続き開頭手術、血管内手術を balance よくおこなって、嶺南地域の数少ない急性期脳神経外科施設として活動してまいります。

脳梗塞治療は、全症例を脳神経外科が担当するようになり 2 年目となりましたが、質の高い治療を行うことができていると自負しています。t-PA に関しては、発症 4.5 時間以内まで適応が拡大しましたので、可能な限り投与を行って少しでも患者さんの症状改善に努めています。また t-PA failed の症例や発症 4.5 時間以降 8 時間以内の症例に関しては、今後血管内手術による血栓除去術を積極的に行っていく必要があり、現在整備中です。

脳ドックについては、頸動脈エコーを開始し頸動脈病変の検出に一定の成果がでております。MRI と合わせてより正確な脳疾患の検出が行えるものと考えます。

手術統計は下記のとおりです。

平成 25 年度手術統計

《脳 腫 瘍》

摘出術	3 例
生検術	1 例

《脳血管障害》

脳動脈瘤

破裂脳動脈瘤クリッピング術	8 例
未破裂脳動脈瘤クリッピング術	2 例

脳梗塞

浅側頭動脈・中大脳動脈バイパス術	0 例
------------------	-----

脳出血

開頭血腫除去術	11 例
定位的脳内血腫除去術	0 例

《外 傷》

急性頭蓋内出血除去術	3 例
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	10 例

《水 頭 症》

脳室腹腔シャント術	5 例
-----------	-----

心臓血管外科

〔非常勤医師〕 腰地 孝昭

【平成 25 年度の診療状況等】

心臓血管外科の診察は、毎月第 2 および第 4 金曜日となっており、午前に外来診療、午後には静脈瘤等の外来手術及び硬化療法を行っております。

当科での診療疾患は、心臓疾患（虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患、虚血性・拡張性心筋症）、大血管疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤）、末梢動脈性疾患（腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、バージャー病）、静脈性疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤）となっております。

これらの疾患への外科的治療の必要性についてのご相談や、手術後の外来通院加療を行っております。心臓・大血管の治療に対しては術前に詳細な検査が必要となりますので、循環器科と連携を取りながら行っております。

当科では患者様の心臓・血管に関する相談にも十分に対応し、ご希望に応じて適切な検査や治療等についてアドバイスさせて頂きたいと考えております。

小 児 科

〔常勤医師〕 原 慶和 湯浅 光織 鋸谷 麻紗巳

〔非常勤医師〕 川谷 正男、西田 公一、米谷 博

〔非常勤カウンセラー〕 塩本 毅明

【平成 25 年度の診療状況等】

当科における若狭地区小児医療の役割としては地域の中の病院としての機能と専門性をもって対応する機能の 2 つを有していると考えます。小児におけるあらゆる問題に対して診断・治療をおこない、当院だけで対応できない疾患についてはその疾患の特異性を考慮した専門病院への紹介を行っております。紹介後も継続した定期フォローアップを要するものではできるだけ紹介先病院と連携して地元での役割を果たすことに力を注いでいます。

平成 20 年 11 月より小児科休日診療を開始しております。これは小浜医師会の行っている休日当番医制度と連携して、小児科標榜医以外の開業医院が当番の日には病院で小児科診療を行うというものです。これにより若狭・小浜管内では休日日中は必ずどこかで小児科医による診察が受けられるというメリットが生まれております。

小児療育にも力をいれ、嶺南では唯一診断機能と療育機能をあわせ持った病院として中心的な役割を果たしています。県の療育センターや舞鶴の療育センターとも共同して日々の診療に従事しています。重度心身障害児、精神運動発達遅滞児に対しての診療はいうまでもなく、現代は ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）や広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）といった発達障害をもつ幼児・児童・生徒などの診断・治療・療育が大切になってきております。最近では中学卒業後の生徒の受診も増えてきています。

療育機能に絡んで平成 20 年 8 月から小浜市内の 5 歳児を対象に「5 歳児健康相談」を行うことになりました。当初のスタッフはボランティア参加で行っていましたが、平成 21 年 4 月からは小浜市の推進事業として進められており、当院はこれに協力しております。

周産期医療では重症合併のない低出生体重児、病的新生児に対しての受け入れを行っています。重症児や超早産児など当科で対応が難しい症例についてはあらかじめ産婦人科より母体搬送を依頼していただき、専門機関での治療をお願いしております。母体搬送ができない症例については応急的な処置後に新生児搬送をするという流れになっております。また通常の出産後のケアにおいては母乳育児を推進し、できるだけ母子カップルとその家族にやさしい病院でありたいと思っております。

専門外来ではアレルギー外来、腎臓外来、内分泌外来、夜尿症外来、神経発達外来、心臓外来、カウンセリング外来を実施しており、当院医師と非常勤医師、臨床心理士で担当しております。

当院当科のありかたに対してさまざまな御意見をいただき、今後の成長に生かしていきたいと思います。一層のご協力を、そしてご期待をお願いいたします。

《専門外来》

アレルギー外来（週 1 回）、腎臓外来（月 1 回）、内分泌外来（月 1 回）
夜尿症外来（予約制）、神経・発達外来（月 1 回）、カウンセリング（予約制）
心臓外来（年 7 回）

《地域保健事業・教育関連事業》

- * 予防接種（外来）：毎週火曜日 午後（予約制）
- * 学校医・嘱託医等：小浜第二中学校学校医、嶺南特別支援学校校医、
小浜市デイサービスケア施設『母と子の家』嘱託医
- * 乳児健診（外来）：毎週水曜日 午後（予約制）
- * おおい町乳幼児健診（なごみ保健センター、あっとほーむいきいき館）
1 歳 6 カ月健診、3 歳健診、その他乳児健診
- * 高浜町乳幼児健診（高浜町保健センター）
1 歳 6 ヶ月健診、3 歳健診
- * 若狭町乳幼児健診（パレア若狭）
3 歳健診
- * 小浜市乳幼児健診（健康管理センター）
6ー7 ヶ月児健診、1 歳 6 ヶ月児健診、3 歳健診、5 歳児健康相談
- * 福井県特別支援教育総合推進事業にかかわる嶺南地区専門家チーム会参加
- * 小浜市就学支援委員会 委員
- * 福井県地域療育拠点連絡会 参加

《発表等》

H25 年 4 月 25 日 APO フォーラム若狭勉強会 講演 於：若狭ふれあいセンター
『小児夜尿症の治療と対応』 原 慶和

H25 年 6 月 12 日 福井県特別支援教育センター研修講座 講演
於：敦賀市総合福祉センター あいあいプラザ
教師のための医学的な基礎知識
『発達障害の子どもの特徴と二次障害』 原 慶和

H25 年 7 月 12 日 福井県小児科医会シンポジウム 於：県医師会館
『若狭地区の小児医療状況』 原 慶和

H25 年 8 月 25 日 第 49 回中部日本小児科学会 於：三重県津市
『当院の低身長診療の現況と市町村・教育現場との連携について』
湯浅 光織

- H25 年 11 月 13 日 県の小児救急出前講座 於:小浜市子育て支援センター
『小児救急について』 鋸谷 麻紗巳
- H25 年 11 月 30 日 高浜町地域医療フォーラム 於:高浜町保健福祉センター
『子供の成長発達と病気いろいろ』 原 慶和
- H25 年 12 月 1 日 第 58 回日本未熟児新生児学会 於:石川県
『出征直後から呼吸障害を呈した X 染色体短腕部欠失の男児例』
湯浅 光織
- H25 年 12 月 8 日 北陸地方会 於:富山
『当院における口唇口蓋裂症例の管理及び予後の検討』 鋸谷 麻紗巳
- H25 年 12 月 14 日 子どもの心診療医養成講座 於:ニューサンピア敦賀
『乳幼児期の発達障害～気づきと育ちのフォロー』 原 慶和
- H26 年 1 月 29 日 子育て講演会 於:敦賀市児童発達支援センター パラレル
『就学までに今やっておくこと～5 歳児健康相談の重要性』 原 慶和
- H26 年 3 月 3 日 子育て講演会 於:おおい町なごみ保健センター
『アトピー性皮膚炎と食物アレルギー』 湯浅 光織
- H26 年 3 月 3 日 子育て講演会 於:おおい町あつとほーむいきいき館
『アトピー性皮膚炎と食物アレルギー』 湯浅 光織
- H26 年 3 月 8 日 福井県小児科地方会 講演 於:福井県済生会病院
『発達障害児の育ちを診る』 原 慶和

産婦人科

〔常勤医師〕 服部 由香 高橋 仁 上林 大岳

〔非常勤医師〕 吉田 好雄、福田 真、折坂 誠、黒川 哲司、品川 明子、服部 克成

【平成 25 年度の診療状況等】

当年度の外来患者数は 1 日平均 26.5 人、入院患者数は 1 日平均 6.7 人でした。

外来では、妊婦健診を延べ 2,317 件、エコー検査（妊婦健診を除く）を 2,185 件、癌検診（ドック以外）を 1,037 件、ドック等検診業務を 338 件施行。

また、助産師による母乳外来ではのべ 426 名の患者様が施術を受けられました。

産科では、分娩数（22 週以降）は平成 25 年度は 212 例で、平成 24 年度は 218 例より若干減少しました。帝王切開率は平成 25 年度 20.2%、平成 24 年度 19.7%からやや増加しました。

母体合併症や早産のための母体搬送は 5 件で、全件福井大学医学部附属病院周産期センターに受け入れて頂きました。

手術室管理での手術件数（帝王切開術を除く）は、平成 25 年度は 12 件、平成 24 年度は 33 件でしたのでやや減少しています。

手術症例数

	平成 24 年度	平成 25 年度
帝王切開	43 例	43 例（うち緊急は 12 例）
子宮外妊娠	1 例	0 例
子 宮		
子宮筋腫	4 例	0 例
子宮頸癌（含前癌）	4 例	1 例
子宮体癌（含前癌）	1 例	1 例
卵 巣		
良性腫瘍	14 例	6 例（うち腹腔鏡は 4 例）
悪性腫瘍（含 境界悪性）	0 例	0 例
その他	9 例	3 例

眼 科

〔常勤医師〕 青木 内匠 宮澤 朋恵

〔非常勤医師〕 赤木 好男、足立 浩造、有村 尚悟、後沢 誠、清水 悠介

【平成25年度の診療状況等】

眼科外来診療は平成 25 年 7 月より常勤医師 1 名、非常勤医師 3 名、看護師 1 名、検査員 3 名、看護助手 1 名で診療を行っており、外来患者数は 1 日平均 65 名となっています。午前是一般外来を（月、水、木）2 診体制、（火、金）1 診体制で実施し、午後については下記のとおりとなっています。診療検査機器はハンフリー視野計、蛍光眼底造影カメラ、網膜光干渉断層計、角膜内皮細胞数測定計、前房フleaー値測定装置、角膜形状測定装置などがあり、様々な疾患の診断や治療効果の評価に対応出来るようになっていきます。平成 25 年 8 月より網膜光干渉断層計が最新機種になり、以前より検査の時間が早くなり、より高解像度で撮影出来るようになりました。

〔木曜日 午後〕

コンタクトレンズ外来を行っております。ハード、ソフト及びディスポーザブル等、各種コンタクトレンズの処方を行っています。特に第 2, 4 週はサンコンタクトレンズ、第 3 週は日本コンタクトレンズの技術員が来院してコンタクトレンズの微調整と特殊なオーダーメイドも可能となっています。

〔月・水曜日 午後〕

手術日となっています。白内障の日帰り手術も行っています。視野検査を予約制で行っています。

〔火、金曜日 午後〕

主に白内障手術説明会、レーザー手術、造影検査、視野検査、弱視外来などを行っています。白内障手術説明会は予約制としており、白内障についての説明、手術方法及び合併症などの説明に十分な時間をかけて、患者様とご家族によくご理解していただくように努めています。第 3 金曜日は福井県からの委託による「厚生相談の日」として視覚障害者手帳交付のための検査を無料で受診することができます。また、小児の視力検査等には時間を要するため、定期的に通院が必要な斜視弱視等の小児患者様のための外来も行っています。

平成 25 年度の手術内容では白内障手術が大部分を占めており、網膜硝子体手術、網膜剥離(buckling)、緑内障手術、その他の前眼部疾患、外眼部疾患の手術となっています。入院病棟は本館 4 階病棟で入院患者様のほとんどが白内障手術の患者様となっています。

硝子体出血（糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症）、黄斑前膜、黄斑円孔、難治性網膜剥離などの網膜硝子体疾患に対し、ほとんどの症例で今までより低侵襲で行える 23G システム硝子体手術を行っています。

平成 24 年 4 月より、加齢性黄斑変性症にたいして抗 VEGF 抗体（ルセンティス®）の硝子体注入療法を開始しております。

嶺南の中核病院として地域完結型の医療を提供できるよう日々努力していく所存であります。今後も患者様にさらなる満足をしていただけるように職員一丸となって切磋琢磨して参りたいと思います。

耳鼻いんこう科

〔非常勤医師〕 伊藤 壽一、石川 正昭、加藤 雄士、河合 良隆、窪 誠太、
坂本 達則、鈴木 良、楯谷 一郎、十名 洋介、中川 隆之、
平野 滋、樋渡 直、三好 拓志、山本 英之

【平成25年度の診療状況等】

平成 20 年 6 月に常勤医師が退職して以降は、京都大学と福井大学から派遣される非常勤
応援医師による週 4 回（月・水・木・金）の外来のみの診療体制となっています。

常勤医師不在の為、基本的には入院・手術診療を行っておりませんので、必要な方は他
院への紹介となり、大変なご不便をおかけしております。その上、若狭地域には、耳鼻咽
喉科医が少ないせいか、慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎、甲状腺腫瘍などの慢性疾患を有した
患者様も多くいらっしゃいますので、今後の常勤医師の確保については、急務であると思
えております。

精神科

〔常勤医師〕 山村 茂樹 鵜戸 逸友 下里 友浩
〔非常勤医師〕 鈴木 馨
〔臨床心理士〕 中川 佐智子

【平成 25 年度の診療状況】

我が国全体の問題ではありますが、特に当院の医療圏内においては高齢化が急速に進んでおり、外来、入院両治療における、認知症診療の割合は増すばかりです。老々介護など認知症を在宅で診ていくときに状況が逼迫することはままたり、3 ヶ月程度で期間を決めて認知症患者に入院頂くことが増えています。今後の国の病床数削減の方針に対応すべく、長期入院、社会的入院の割合を減らしていきたいのですが、認知症患者の入院数増加は当科の平均在院日数を押し上げる主因となっています。

一方で急性期医療や、他科と連携した身体合併症管理やリエゾン精神医療といった総合病院の中の精神科の本来の役割も担っています。今後は近隣の他院などとも連携して、機能分化を進める必要があります。

難治性統合失調症治療薬のクロザピンを使用できるように施設登録の手続きを進めています。100 人に 1 人は発症すると言われている統合失調症に対し、現時点では最先端とっていい治療が行えるよう準備を進めています。

発達障害圏の診療も増えてきています。薬物療法やカウンセリングの必要性は増してきており、我々が専門性を獲得していく必要に迫られています。

平成 18 年度から開始したデイケアは、入院治療と外来治療の繋ぎ役を担っています。平成 26 年 3 月には毎週水曜日を 40 歳以下のデイケアとし、引きこもりの方や、リワークを目指す方にも対応しやすくなりました。

平成 25 年度

入院 平均 79.9 名/日（平均在院日数 202.5 日）

外来 平均 61.8 名/日（初診 304 名 /年）

精神科作業療法（H11.7～） 20 名 /日

精神科デイケア（H18.4～） 13 名 /日

＜外来新患内訳＞（重複あり）

認知症	77 名
不安神経症（不安障害）	54 名
うつ病（うつ状態）	35 名
統合失調症（および近縁疾患）	16 名
不眠症	26 名
適応障害	8 名
不登校	5 名
アスペルガー	6 名

アルコール依存 7 名

その他（気分障害、摂食障害、パニック障害、心因反応、急性ストレス障害、てんかん、せん妄等…）

健診、診断書作成（各種資格、就労用） 20 名

精神発達遅滞（年金申請） 6 名

泌尿器科

[常勤医師] 鈴木 裕志 中井 正治 大江 秀樹 高原 典子

[非常勤医師] 三輪 吉司

【平成 25 年度の診療状況等】

診療体制： 泌尿器科医は前年度と同様に 3 人体制で診療しました。10 月からは中井医師に代わり、高原医師が赴任しました。

外来診療： 平成 25 年度の外来患者累計は前年度と比べ 182 名増加し、保険分累計では増加しました。一方、診療単価はほぼ前年度並みでした。

入院診療： 入院患者数、保険分累計、診療単価は前年度が減少したせいもあり、平成 25 年度は著明に増加しました。これは、平成 25 年 4 月から大江医師が赴任し、泌尿器科医が 3 人体制になったことが大きく影響しているものと考えられます。

手 術： 手術室を使用した手術件数は平成 24 年度が 123 件であったものが、平成 25 年には 128 件（事務的統計とは若干件数が異なります）と微増しました。手術内容の特徴は以下のとおりです。

- 内シャント手術が前年度 33 件であったものが、平成 25 年度は 29 件とやや減少しましたが、その他バスキュラーアクセス関連の手術を含めると 43 件となり、前年度を上回っています。前年度同様に全手術件数の約 1/3 を占めています。
- 腹腔鏡を用いた鏡視下手術は前年度から 1 件増加したのみでした。当科では腹腔鏡下手術は副腎ならびに腎の手術に限定しており、例年これらの手術件数は開腹手術を含めても数件のみです。平成 25 年度は腎摘除術や腎尿管全摘除術はすべて腹腔鏡下手術で施行しています。
- 尿管結石に対する経尿道的尿管結石碎石術は前年度 6 件から 13 件に増加しました。結石に対する手術は体外衝撃波結石破砕術も可能ですが、下部尿管結石に対しては碎石成功率の高い内視鏡手術を選択することが多くなっています。

【学会発表】

大江秀樹、高原典子、鈴木裕志、中井正治、内木宏延：BCG 膀胱内注入量法後に左水腎症をきたした 1 例： 第 442 回日本泌尿器科学会北陸地方会. 2013. 12. 1：金沢

手術統計

		H23 年	H24 年	H25 年			H23 年	H24 年	H25 年
腎疾患	腹腔鏡下腎摘除術(悪性)			2	精巣疾患	精巣固定術		1	1
	腹腔鏡下腎摘除術(良性)			1		高位精巣摘除術		1	
	腹腔鏡下腎部分切除術		1			精巣摘除術	1	1	
	腎部分切除術	1	1			精巣捻転手術		1	
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	2	2	1					
	経皮的腎結石砕石術		1	2	尿道疾患				
	経皮的腎瘻造設術	2	2	1		尿道狭窄手術		1	4
	単純腎摘除術	1				尿道ステント留置術	2	4	
	腎のう胞穿刺固定術			1		外尿道腫瘍切除術	1		
尿管疾患	経尿道的尿管結石破砕術	11	6	13		尿失禁手術(TVT/TOT)	1	1	
	尿管鏡検査			3		尿道周囲膿瘍切除術		1	
	尿管ステント留置術(手術室使用)	1	3	1		尿道結石除去術		1	
					陰嚢疾患				
						陰嚢水腫根治術	1		1
膀胱疾患	経尿道的膀胱腫瘍切除術	21	20	19		精液瘤切除術		1	
	経尿道的膀胱砕石術	4	3	6		精巣上体切除術	1	1	
	膀胱全摘除術	1	2			精巣垂切除術			
	膀胱水圧拡張術	3							
	経尿道的膀胱止血術	1		1	陰茎疾患	環状切開	2	1	4
	膀胱多所生検	1				陰茎形成術			1
					バスキュラークセス	内シャント造設術	31	33	29
前立腺疾患	経尿道的前立腺切除術	10	21	19		人工血管移植術			6
	前立腺全摘除術	6	5	4		内シャント血栓除去術	1	2	2
						その他バスキュラークセス関連手術		4	6
					その他	性器脱手術(TVM)		2	
						陰部皮下腫瘍摘除術	2		
						合計(ESWLを除く)	108	123	128
						ESWL(症例数)	32	22	35
						総計	140	145	163

皮 膚 科

〔非常勤医師〕 澤井 孝宏、西田 育子、濱井 公平、小野 さち子、山本 優美

〔フットケア指導士〕 臼井 由紀

【平成 25 年度の診療状況等】

平成 24 年 3 月に常勤医師が退職して以降、非常勤応援医師による診療体制です。診療日は毎週火曜日と木曜日、第 1・3・5 週の月曜日、第 2・4 週の金曜日となっています。

フットケア指導士の臼井看護師による「フットケア外来」では多くの患者様にご満足を頂いております。

【フットケア外来】

糖尿病の患者が急増する中、その足病変の重要性が認識されています。

平成 22 年 9 月よりフットケア外来を立ち上げ、予約の患者様を対象に臼井由紀看護師が足のケアをおこなっています。

手術センター・麻酔科

[手術センター長(麻酔科主任医長)] 莊司 勸

[常勤医師] 岡 亜紗

[非常勤医師] 田邊 毅、奥河原 渉、小柳 覚、白塚 秀之、福岡 直、森 友紀子、
澤田 直之

[看護職員] 13 名 [看護補助員] 1 名

【平成 25 年度の診療状況等】

当年度の手術件数は 1,545 件であり、昨年度より僅かに減少となっております。

手術室の運営に関しては適宜委員会を開催し問題点の検討と改善を図り、薬剤管理は薬剤師により月に 1 度の点検管理が行なわれ、次年度からは機器の点検・整備のために ME の配置を検討しており、より安全、円滑な手術室の運営に努めています。

手術室看護師においては、患者様への術前訪問を実施し、患者様の不安軽減に役立っており、術中には家族への経過報告をし、家族の不安、心配に配慮しています。術後訪問を行い、患者様の御意見を伺うことにより、次の看護にいかせる様努めています。

【平成 25 年度 麻酔種別 手術件数表】(手術室分)

	全麻	腰麻	局麻	硬麻	伝麻	合計
4月	39	23	80	0	1	143
5月	41	21	67	0	3	132
6月	35	16	71	0	1	123
7月	52	19	65	0	1	137
8月	48	17	66	0	3	134
9月	40	18	59	0	3	120
10月	43	22	62	0	2	129
11月	38	9	65	0	0	112
12月	50	21	59	0	2	132
1月	41	17	60	0	1	119
2月	46	16	59	0	4	125
3月	48	20	71	0	0	139
合計	521	219	784	0	21	1,545

放射線科

[常勤医師] 丸山 市郎 川上 悟司

[非常勤医師] 岡沢 秀明

【平成 25 年度の診療状況等】

放射線科は、平成 25 年度は常勤 2 名、非常勤 1 名の体制で診療を行いました。

放射線診断部門では、常勤医師 1 名による C T ・ M R I の読影、血管造影、I V R と非常勤医師 1 名による核医学診断を行いました。核医学診断、単純 X 線写真、上部消化管検査、注腸検査、時間外および診断医の多忙時の読影は遠隔診断システム（京都プロメド）にて対応しました。放射線診断装置に変更は無く、64 列 M D C T、1.5 T の全身用 M R I、P E T - C T、I V R - C T、心臓・脳血管用フラットパネル血管造影装置、フラットパネル X 線テレビ、C R 一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置により撮像された画像に対して診断を行いました。平成 26 年 1 月からの電子カルテの運用開始に合わせて、放射線情報管理システム（R I S）、医用画像ファイリングシステム（P A C S）の更新を行いました。従来同様にモニター診断による画像読影と電子レポートの配信を継続しました。C T の総件数は 10,075 件（同平成 24 年度は 10,115 件、平成 23 年度は 9,298 件）、M R I の総件数は 3,286 件（同平成 24 年度は 3,160 件、平成 23 年度は 2,501 件）、P E T - C T の総件数は 286 件（同平成 24 年度は 295 件、平成 23 年度は 237 件）となっています。

放射線治療部門では、常勤医師 1 名による放射線治療を行いました。平成 26 年 1 月の電子カルテの導入に合わせて、部門システムである治療 R I S を新規導入いたしました。業務の効率化や精度管理に有用と考えます。平成 25 年度に放射線治療を開始した新患患者数は 43 人で（同平成 24 年度は 35 人、平成 23 年度は 40 人）、診療科別では、外科 18 人、内科 12 人、泌尿器科 9 人、脳外科 3 人、院外紹介 1 人でした。疾患別の内訳は、乳がん 9 人、前立腺がん 8 人、肺がん 7 人、直腸がん 4 人、脳腫瘍 2 人、膀胱がん 2 人、膵がん 1 人、胃がん 1 人、胸腺がん 1 人、食道がん 1 人、転移性骨腫瘍 1 人、バセドウ病眼症 1 人、原発不明がん 1 人でした。

今後も、放射線領域の高度専門的医療を担当することで、地域医療に貢献したいと考えています。

救命救急センター・救急総合診療科

〔救命救急センター長〕 廣瀬 敏士（兼務）

〔常勤医師〕 大森 啓子 和田 亨 岡 正二郎

〔非常勤医師〕 山田 直樹 東 裕之

〔看護職員〕 26名

【平成 25 年度の診療状況等】

大森、岡、和田の 3 人で診療させていただいております。

ガラリとスタッフが変わり、救急総合診療科の平均年齢がぐっと下がり、平均身長がぐっと上がりました。

岡、和田は若手ではありますが、勉強・仕事熱心な医師です。経験不足から、いろいろとご迷惑をかけることもありますが、どうぞよろしくご指導お願いいたします。

平成 25 年度救急総合診療科の取扱件数

日勤帯		救急車	入院数	死亡	日宿直		救急車	入院数	死亡
4月	239	33	31	0	4月	764	87	111	3
5月	277	51	32	2	5月	957	111	120	3
6月	240	40	33	0	6月	810	101	108	1
7月	320	53	51	0	7月	948	145	139	3
8月	320	68	40	2	8月	1,025	147	120	7
9月	234	34	37	1	9月	964	115	125	3
10月	294	53	39	1	10月	743	130	101	1
11月	213	53	37	2	11月	782	105	112	7
12月	229	65	44	0	12月	874	131	96	10
1月	272	60	51	3	1月	994	129	114	11
2月	260	52	46	0	2月	982	101	96	0
3月	245	45	45	2	3月	894	107	94	4
合計	3,143	607	486	13	合計	10,737	1,409	1,336	53
平均	262	51	41	1	平均	895	117	111	4

歯科口腔外科

[常勤医師] 土井田 誠 安藤 幸司

[非常勤医師] 柴田 敏之、畠山 大二郎

[研修医] 林 樹

【平成 25 年度の診療状況等】

歯科口腔外科では、消化器・呼吸器の入り口である顎・口腔の形態と機能のより良い保全に向けて医療の提供を行っております。平成 25 年度の外来患者数は 1 日平均 53.3 人、新規入院患者数は年間 77 人、入院手術件数は年間 72 件（うち全身麻酔手術は 20 件）、外来手術件数は年間 329 件、病理検査件数は年間 144 件（生検 25 件を含む）でした。

当科での取扱い疾患（診療内容）は以下の如くです。

< 歯 科 >

- ・ 一般歯科治療（う歯、歯周炎、義歯などの補綴治療）
- ・ 有病者歯科治療

< 口腔外科 >

- ・ 埋伏歯（埋伏智歯、埋伏過剰歯）
- ・ 顎関節症および顎関節炎
- ・ 顎口腔領域の嚢胞
- ・ 顎口腔領域の炎症性疾患（頭頸部領域の菌性感染症）
- ・ 口腔顎顔面外傷（軟組織損傷、歯の損傷、顎顔面骨折など）
- ・ 顎口腔領域の良性・悪性腫瘍
- ・ 口腔粘膜疾患（白板症、口腔扁平苔癬など）
- ・ 口腔乾燥症・舌痛症

局所麻酔下での口腔外科的疾患の手術（深部埋伏智歯抜歯術、嚢胞摘出術、顎骨骨髓炎手術等）においては静脈内鎮静法を併用し、患者さまに安全でストレスの少ない口腔外科手術の遂行に心掛けております。全身麻酔下手術においては麻酔科・蘇生科医師と検討のうえ手術療法を施行しております。また、全身的な疾患をお持ちの患者さまの手術において

は、関連各診療科の専門医と協力の上で術前～術後管理を一貫して行い、患者さまの口腔顎顔面領域のＱＯＬの向上に努めております。当科の手術日は月曜日の午後および金曜日の午後となっております。

口腔外科においても病-診連携・病-病連携の推進が重要であり、一次医療機関の先生方と患者さまの共同管理に努めながら、病院歯科口腔外科機能の向上を図り、地域住民の皆さまの口腔の健康の維持・増進に貢献したいと考えております。

現在、当科には公益社団法人日本口腔外科学会認定専門医・指導医および卒後臨床研修指導医が常勤しており、今後も岐阜大学大学院医学系研究科口腔病態学分野の柴田教授、畠山臨床講師はじめ専門医師の応援を得て、地域の総合病院歯科・口腔外科として患者さまのために良質な医療の提供を継続したく考えております。当院は平成 18 年 1 月 18 日付で厚生労働省より歯科医師卒後臨床研修施設指定病院（施設番号：051316）、また、平成 24 年 10 月 1 日付で公益社団法人日本口腔外科学会認定関連研修施設（施設番号：関 3029）に認可され、平成 23 年 10 月からは岐阜大学大学院医学系研究科口腔病態学分野より口腔外科医師（研修医）を受け入れ、歯科医師卒後臨床研修を行っており、当院麻酔科の莊司先生の御指導の下、麻酔科研修もさせていただいております。卒後臨床研修の遂行にあたり各科の専門医師および病院職員の皆様には、平素より御支援・御指導をいただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

健診センター

〔健診センター長〕 福井 泉（兼務）

〔副センター長〕 丸山 市郎（兼務）

〔看護職員〕 1 名 〔事務職員〕 1 名

【平成 25 年度の診療状況等】

平成 25 年度の健診センターでは従来通り、1 日ドック、2 日ドック、脳ドック、PET 健診、特定健康診査、各種の健康診断、協会けんぽの健康診断、がん個別検診（肺、胃、大腸）を行いました。

担当は、センター長が福井医師（副院長）、脳ドックを廣瀬医師（脳外科）、その他の健診を小西医師（内科、非常勤）と丸山医師（放射線科）が行いました。他には、看護師 1 名と事務員 1 名が常駐し各種の業務に対応しました。

従来と同様に、消化器センター（胃内視鏡、大腸内視鏡）、循環器科（心電図判定）、外科（マンモグラフィ読影）、婦人科（婦人科診察）、眼科（眼底判定・視力検査）、耳鼻科（聴力検査）、画像診断センター（腹部超音波検査、遠隔画像診断による胸部単純 X 線写真・PET 検査・胃 X 線検査所見、MRI・MRA 読影）、検査科（検体検査、呼吸機能検査、心電図検査）等で院内各部署に協力していただき運営しました。

受診者数は以下のとおりです。

	1 日ドック	2 日ドック	P E T	脳ドック	特定健診	健康診断	協会けんぽ	個別検診
平成 21 年度	625	102	37	106	64	276		
平成 22 年度	641	106	34	124	72	231		
平成 23 年度	700	76	26	135	63	233		
平成 24 年度	698	74	43	108	81	252	124	48
平成 25 年度	712	58	35	142	90	263	216	68

丸山医師が、平成 26 年 1 月に日本プライマリー・ケア連合学会の認定医を取得しました。（平成 26 年度に指導医も取得）

今後も、生活習慣病の予防・早期発見と各種がんの発見を通して、地域医療に貢献したいと思います。

【講演等】

丸山市郎：働き世代の健康維持について（健康診断、がん、たばこ）：平成 25 年 6 月 26 日：平成 25 年度 建設業 労働安全推進大会：若狭地区建設会館

丸山市郎：身近な病気について 生活習慣病とがん検診：平成 26 年 3 月 30 日：第 23 回小浜市食生活改善推進員協議会 すこやか会総会：小浜市健康管理センター

血液浄化センター

[血液浄化センター長事務代行] 鈴木 裕志（兼務）
[血液浄化副センター長] 中井正治（兼務）
[非常勤医師] 堀口孝泰、横山 由就
[臨床工学技士] 4 名 [看護師] 13 名

【平成 25 年度の診療状況等】

血液透析コンソールは 42 台と前年度と同様ですが、臨床工学技士が 4 名から 6 名に増員になりました。また、平成 25 年度の血液透析治療の延べ件数は 14,220 件で前年度の 13,321 件から大きく増加しました。平成 25 年度末の透析患者数は 97 名で前年度から 2 名増加しました。腹膜透析患者数は 4 名で前年度と変化はありませんでした。特殊血液浄化治療については、持続血液ろ過透析 7 件、エンドトキシン吸着治療 (PMX) 8 件、血漿交換 3 件、腹水濃縮濾過透析療法 3 件、白血球除去療法 (LCAP) 2 件でした。

平成 25 年度も 2 名の非常勤医師と腎臓内科専門である院長の指示・指導のもと従来どおり運営しております。夜間・土曜・祝日の血液透析には管理当直医の管理のもと実施しています。また、平日においては複数の診療科医師の支援のもと実施しており、関係している方々に大変感謝しております。上記のごとく、血液透析治療の延べ件数は増加しており、常勤の腎臓内科医の赴任を切望しております。それまではご協力いただける診療科ならびにセンタースタッフ一同が力を合わせ運営していきたいと思っております。

消化器センター

[消化器センター長]	菅野 元喜（兼務）
[常勤医師]	布居 剛洋（兼務）、笠原 勝宏（兼務）
[非常勤医師]	山内 淳一、脇 信也、上田 大輔、島田 礼一郎 米田 健太郎、高田 裕
[看護職員]	2 名
[看護補助員]	1 名

【平成 25 年度の診療状況等】

消化器センター内科部門・外科部門の協力のもと消化管・肝胆膵疾患に対する治療を隔週の消化器カンファレンスの場で適応・治療法の検討を行い、適応可能症例には内視鏡治療・内視鏡手術等可能な限り低侵襲な治療を行っております。

《今後の取り組み》

消化器センター内科部門・外科部門の更なる充実。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
上部消化管検査	2,372	2,461	2,501	40	1.6%
（粘膜切除術）	2	4	4	0	0.0%
（内視鏡的胃ろう増設術）	55	43	36	△ 7	-16.3%
下部消化管検査	903	942	1,022	80	8.5%
（大腸ポリープ切除術）	32	9	8	△ 1	-11.1%
（シグモイドファイバー）	7	2	1	△ 1	-50.0%
気管支ファイバー	20	25	84	59	236.0%
膵胆管造影検査	132	105	129	24	22.9%

薬 剤 部

[職員数] (非常勤職員含む)

薬剤師 11 名

薬剤助手 4 名

【平成 25 年度の診療状況等】

23 年 10 月に育休者が復帰し久しぶりにフルメンバーになりましたが 25 年 3 月に 2 名退職することになり、関西方面の薬学部を訪問して学生の紹介を依頼するなどして募集をしていますが応募者がいない状況です。

チーム医療では、ICT、NST、褥瘡対策チームに参加していますが、緩和ケアチームは人員不足のため参加できない状況にあります。

注射調剤は、処方せんにより Rp 毎に休日も含め毎日払い出しています。休日は 2 名で対応しており、勤務扱いのため平日に代休処理しています。

薬学生の実務実習は、福井県内は数名であり当院では対象者がなく受け入れませんでした。

画像診断センター

〔画像診断センター長〕 川上 悟司（兼務）

〔放射線技師〕 11 名 〔看護師〕 6 名

【平成 25 年度の診療状況等】

画像診断センターは放射線科診断専門医をセンター長として医師、診療放射線技師、看護師をはじめそのほか関係する各部署の職員から構成されています。

画像診断センターは機械、撮像、読影の精度を管理しています。これらは画像診断の臨床レベルを高めるために重要な項目です。

今日、疾患に対する検査、治療方法は目覚ましい進歩と多様化がみられます。現在、当施設でも高速撮像が可能なボリューム CT や高磁場 MRI や PET-CT といった機器が導入され稼動しています。放射線科以外の科でも院内で X 線を用いた消化管造影検査や血管造影といった画像診断およびそれを用いた治療が行われています。

画像診断センターでは安全で価値の高い画像診断の施行や、看護師や関係する各部署との連携をより強固にするために人材育成を含めた環境整備を行っています。今年度はハード面では病院の電子カルテの導入と同時に部門システムの更新を行いました。ソフト面では医師の下での画像情報の管理、CT における技師の専従の実現などといった点で画像診断の体制を整備しました。

今後も引き続き医師は専門医による読影を通じて、診療放射線技師は撮像技術を基礎として装置の性能評価、精度管理や保守および検査の安全性などの知識と基礎的な臨床知識をもって画像診断のレベルを高める努力を行います。

画像診断センターではこのような方針のもとで、より一層精度管理を確保するとともに最新の医療技術に対応した最善の画像情報を提供し、安全を担保することで地域のニーズに寄与します。

臨床検査科

[職員数] (平成 26 年 4 月 1 日現在 非常勤職員含む)

臨床検査技師 15 名

【平成 25 年度の業務内容等】

●検査件数

検査件数（外注を含む総件数）は、H21 年度 708,372、H22 年度 720,620、H23 年度 792,980、H24 年度 829,824、H25 年度 846,881(医療行為月報を基に集計)と増加が続いています。

限られた人員で正確かつ効率的な業務を遂行するため努力しています。

●精度管理検討会について

元病院長の小西先生に引き続き臨床検査の指導・管理をお願いし、毎週一回行なっているミーティング時に、主に内部精度管理について各分野交替で状況報告と意見交換をし、小西先生から助言等を頂いています。外部精度管理については、日本臨床検査技師会の全国コントロールサーベイ、福井県臨床検査技師会のコントロールサーベイ他、試薬メーカーのサーベイ等に参加し各分野とも良好な成績を得ていますが、この検討会でもディスカッションを持ち、成績を全員で確認しています。試薬・装置・コントロール検体・手技等について具体的に変更・改善した事が多く、検査精度の改善につながっています。

今後も引き続き取り組み、検査の質の向上を図りたいと考えています。

●院内感染対策委員会

狭義の院内感染のみならず、多様な感染症に関する情報提供、予防・診療の検討、指針の策定や指導も行なっていますが、臨床検査技師も中心的な任務を担っています。今後、院内感染対策はますます重要になると考えられ、その活動の充実のため努力していきたいと考えています。

●糖尿病療養指導

糖尿病療養指導士の資格保有技師が 2 名おりますが、患者様の期待に少しでも応えられるよう、学会や研修会に参加して蓄積を増やしながら進めています。

●臨床検査システム・電子カルテシステム

今般、電子カルテシステムが稼働し、従来の検体検査系に加え、生理機能検査システムと病理検査システムの導入、また輸血検査システムの連携稼働、さらに細菌検査システムの感染対策情報管理システムへの拡大等が図られました。

●その他

検査精度（正確性・精密性）の向上を基本にしながらも、検査試薬・機材等のコストパフォーマンスについて留意し、検討・改善を進めていく予定です。

病 理

〔非常勤医師〕 内木 宏延（福井大学医学部 分子病理学教授）

【平成 25 年度の診療内容等】

病理組織診断件数は、昨年度減少しましたが、今年度は、昨年度 1814 件と比べ 1875 件と増加しました。提出科別には、内科・循環器科(50%)、外科(38%)、その他の科となっています。検査材料別には、生検・ポリペクトミー等（消化器・呼吸器・泌尿器・皮膚・子宮頸部他）が 75.0%を占め、手術検体・腫瘍等の摘出検体が 25.0%の比率となっています。

術中迅速病理診断は 14 件で、内容は、消化器系（11）、呼吸器系（1）、乳腺腫瘍（2）となっています。術中迅速病理診断は、ごく限られた検体（範囲）から特殊な手法により直ちに標本を作製するため、かなり制限された条件下の病理診断となりますが、診断精度の維持・向上に努めています。遠隔病理診断（テレパソロジー）は 4 件実施致しました。

また、病理診断の一部である細胞診検査に関しては、当院の細胞検査士（スクリーナー）への指導・ディスカッションを行なっています。現在、細胞検査士が 3 名常勤しており、所要時間（日数）・処理能力・診断技術面で日々、向上に努めています。悪性腫瘍（がん）の発見・診断・治療にとって、細胞診検査はきわめて重要なものであり今後ますます必要性が高まっていくと考え、地域の中核医療機関として今後もこの態勢を維持することが期待されます。

病理解剖（剖検）については、非常勤のため剖検自体を担当（執刀等）することは困難ですが、固定後臓器の検索・標本作製・病理診断を行なっています。C P C（臨床病理検討会）は、一般的にはこのような病理解剖例について解剖で得られた知見を、医師をはじめとする多くの関係スタッフで共有し、今後の診療に活かすために行なわれます。当院でも定期的に行なっており、今年度は 8 症例実施しました。剖検例に限らず多彩な症例を取り上げ充実したものになっています。ただし時間的制約があることや、参加職種がやや偏りがちであるのが今後の改善課題かと考えます。

25 年度は、電子カルテ化に合わせ病理システムを導入することにより、診断・画像情報の一元管理、各依頼端末での診断結果参照が可能となります。

リハビリテーション科

〔職員数〕（平成 26 年 4 月 1 日現在 非常勤職員含む）

理学療法士 10 名 作業療法士 9 名 言語聴覚士 4 名

補助員 5 名

【平成 25 年度の診療状況等】

I 各療法別の紹介

理学療法

1 活動報告

1) 診療内容

理学療法の対象疾患は脳卒中、下肢骨折などの整形疾患、呼吸器疾患、心疾患、小児疾患、廃用症候群など様々です。入院・外来の患者様に対して評価をし、計画を立てて、個々の状態に合わせてベッドサイドやリハビリ室での理学療法を行います。早期より介入し離床を進めることで活動性低下による廃用症候群を予防・改善し、早期退院を目指します。

理学療法の内容は、筋力トレーニングや関節可動域練習、神経筋促通などの運動療法や、寝返り・起き上がり・座位・立ち上がり・歩行などの基本動作練習を中心に行っています。

その他に、消炎鎮痛目的に物理療法も行っています。また、PT・OT・ST と共に退院前カンファレンスや退院前居宅訪問にも積極的に介入し、退院後のよりよい生活が送れるように、家族・ケアマネージャー・介護サービススタッフ・福祉用具専門員などと情報交換を行っています。

2) 昨年度との比較

処方内容の廃用症候群ですが、保険診療請求に問題が発生し、かわりに運動器不安定症の診断名に変更をしています。リスク管理に十分に配慮しなければならない環境が気になる所です。

3) 今後の課題

今後は、今まで以上に院内外の他職種との連携を密にとり、リスク管理の徹底、そして患者様の ADL(日常生活活動)や QOL(生活の質)の向上を目指し取り組んでいきます。各セラピストが認定や専門の取得を積極的に行い、専門性の向上に努めます。患者様・地域のニーズに応えるため、急性期リハビリの強化、維持期のフォロー体制の確立が必要であると考えます。

経営効率にも配慮した理学療法の展開が必要であると考えます。

2 研修会、学会参加

- | | |
|---------------------|----------------|
| ・ 福井県心肺リハビリテーション研究会 | ・ 福井県士会主催研修会 |
| ・ 地域支援部主催地域リハ研修会 | ・ 日本理学療法学術大会 |
| ・ 日本心臓リハビリテーション学会 | ・ 福井県理学療法学術大会 |
| ・ 日本理学療法士協会基礎講習会 | ・ 福井県リウマチケア研究会 |
| ・ HAL 講習会 | ・ 福井県脳卒中連携協議会 |

3 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・松井文昭：「ARDS 発症後、人工呼吸器離脱困難となった症例」
福井県理学療法学会 2013. 2
- ・松井文昭：「学会のすすめ-学び続ける専門職を目指して-」
福井県理学療法士会二州・若狭ブロック合同研修会 2013. 3
- ・茶谷志保：「橋梗塞発症し機能回復を果たしたにもかかわらず、生活満足度が低い値となった男性」
福井県神経理学療法学会 2013. 2
- ・介護予防・リハビリ推進人材事業 従事者研修会
- ・看護部院内勉強会
- ・看護学校講義

身障作業療法

1 活動報告

1) 診療内容

身体障害作業療法では、主に脳卒中、上肢骨折などの整形外科疾患、内科疾患などの患者様を対象に、日常生活動作がより円滑になるようリハビリを行っています。内容は、1)起居・座位などの基本動作練習、2)食事・排泄・更衣等の生活動作練習、3)注意・記憶等に関する高次脳機能練習、4)生活環境設定、5)関節運動・筋力運動・姿勢コントロールなどの機能的作業療法などを行っています。

また、発達作業療法では、言語発達遅滞、広汎性発達障害などの小児科患者様を対象に、生活活動練習・発達全般に関する支援を行っています。

2) 昨年度との比較

身体障害作業療法では、実施単位数が増加しており、患者様1人あたりのリハビリ時間が増えています。

発達作業療法では、実施単位数が増加した平成 24 年度、同様の実施数が得られました。

3) 今後の課題

疾患の特性に応じた、より効果的な作業療法の提供に努めます。特に急性期、回復期のリハビリの充実を図ります。日常生活活動に関する作業療法の充実にも努めます。また、勉強会・研修会に積極的に参加し技術の向上を図ります。同職種間、他機関との連携の強化を図ります。リハビリを実施するにあたり安全管理に努めます。

2 研修会、勉強会参加

- ・全国作業療法学会
- ・全国自治体病院協議会
- ・福井県リウマチ研究会
- ・福井県活動分析研究会
- ・院内外作業療法士勉強会
- ・生活行為向上マネジメント研修会
- ・嶺南地区視覚障害教育研修会
- ・嶺南地域保健・福祉・環境関係職員研修

3 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・前田真由美、竹野健一、他：関節リウマチの増悪により重度の褥瘡を呈した症例を経験して：第 20 回福井県リウマチ研究会 2013. 8
- ・看護学校講義

精神作業療法

1 活動報告

◎精神科作業療法

1) 診療内容

①活動性・自主性の向上。②対人関係、人付き合いの練習をする。③生活リズムの調整。
④認知・身体機能の維持、改善。⑤活動と休息のバランスを身につける。⑥感情の表現と
発散、気分転換。⑦自己価値の再発見。⑧日常生活に必要な生活技能の練習をする。⑨興
味の拡大。⑩社会性の向上。⑪自己理解を深める。を目的に、入院・外来患者様の症状に
合わせ実施しています。

2) 昨年度との比較

患者様の必要性に合わせて、プログラムの変更を行っています。

3) 今後の課題

認知症患者様の対応、安全管理の徹底、退院促進、地域生活の援助、就労支援に努め
ます。

精神科デイケア

1) 診療内容

①通所者の居場所を提供し、生活圏・対人交流範囲の拡大を図る場。②様々なグループ
活動を通じて、円滑な対人交流、社会性、自主性を獲得する場。③生活リズムを維持し、
日常生活技術を獲得する場。④個々の通所者の病状、能力に見合った現実的な就労支援を
する場。⑤医療的な関わりによって病状の再燃を防止し、病状悪化の際はそれを早期に把
握するなど、通常の外来診療を補完する治療の場。⑥同居している家族との適切な距離を
保つために、日中過ごす場。⑦疾患のセルフコントロールの学習・練習の場。これらの役
割をベースに、患者様個々の目的・目標に近づけるように、多職種が連携して日々様々な
大小の集団プログラム（月に20弱のプログラム数を実施）を運営しています。

2) 昨年度との比較

患者様の要望や必要性に合わせて、月毎のプログラムは変更しています。

今年度よりアンダー40 デイ(若者対象プログラム)を隔週から毎週水曜日に増やしました。

3) 今後の課題

多様化する通所者様の目的や目標の傾向に応じたプログラム運営、安全管理の徹底に努
めます。

2 研修会・勉強会参加

- ・福井県嶺南地区精神科事例検討会
- ・県士会主催の各種研修会・勉強会
- ・ジョブガイダンス

言語聴覚療法

1 活動報告

1) 診療内容

成人患者様では主に摂食・嚥下訓練、失語症訓練、構音訓練、高次脳機能訓練を行って
おります。中でも、摂食・嚥下訓練を必要とされている患者様が多く、食べ物を使用しない間接的

訓練や実際の食べ物を使用して行う直接的訓練を行っています。小児患者様では主に構音訓練や言語発達遅滞、広汎性発達障害などの方に対して言語・コミュニケーション訓練などを実施しています。地域からのニーズも高く、患者様の増加が見られています。

2) 昨年度との比較

小児分野において地域療育拠点事業の一環として、こども療育センターからの職員派遣を引き続き行っています。

今年度は職員の退職に伴う新人職員が入りましたが、産休職員に対する補充がなかったため、マンパワー不足に陥りました。

3) 今後の課題

患者様にとってより良い摂食・嚥下訓練を行うため、さらに詳しい評価の確立が望まれ技術の向上に取り組んでいます。

また、言語訓練を行う際、注意・集中力などの面から個室を使用して行う場合が多くあります。しかし、部屋数が限られており、交代で使用しているため、場所の確保が望まれます。引き続き安全にリハビリが実施できるよう安全管理に努めます。

2 研修会・勉強会参加

- | | |
|---------------|--------------|
| ・嶺南地区言語聴覚士勉強会 | ・吃音講習会 |
| ・福井言語聴覚学術大会 | ・NST カンファレンス |
| ・老健勉強会 | ・小児療育勉強会 |
| ・PECS 研修会 | |

3 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学校講義
- ・施設への介護予防講義
- ・介護予防センターでの講義

物理療法

消炎、鎮痛を主な治療目的として多くは整形外科的疾患が対象です。機器・器具はホットパック、マイクロ波治療、赤外線治療、低周波治療、頸・腰椎牽引装置です。

II 各科カンファレンスの実施

昨年度に引き続き各科カンファレンスを積極的に実施しています。

内 科:月2回。医師と看護師を交え入院患者様の現在の様子や情報交換など行い、今後の方針などを話し合います。

脳 外 科:月2回。医師と看護師を交えて入院患者様の現在の様子や情報交換など行い、今後の方針の検討など話し合います。

整 形 外 科:月1回。医師と看護師と地域連携室の方を交えて、患者様の現在の様子や退院に向けての状況など情報交換や今後の検討など話し合います。

小 児 科:月2回。医師と患者様の現在の様子や今後の方針などを話し合います。

精神神経科:週2回(入院、外来各1回)。医師、看護師、ソーシャルワーカーを交え、患者様の症状の情報交換や今後の方針など話し合います。

リハビリ科:月1回。リハビリスタッフ内で情報交換など行い、今後の患者様の治療方針などを話し合います。

Ⅲ 介護予防・リハビリ人材養成推進事業の事業展開

若狭圏域広域支援センターとして、地域の各関係機関に対して相談支援・現場指導・研修会などを実施し、リハビリテーション理念の浸透に努めました。

訪問事業

1) 事業目的

当事業は、より効果的な自立支援サービスの提供が可能となるように、居宅並びに施設へ、リハビリテーションスタッフが訪問し、リハビリの方法を検討・指導するものであります。

2) 事業内容

個別指導では、利用者様の動作の現状を評価した上での在宅改修アドバイス、動作や介助方法、介護者が出来るリハビリ内容指導でありました。対象者は、自宅生活をされている要介護状態（要介護1～4）であり、2件は当院リハビリテーション科にて受療歴のある方、1件は受療歴のない方であった。また、3対象者様ともに介護保険サービスを利用しているが、リハビリ専門スタッフを有する施設のサービスは利用されていませんでした。

施設職員に対する指導では、訪問スタッフに対し、基本動作や移乗動作における介助方法について実技、講義を行いました。

3) 今後の展望

当事業の利用数は、平成21年から本年までほぼ横ばい状態である。当事業の周知活動が不十分であることは否めないですが、当圏域においてリハビリ指導を専門スタッフから受ける対象者が増えてきていること、さらに近年行政や他の事業所様でも介護講習や研修会なども積極的に開催されており、技術向上のための環境も整ってきていることが大きな要因と考えられます。このような状況下、当事業の運営方法、事業内容を再検討していく必要があるのではと考えます。

介護予防事業

1) 事業目的

当広域支援センターでは、平成12年度から始まった地域リハビリテーション整備推進事業の一環として、「健康づくりの推進」と「介護予防の強化」を目的として事業を開始しました。

当初より、予防的リハビリテーションの観点から、また嶺南圏域でのリハビリスタッフの不足という課題を抱えていたことから、地域住民自ら地域を支える体制を作る事を目的とし、小浜市をモデル地区として様々な既存団体への介入を中心に当委員会は事業展開を行ってきました。

平成14年度からは、サロンへの介入を中心とし、平成16年度からはサロンのリーダー育成を重点とした研修会（以下：リーダー研修会）を開催しました。平成19年度からは、各市町の包括支援センターと連携し、小浜市のみでなく若狭圏域での活動を開始しました。

2) 事業内容

今年度、当委員会は研修会での講義・体操の内容に関して、サロンのリーダー研修にとらわれず各地区のニーズに添うよう提案していくことを運営方針として挙げました。

今年度の研修会の特徴としては、小浜市に関してはリーダー育成だけでなく地区の老人会の発足に向けた活動や地域住民への介護予防目的の体操指導に焦点を当てて行いました。高浜では、昨年まで合同サロンで行っていた研修会を今年度よりサロンリーダーのみの参加としました。また、若狭町、名田庄地区、大飯地区は昨年と同様にサロンリーダーへの介入を行いました。

昨年度までに作成した 14 種類の体操を、各地区の要望に沿って紹介し（表 1）、今年度、当委員会が介入し実施したリーダー研修会は下記のようになります。（表 2）

表 1.体操種類（H19～24 年度）

体 操 種 類	内 容
上肢・下肢ストレッチ	筋肉の柔軟性を高める
タオルストレッチ	身近な道具を使い、筋肉の柔軟性を高める
ペットボトル体操	身近な道具を使い、筋力強化、バランス能力の改善を図る
尿失禁予防体操	尿失禁予防
頭の体操、個人編・集団編	手足を動かし、頭の体操を行う
カユイゆかい体操	上肢・体幹の柔軟性を高める
新聞体操	「手のひらを太陽に」の音楽に合わせ、上肢・体幹の柔軟性を高める
バランス能力低下予防体操	「手のひらを太陽に」の音楽に合わせ、転倒予防体操を行う
頭の体操	「手のひらを太陽に」の音楽に合わせ、頭の体操を行う
肩こり予防体操	「上を向いて歩こう」の音楽に合わせ、肩こり予防体操を行う
ハンガー体操	「上を向いて歩こう」の音楽に合わせ、上肢・体幹の柔軟性を高める
ぽっこりお腹体操	「上を向いて歩こう」の音楽に合わせ、体幹の運動を行う
あつちょこ運動	日常の動作に合わせて「～しながら」全身の体操を行う
腰痛体操	腰痛に対してのストレッチ、筋力強化の体操を行う

表 2. H25 年度研修会内容

	日付	内容	参加人数	委員スタッフ人数	対象者
小浜市					
	2013/11/21	講義、あっちよこ体操、頭の体操	15	3	地域住民
第 4 回	2014/1/29	腰の体操	約 90	3	サロンリーダー
おおい町(名田庄)					
第 1 回	2013/9/25	ぽっこりお腹体操編、レクリエーション	20	3	サロンリーダー
第 2 回	2013/10/21	あっちよこ体操、ぽっこりお腹編、レクリエーション	21	3	サロンリーダー
おおい町(大飯地区)					
第 1 回	2013/9/17	座ってできる手足の体操、嚥下体操、頭の体操(集団編)	14	2	サロンリーダー
高浜町					
第 1 回	2013/10/7	頭の体操、腰痛・膝痛予防体操(基礎編)	40	2	サロンリーダー
第 2 回	2013/10/29	頭の体操(応用編)	25	2	サロンリーダー
若狭町					
第 1 回	2013/11/14	ぽっこりお腹体操	58	2	サロンリーダー

3) 今後の展望

どの地区でもサロンの効果判定が求められています。現在の効果判定に関しては、アンケートが主な評価スケールになっているがアンケートのみでなく、負担にならないような共通の簡単なチェックシートを各地区と協力して作成し実施状況を確認していくことも一つの方法ではないかと考えます。

従事者研修会事業

1) 事業目的

介護予防に関する従事者研修会の開催により、地域リハビリテーションに携わる様々な職種の方が、より質の高いサービスを提供できるように支援します。

2) 事業内容

①第 1 回従事者研修会 (資料 1)

テーマ：「BPSD を考える ～私たちみんなと一緒に、認知症の方の心を想像し、
BPSD を理解してみよう～」

日時：9 月 27 日(金) 18:30～20:30

場所：杉田玄白記念公立小浜病院 9 階大会議室

講師：介護老人保健施設ゆなみ 言語聴覚士 寺川智浩 先生

内容：BPSD についての講義

事例のビデオ

グループワーク

参加者人数：57 名

②第2回従事者研修会（資料2）

テーマ：「認知症リハを考える ～さまざまな領域、多職種からの挑戦～」

日時：10月23日（水） 18：30～20：30

場所：杉田玄白記念公立小浜病院 9階大会議室

講師：介護老人保健施設ゆなみ 言語聴覚士 寺川智浩 先生

内容：認知症（脳機能の観点から）についての講義

活動報告、実践

活動についての解説、アドバイス

参加者人数：49名

3) 今後の展望

今後に関しては、認知症に対する効果的な作業、レクリエーションを教えて欲しいという意見の他に、介護保険制度について、医師・看護師からみた介護予防や対応、職員のストレス解消、各施設間の連携についてなどの研修を希望する意見がみられました。

研修会の開催にあたっては、運営委員会の皆様のご意見や前年度のアンケート結果等を参考にテーマや内容を決めています。「認知症」に関する研修は毎年希望が高く、ここ数年は同じテーマでの開催になっています。一方で違った内容が聞きたいとの声もあり、今後の方向性は検討していく必要があると考えます。

IV 地域支援体制

障害児通園施設指導を行いました。

- ・母と子の家 作業療法指導（月1回、計12回）

V 実習生の受け入れ

教育研修機能の充実、及びリハビリテーション職種の後輩育成の為、当科開設以来実習生を受け入れています。理学療法、身障作業療法、精神作業療法の3部門において福井県内の養成校を中心に評価・臨床実習に来ています。期間は4～8週間、人数は各部門ごとに3人～10人を受け入れています。

VI 認定士資格の現状

各取得認定、資格など

- ・循環器認定理学療法士1名
- ・心臓リハビリテーション指導士：理学療法士2名
- ・3学会合同呼吸認定療法士：理学療法士2名

食事療法科

【職員数】（平成 26 年 4 月 1 日現在 非常勤職員含む）

管理栄養士 3 名 栄養士 5 名 調理師 9 名 事務職員 1 名

【平成 25 年度の診療内容等】

- ① 患者食管理（食数管理）
- ② 材料管理（見積り管理、納品管理）
- ③ 栄養管理（献立管理）
- ④ 栄養管理計画書作成
- ⑤ 入院、外来栄養指導
- ⑥ 栄養サポートチーム（NST）による低栄養患者さまの改善
- ⑦ その他（栄養指導関連行事参加）

【新たな取り組み】

- ① 入院患者様に栄養管理計画書を作成し、必要な栄養量を提示することが継続してできました。（平成26年1月より栄養管理システム導入）
- ② 毎月、行事食や旬の食材を使用した献立をしおりなど添えて提供することができました。
- ③ 栄養サポートチームにて、低栄養の患者さまの改善を図ります。（平成26年1月よりNSTシステム導入）
- ④ 褥瘡委員会に継続して出席し、回診にも参加することができました。
- ⑤ 心臓カテーテル検査の患者様への栄養指導を実施することができました。

【今後の取り組み】

- ① 患者様アンケートを充実させ、患者様に喜ばれる食事内容と器に関する検討を行います。
- ② 栄養指導の充実を図り、実施件数を増やします。
- ③ 集団栄養指導の実施件数を増やします。
- ④ 栄養管理計画を充実させ、他部門との連携を図り低栄養の患者様の改善を図ります。
- ⑤ 栄養サポートチームの介入実施件数を増やします。

【平成25年度業務統計】

食 数

常 食 55,016食 軟菜食 128,209食 流動食 1068食 特別食 159,812食

栄養指導件数

集団指導 2 件 入院栄養指導 139 件 外来栄養指導 66 件

栄養管理実施件数

栄養管理件数 2,472 件

看護部

[職員数] (平成 26 年 4 月 1 日現在 非常勤職員含む)

看護師 252 名 助産師 14 名 准看護師 34 名 看護補助員 44 名

看護部の理念・方針・目標

【看護部理念】

地域の皆さまのその人らしい生活の実現に向けて、安全・安心な看護を提供します

【看護部基本方針】

1. その人らしさを大切にする看護を提供します
2. チーム医療に積極的に参加します
3. 教育機能の充実に努めます
4. 専門職業人としての自覚と誇りを持てる人材を育成します
5. 経済性に配慮した取り組みをします
6. ワークライフバランスを推進します

【平成 25 年度看護部目標】

1. 看護実践力の強化
2. 働く意欲をもてる職場づくり
3. 医療安全の推進
4. 接遇の向上
5. チーム医療への積極的な参画

平成 25 年度 看護部活動

月	日	内容
4 月	1 ～ 8 日	新人看護職員オリエンテーション
	1 1 日	新人看護師ローテーション研修開始（5 月 2 4 日）
	2 3 ～ 2 5 日	看護学生就職勧誘のための家庭訪問
	2 6 日	若狭高等看護学院学生対象 就職説明会
5 月	9 日	看護の日記念行事
	2 5 日	福井県看護協会主催就職説明会（嶺南）に参加
6 月	8 日	福井県看護協会主催就職説明会（嶺北）に参加
7 月	2 3 日	福井県看護協会主催「看護への道」講師派遣2名（辻京子、田中友子）
	3 0 日	福井県看護協会主催「高校生看護一日体験」受け入れ(52名)
8 月	7 日	看護師長対象研修「労務管理」開始（～2 月まで）
9 月		
1 0 月		
1 1 月	2 日	師長主任研修 「目標管理」中間評価 看護部 伝達講習会
1 2 月		クリスマスカード配布（入院患者に）
1 月	1 2 日	電子カルテ導入
2 月	2 1 日	第 1 回診療体制等検討会 参加
	2 4 日	医療監視
	2 7 日	第 2 回診療体制等検討会 参加
3 月	1 日	師長主任研修「目標管理」最終評価、「次年度看護部目標」立案
	7 日	福井県立大学看護学科 就職説明会の参加
	1 0 日	第 3 回診療体制等検討会 参加 （H26年度～西3階病棟は療養病棟での運営決定、準備開始）
	1 4 日	院内看護研究発表会
	1 9 日	敦賀市立看護大学 訪問
	2 4 日	研修室引っ越し 南館 2 階
	2 7 ～ 2 8 日	H 2 6 年度 看護部新人看護職員対象オリエンテーション

平成 25 年度 看護部委員会活動

委員会	活動内容
教 育 委 員 会	☐ クリニカルラダーⅠ～Ⅴ 研修企画・実施・評価 ☐ 看護補助員と事務員研修企画・実施・評価 ☐ 伝達講習会、看護研究発表会企画・実施・評価
安 全 対 策 委 員 会	☐ ヒヤリ・ハット体験事例報告書の集計と情報共有 ☐ 安全対策ラウンドの企画・実施・評価 ☐ 危険予知トレーニングの実施 ☐ クリニカルラダーⅡ,Ⅲ研修企画・実施・評価
看 護 部 接 遇 委 員 会	☐ 接遇ラウンドの企画・実施・評価 ☐ クリニカルラダーⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ研修企画・実施・評価 ☐ 病院接遇委員会満足度調査への協力 ☐ 「言葉のプレゼント」交換の実施
記 録 委 員 会	☐ 看護記録の監査 ☐ 電子カルテ導入に向けた取り組み、看護記録の整備
注 射 ・ 与 薬 委 員 会	☐ 電子カルテ導入に伴い、注射マニュアルの追加・修正 ☐ 注射に関するラウンドの企画・実施・評価 ☐ クリニカルラダーⅠ,Ⅱ,Ⅲの企画・実施・評価
業 務 検 討 委 員 会	☐ 看護手順の見直し、新規作成 ☐ 看護手順の読み合わせによる周知、教育及び研修への活用
感 染 対 策 委 員 会	☐ 環境ラウンドの企画・実施・評価 ☐ クリニカルラダーⅠ,Ⅱ 看護補助員研修の企画・実施・評価 ☐ 嶺南感染フォーラムでの示説発表 ☐ 感染対策マニュアルの一部を見直し、ICT へ
看護部褥瘡対策委員会	☐ 院内勉強会の企画・実施・評価 ☐ 褥瘡回診への参加 ☐ エアマットの管理
看 護 倫 理 委 員 会	☐ 4 分割法による事例検討 ☐ 看護倫理研修の企画・実施・評価 ☐ 院外研修参加し、メンバーへ伝達
プリセプター委員会	☐ 看護技術研修の企画・実施・評価 ☐ 新人看護師のヒヤリ・ハット体験事例報告書の情報共有 ☐ メンタルサポート、メッセージカードの作成
実 習 指 導 者 委 員 会	☐ 臨床実習での指導・評価 ☐ 臨床講義の企画・実施 ☐ 教員との情報交換
看 護 補 助 員 委 員 会	☐ 感染に関する学習会 ☐ ヒヤリ・ハット体験事例報告書の記入についての勉強会実施
看 護 事 務 員 委 員 会	☐ 各書類の整理 ☐ SPD 定数の見直し ☐ 挨拶に関する DVD 鑑賞

	活動内容
主 任 会	看護の日記念行事（5月9日）来院人数約 130 人 外来ホールにて各ブースを設置 「身長/体重測定」「血圧測定」「視力測定」「体脂肪測定」「栄養相談」 「足の爪切ります」「COPD」「認知症/医療相談」「臓器移植コーナー」 「看護学院コーナー」「救急コーナー」 記念グッズの配布 クリスマスカード配布 入院患者及び通院患者 約 500 名
認 定 看 護 師	院内研修会・学習会講師 医療安全に関する研修会のインストラクター 院内看護研究アドバイザー 院外研修会講師（看護協会主催の研修他） 院外活動の運営への参加 在宅酸素療法・患者会 各認定分野の学会への参加 高校生一日看護体験 インストラクター 看護職への道 講師

	O J T	O F F - J T	その他主催の研修 (院外を含む)
レ ベ ル I	☐ 新採用者OR ☐ 看護記録/看護診断 ☐ ホーダリング ☐ 看護ケア提供システム/チームナースिंग ☐ 看護基準/手順に沿った看護技術 ☐ 各種マニュアル、部署の特殊性 ☐ 報告・連絡・相談 ☐ 防火訓練参加 ☐ 目標管理 役割 ☆看護学生への支援	教育委員会	病院
		☐ 定期研修 (1.3.6 か月.最終研修) ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表	☐ 新採用者オリエンテーション（接遇、医療安全、感染、医療倫理、防災、個人情報保護、BLS） ☐ 医療安全講演 ☐ 感染講演
		記録委員会	看護協会
		☐ 看護記録ガイドライン SOAP 展開	☐ 新人研修
		安全対策委員会	
		☐ 医療安全管理マニュアル ヒヤリ・ハット報告書他	
		注射委員会	
		☐ 静脈注射/薬理作用 輸液ポンプの取扱い シリンジポンプの取扱い	
		接遇委員会	
		☐ 接遇マニュアル	
		感染対策委員会	
		☐ 感染対策マニュアル 針刺し防止 スタンダードプリコーション他	
		褥瘡対策委員会	
		☐ 褥瘡予防策	
		プリセプター委員会	
		☐ 新人 OR ☐ 看護技術研修 ☐ ㊦ナースिंगサポート研修	
		看護部	
		☐ 新人 OR ☐ ローテーション研修	

	O J T	O F F - J T	その他主催の研修 (院外を含む)
レベルⅡ	☐ プライマリーナースとなり看護過程を展開 (記録委員指導) ☐ 未実施の看護技術チェック ☐ 各科特殊技術の修得 ☐ 看護必要度 ☐ 目標管理 役割 ☆看護学生及び後輩への支援	教育委員会	病院
		☐ チームメンバー研修 ☐ 最終研修 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表 ☐ ICLS (医師会)	☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全講演 ☐ 感染対策講演
		記録委員会	看護協会
		☐ 経時記録 医療事故発生時/患者急変時の看護記録	☐ 定例研修
		安全対策委員会	その他
		☐ 危険予知トレーニング ①基礎編	
		注射委員会	
		☐ 薬理作用アナフィラキシーショック	
		接遇委員会	
		☐ 医療者としての接遇対応	
		感染対策委員会	
		☐ 経路別感染対策	
		褥瘡対策委員会	
		☐ ㊦褥瘡ケア	
レベルⅢ	☐ 日勤チームリーダー研修 ☐ 未実施の技術チェック ☐ 各科特殊技術の修得 ☐ 目標管理 役割 ☆看護学生及び後輩への指導	教育委員会	病院
		☐ チームリーダー研修 ㊦中堅コース含む ☐ 最終研修 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表	☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全講演 ☐ 感染対策講演
		記録委員会	看護協会
		☐ NANDA 看護診断	☐ 定例研修
		安全対策委員会	その他
		☐ 危険予知トレーニング ②ラウンド	☐ トリアージ (医師会)
		注射委員会	
		☐ 薬理作用/向精神薬	
		接遇委員会	
		☐ 患者満足とは	

	O J T	O F F - J T	その他主催の研修 (院外を含む)
レベル IV	☐ 看護研究への取り組み ☐ NANDA 看護診断 個別性の看護計画立案、展開 ☐ 院外研修の伝達 ☐ 目標管理 役割 ☆看護学生実習担当 ☆プリセプターとなり新人看護師指導	教育委員会	病院
		☐ 院外研修伝達会 ☆プリセプター研修 ☆次期プリセプター研修 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表	☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全講演 ☐ 感染対策講演
		安全対策委員会	看護協会
		☐ 時系列分析	☐ 看護研究基礎コース
		接遇委員会	☐ 看護研究実践コース
		☐ アサーティブコミュニケーション	
レベル V	☆師長代理研修 ☐ 目標管理 役割 ☆新人看護師の実地評価者 ☆実習担当者担当 ☆看護部の委員として部署での推進	教育委員会	病院
		☆師長代理研修 学研ナースিংサポート 管理職コース 7月：「看護師長の病棟目標の立て方」 2月：「病棟運営に活かす看護師長のマネジメント力UP」 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表	☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全研修 ☐ 感染対策研修
		看護部	看護協会
		☆資格取得などキャリアアップのための研修参加を支援 認定看護師教育課程について(講師:認定看護師)	☐ 定例研修 ☐ 実習指導者研修
管理 I	役割 ☆教育担当者として プリセプター、実施評価者、実習指導者の指導と支援 ☆中途採用者、勤務異動者の教育 ☆医療安全、接遇への取り組み	教育委員会	病院
		☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表	☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全研修 ☐ 感染対策研修
		看護部	看護協会
		㊟ナースিংサポート 管理職・チーム医療コース 6月：看護リフレクションの理論と研修方法を学んで、中堅看護師の実力アップに活かす 7月：看護師長の病棟目標の立て方 8月：災害時にあわてない！病院・病棟のリスク管理 目標管理研修	☆インターネット配信研修 *主任会にて伝達 ☐ ファーストレベル研修
			その他
			☆全国セミナー

	O J T	O F F - J T	その他主催の研修 (院外を含む)
管理Ⅱ	役割	教育委員会	病院
	❖病棟管理・運営	☐ 伝達講習	☐ 接遇講演会
	❖目標達成のために、スタッフへの役割分担と支援・指導	☐ 看護研究発表	☐ 医療安全研修
	❖人材育成・確保	看護部	☐ 感染対策研修
		⑨ナーシングサポート 管理職・チーム医療コース 4月：チーム医療における看護管理者の役割 5月：看護必要度と診療報酬必要度を用いてのケアの可視化、診療報酬上の記録の書き方 6月：看護リフレクションの理論と研修方法を学んで、中堅看護師の実力アップに活かす 7月：看護師長の病棟目標の立て方 8月：災害時にあわてない！病院・病棟のリスク管理 9月：クレームのない組織作りを目指して 10月：管理職に求められる経営組織論、看護活動の経済的評価 11月：看護管理に必要な経営指標一意味、活用方法を学ぶ 12月：看護師及び組織としての暴力への対応 1月：看護記録に必要な記録の法解釈 2月：病棟運営に活かす病棟師長のマネジメント力UP 3月：病棟における人材育成とストレスマネジメント 目標管理研修	看護協会 ☆インターネット配信研修 師長会にて伝達 ☆衛星通信研修 ☐ ファーストレベル研修 その他 ☆全国セミナー

	O J T	O F F - J T	その他主催の研修 (院外を含む)
看護補助員	☐ 目標管理 役割 ✳️環境整備／5S	教育委員会	病院
		☐ ㊟ナースィングサポート 基礎習得コース 9月：注意が必要な患者の体位変換とポジショニング 10月：経管栄養チューブ挿入と経管栄養の実施	☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全講演 ☐ 感染対策講演
		安全対策委員会	看護協会 地区委員会研修
		*感染と交互に企画	
		接遇委員会	
		☐ 守秘義務 ☐ 個人情報保護法	
		感染対策委員会	
		☐ ㊟ナースィングサポート 基礎習得コース 4月：感染予防の基礎 *医療安全と交互に企画	
		看護部	
		☐ 医療制度、病院機能及び組織の理解 ☐ 医療・看護チームの一員としての看護補助業務の理解	
看護事務員	☐ 目標管理 役割 ✳️各種書類の取り扱い ✳️SPDの定数管理	安全対策委員会	病院
		*感染と交互に企画	☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策
		接遇委員会	
		☐ 守秘義務 ☐ 個人情報保護法	
		感染対策委員会	その他 地区委員会研修
		☐ ㊟ナースィングサポート 基礎習得コース 4月：感染予防の基礎 *医療安全と交互に企画	
		看護部	
		☐ 医療制度、病院機能及び組織の理解	

H25 年度 院外実習生受け入れ

学校名	実習内容	受入数
福井県立小浜水産高等学校	ジュニア・インターンシップ	2 名
小浜市立小浜第二中学校	職場体験	4 名
福井県立若狭高等学校	インターンシップ	3 名
福井県立美方高等学校	インターンシップ	2 名
おおい町立名田庄中学校	職場体験	1 名
京都大学 医療系 人間健康科学科	早期体験実習	2 名
敦賀看護専門学校	精神看護学実習	31 名
公立若狭高等看護学院	基礎看護実習Ⅰ Ⅱ Ⅲ	44 名
	老年看護学実習Ⅱ	32 名
	領域別看護学実習	34 名

講師派遣・地域への派遣

主催	内容	派遣者
小浜助産師会	うぶごえ	北村桂子
健康福祉センター	ベビーマッサージ	北村桂子
小浜助産師会	離乳食キッチン	北村桂子
小浜助産師会	子育て支援	北村桂子
小浜市立小浜第二中学校	赤ちゃん抱っこ体験	北村桂子 辻京子
地域活動支援センター	リクリエーション交流会	谷口敏子
福井県在宅酸素患者会	福井県在宅酸素患者会	北村眞由美
福井県看護協会	「看護職への道」	辻京子 田中友子
* 若狭マラソン他、随時地域の行事や救護班への派遣多数		
* 防災訓練、DMAT 訓練等、随時派遣		

資格取得

資格	氏名
日本看護協会 認定看護師教育課程 「重症集中ケア」	秋山由佳
第 9 6 回助産師国家試験	河原幸代
福井県看護協会主催 H23 年度福井県保健師助産師看護師実習指導者講習会	中川幸江 河原千都
医療安全管理者リスクマネジャー認定資格	柿本敬子

教育課程

主催・教育内容	氏名
日本看護協会 認定看護師教育過程 「皮膚・創傷・排泄ケア」	的場悦子
日本看護協会 神戸研修センター 認定看護師教育課程 「慢性心不全看護」	吉田真紀
三重県立看護大学 認定看護師教育課程 「感染看護」	刀根正彦
愛知医科大学 認定看護師教育課程 「感染看護」	森脇由希江
NST 専門療法士実施修練研修 「感染看護」	時岡久美子 垣内知佳
福井県看護協会主催 第 19 回認定看護管理者制度ファーストレベル教育	宮腰由美子
福井県看護協会主催 第 1 回認定看護管理者制度セカンドレベル教育	大枝かよ子

H25 年度看護研究発表会

部署	テーマ	研究者
本館 4 階病棟	腹臥位安静時の温熱療法による苦痛の軽減効果	発表者：沖 美幸 共同研究者：竹内良子 石橋春奈 小林みゆき
本館 6 階病棟	人工骨董置換術後の脱臼予防に対する看護師の意識の変化 ～指導の統一を目指した取り組み～	発表者：畑中 薫 共同研究者：大谷倫子 前田有香
本館 8 階病棟	マスクフィッティング体験及び圧測定を取り入れた学習の効果 * H26 年度福井県看護協会看護研究発表会にて発表予定	発表者：中谷里美 共同研究者：門野鮎子 杉山千恵子 北村眞由美
西館 3 階病棟	看護師の整容に対する意識調査 ～整容に考える事～	発表者：古田栄子 共同研究者：富田絵美 川嶋理絵 柴野歩美 木谷友紀 岸本和美

院外看護研究発表

平成 25 年度日本精神科看護技術協会 福井県支部 看護研究発表会 口演発表
「チームで取り組む退院支援の在り方 ～ その人らしい生活を目指して ～」
東館 2 階病棟 ○大下菜緒 富永真利菜 原田芳保里 國友博昭

2. 院内委員会の活動状況

倫理委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、診療部副部長、医療技術部長、薬剤部長、看護部長、事務部長
(外部委員として、小浜ひまわり基金法律事務所より担当弁護士が1名参加)

《協議事項・活動状況等》

開催年月日 平成25年5月30日

審査事項

1. 自然気胸に対するタルクを用いた胸膜癒着術
2. 眼科手術後の体位制限に伴う腰背部痛の緩和方法
3. 入退院を繰り返す患者の退院支援の取り組み
4. NPPVマスクと皮膚との接触圧力を数値化する事で看護師の意識がどう変化するか
5. 整容への援助に対する意識向上への関わり
6. 人工骨頭置換術後患者へのパンフレット作成による看護師の指導内容の変化

倫理講演会

講師 京都大学大学院医学研究科医療倫理学 教授 小杉 眞司 先生

開催日 平成25年4月24日 個人情報保護法と臨床について (新採用職員対象)

〃 6月26日 〃 (看護学院生対象)

〃 8月28日 遺伝子検査ビジネスについて

〃 10月23日 〃

医療安全管理委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、診療部長、手術センター長、診療部副部長(2名)、医療技術部長、
医薬品安全管理責任者、薬剤部長、医療機器安全管理責任者、臨床工学科長、
看護部長、看護部副部長(2名)、医療安全管理者、事務部長、
事務部次長(2名)、事務部課長(2名)、学院事務長、老健施設長、
老健総看護師長、老健事務長

《協議事項・活動状況等》

委員会協議事項

- 4月 平成25年度の研修計画について 他
- 5月 放射線科看護師の待機等について 他
- 6月 研修会等について 他
- 7月 気管切開チューブ再挿入、血液浄化装置手順マニュアルについて 他
- 8月 5S活動発表会の開催について 他
- 9月 血液検査の異常値の発生と取扱いについて 他
- 10月 ラウンドの実施について 他
- 11月 ヒヤリハット事例について 他
- 1月 インシデント事例について
- 2月 暴言暴力などの迷惑行為について 他

3月 インシデントレポートシステムについて 他

研修会

- 4月 BLS・AED講習会（新入職員対象）
- 7月 5S活動から始める医療安全について（全職員対象）
- 10月 気管切開チューブ挿入講習会
- 2月 リスクの把握の重要性とその方法について（リスクマネージャー対象）
- 3月 5S活動発表研修会（全職員対象）
- 3月 インシデントレポートシステム運用講習会（リスクマネージャー対象）

臓器移植普及推進検討委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、手術センター長、診療部副部長、主任医長、医長、臨床検査技師、看護部長、看護師長(3名)、看護師、事務部次長、事務部課長

《協議事項・活動状況等》

- ◆ 平成25年院内コーディネーター活動報告
福井県臓器移植コーディネーター研修会に参加
看護の日に臓器移植コーナーを設置し、県のコーディネーターを招き普及活動を実施
院内コーディネーターのミーティング
- ◆ 適応基準、臓器提供について検討
電子カルテ画面にてマニュアルの確認ができるようにする。

防災対策委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、診療部長、医療技術部長、薬剤部長、看護部長、事務部長（防火・防災管理者）、管理課長、学院副院長、学院事務長、老健施設長、老健総師長

《協議事項・活動状況等》

- ・防災訓練の実施
- ・防災訓練の結果について
- ・災害時必要備品の購入検討

放射線安全委員会

委員長 副院長

委員構成 主任医長(2名)、放射線取扱主任者、主任診療放射線技師、技師長、看護部長

《協議事項・活動状況等》

関係省庁への届出

院内感染対策委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、診療部長、手術センター長、診療部副部長（2 名）、I C D 医師、医療技術部長、薬剤部長、臨床検査科長、主任臨床検査技師、薬剤師、看護部長、看護部副部長（2 名）、事務部長、事務部次長、事務部課長（2 名）、学院事務長、老健施設長、老健総看護師長、老健事務長

《協議事項・活動状況等》

- ・ 感染症(MR S A 等)の検出状況について
- ・ 抗菌薬使用状況について
- ・ I C T（インフェクション・コントロールチーム）の活動について
- ・ 院内感染対策マニュアルの整備・改訂について
- ・ 新人職員オリエンテーションの実施
- ・ I C T レター『感 染』の作成・発行
- ・ 嶺南感染フォーラムへの参加・演題発表
- ・ 院内感染対策講演会の開催

1 回目

開催日 ： 平成 25 年 6 月 27 日

演 題 ： 『標準予防策・手指衛生について』

講 師 ： 杉田玄白記念公立小浜病院 ICT

(医師) 鈴木・(看護師) 刀根・(検査技師) 正木・(薬剤師) 川端

2 回目

開催日 ： 平成 25 年 11 月 22 日

演 題 ： 『理想的な I C T 活動を目指して』

講 師 ： 愛知医科大学大学院 主任教授 三嶋 廣繁 先生



安全衛生委員会

委員長 病院長

委員構成 主任医長、主任医長（産業医）、医療技術部長、薬剤部長、看護部長、事務部長（衛生管理者）、職員組合代表（7 名）

《協議事項・活動状況等》

- 1) 職員健康診断の計画並びに結果分析（4～6 月）
- 2) B 型肝炎予防接種の実施（6 月）
- 3) 職員定期検診の実施（8 月）
- 4) 化学物質作業環境測定および結果報告（8 月・2 月）
- 5) こころの健康づくり計画の策定（6 月）
- 6) 職員のこころの健康にかかる面接指導、相談窓口の開設（9 月）

情報システム委員会

委員長 診療部長

委員構成 副院長、医長、医療技術部長、薬剤部長、臨床検査科長、
診療放射線技師長、看護部副部長、看護師長（2名）、事務部次長、
事務部係長（2名）

《協議事項・活動状況等》

電子カルテ導入・稼働に向けて

電子カルテ稼働後の課題・問題点について

電子カルテの運用について

- ・電子カルテ操作研修の実施
- ・リハーサルの実施 2回
- ・電子カルテ稼働 平成26年1月12日（午前0時）

薬事委員会

委員長 病院長

構成委員 診療部副部長、主任医長（2名）、薬剤部長、看護部副部長

《協議事項・活動状況等》

開催 月1回

- ・医薬品の新規採用について
- ・後発医薬品採用について

保険診療検討委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、診療部副部長、薬剤部長、臨床検査科長、診療放射線技師長、
看護部副部長、事務部課長

《協議事項・活動状況等》

- ・診療報酬の査定内容の検討
- ・診療報酬増に向けての検討

研修管理委員会(臨床研修病院関係)

委員長 副院長

委員構成 病院長、診療部長、診療部副部長、主任医長、看護部副部長、事務部長、
事務部次長、事務部課長補佐、老健施設長

《協議事項・活動状況等》

4月1日 研修医オリエンテーション（採用4名）

- 4月17日 第1回院内研修管理委員会（平成26年度研修プログラムについて）
- 5月6日 東海北陸地区臨床研修病院合同説明会（名古屋市）
- 5月15日 第2回院内研修管理委員会（募集要項及び選考試験について）
- 5月20日 福井県合同臨床研修病院説明会（福井大学）
- 6月19日 第3回院内研修管理委員会（当直研修等について）
- 6月27日 研修医と幹部職員、指導医との意見交換会
- 6月30日 レジデントナビ大阪研修病院説明会（大阪市）
- 7月1日 次年度研修医募集開始（応募者5名、辞退1名）
- 7月14日 レジデントナビ東京研修病院説明会（東京都）
- 7月17日 第4回院内研修管理委員会（院外研修・見学等について）
- 8月8日 採用試験実施（2名）
- 8月22日 採用試験実施（2名）
- 9月18日 第5回院内研修管理委員会（採用試験結果、病院評価等について）
- 10月24日 マッチングシステムにより3名決定
- 10月24日 2次募集開始（定員1名、応募0名）
- 10月30日 第6回院内研修管理委員会（2年目研修医の進路等について）
- 11月20日 第7回院内研修管理委員会（電子カルテの研修医権限等について）
- 12月8日 レジデントナビ金沢研修病院説明会（金沢市）
- 12月18日 第8回院内研修管理委員会（次年度研修プログラム等について）
- 1月15日 第9回院内研修管理委員会（研修医研究発表等について）
- 2月15日 近畿厚生局管内臨床研修病院説明会（大阪市）
- 2月19日 第10回院内研修管理委員会（次年度研修プログラム等について）
- 2月23日 福井県合同研修病院説明会（福井市）
- 3月5日 第3回臨床研修医研究発表会
- 3月19日 第11回院内研修管理委員会（修了判定等について）
- 3月27日 研修管理委員会開催（修了判定、次年度研修計画等について）

地域医療連携委員会

委員長 病院長

委員構成 診療部副部長、主任医長(2名)、臨床検査科長、診療放射線技師長、主任作業療法士、看護部副部長(2名)、看護師長、事務部次長、事務部課長

《協議事項・活動状況等》

開催年月日 平成25年7月23日

- ・紹介件数及び逆紹介件数の動向
- ・紹介元医療機関及び紹介先医療機関一覧
- ・紹介率及び逆紹介率の動向
- ・地域連携室の退院支援の状況

接遇委員会

委員長 看護部副部長

委員構成 診療部副部長、薬剤師、臨床検査技師、調理師、看護師長、看護師（5名）、
事務部係長、事務部主事、学院専任教員、老健係長、その他（4名）

《協議事項・活動状況等》

開催状況

毎月第3火曜日に定例開催、その他必要時に開催（平成25年度は全10回開催）

小委員会に関しては随時活動

平成25年度協議事項、活動内容

年間スローガン 「笑顔であいさつすることは接遇の第一歩です」

前期テーマ 『あいさつ・みだしなみ』

後期テーマ 『言葉使い・患者様への対応』

職員接遇の向上に関する事

- ・院長直行便の内容を委員会にて公開、検討
- ・言葉のプレゼントによる部署間チェック

病院接遇の調査に関する事

- ・外来満足度調査（8月）

接遇教育に関する事

- ・新人研修（4月）
- ・DVDによる接遇講習会（10月3回開催）

機関紙「せっちゃん」・接遇に関するポスターの発行

- ・機関紙「せっちゃん」（年1回）
- ・接遇に関するポスター（年1回）

広報委員会

委員長 病院長

構成委員 診療部長、診療部副部長、主任医長（2名）、臨床検査科長、診療放射線技師長、
薬剤師、栄養士、作業療法士、看護部副部長、事務部次長、事務部課長、
事務部係長（2名）

《協議事項・活動状況等》

- ・病院年報 第11号発行
- ・病院ホームページの更新
- ・院外広報誌「いきいき」 2回発行
- ・院内広報誌「わかさ」 1回発行

輸血療法委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部副部長、臨床検査技師、薬剤師、看護部副部長、主任看護師（3名）、

事務部主事補

《協議事項・活動状況等》

委員会年6回開催

- ◆ 血液製剤の適正使用の管理
- ◆ 輸血療法マニュアルの改訂
- ◆ 輸血後検査のマニュアル化について
- ◆ 電子カルテ移行後の血液型カードの取り扱いについて
- ◆ 輸血新システムのバックラベル運用方法について
- ◆ 輸血製剤の院内在庫数について
- ◆ 輸血製剤の副作用について
- ◆ 輸血製剤の廃棄量について

手術室運営委員会

委員長 手術センター長

構成委員 診療部副部長(2名)、主任医長(4名)、医長、看護部副部長、看護師長2名

《協議事項・活動状況等》

- ・手術センター運営に関すること
- ・手術の同意書について

臨床検査適正化委員会

委員長 臨床検査科長

構成委員 主任医長(2名)、医師、薬剤部長、事務部課長

《協議事項・活動状況等》

- ・コントロールサーベイへの参加、結果について
- ・項目別の検査件数について
- ・外注項目の検討について

図書委員会

委員長 主任医長

委員構成 薬剤部長、診療放射線技師長、主任作業療法士、臨床検査技師、栄養士、看護部副部長、事務部係長

《協議事項・活動状況等》

- ・平成26年度購入国内雑誌の選定について
- ・平成26年度購入外国語雑誌の選定について
- ・電子臨床教科書「UpToDate」の契約更新

褥瘡対策委員会

委員長 副院長

委員構成 医長、皮膚科医師、薬剤師、作業療法士、管理栄養士、看護師長、
看護師(8名)

《協議事項・活動状況等》

- ・褥瘡ケース・カンファレンス（病棟回診 2 回／月、委員会 1 回／月）
- ・高機能エアマット使用状況管理、調整
- ・栄養サポートチーム（NST）との連携活動開始（7 月）
- ・電子カルテ導入に係る褥瘡管理入力方法講習会（12 月 2 回実施）

D P C委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、診療部副部長、主任医長（3 名）、医長、医員(2 名)、
医療技術部長、薬剤部長、診療放射線技師長、主任理学療法士、
主任臨床検査技師、看護部副部長、看護師長、事務部次長、
事務部課長、事務部主事補

《協議事項・活動状況等》

- ・D P C 包括期間について
- ・コーディングガイドについて
- ・係数について
- ・平成 2 6 年度の D P C 制度について
- ・コーディングについて

血液浄化センター運営委員会

委員長 血液浄化センター長

委員構成 病院長、副院長、診療部長、診療部副部長、主任医長、臨床工学科長、
看護部副部長、看護師長、事務部課長

《協議事項・活動状況等》

- ・血液浄化センター運用、管理について
- ・透析機器安全管理について

医療機器安全管理委員会

委員長 臨床検査科長

委員構成 手術センター長、医療技術部長、臨床工学科長、診療放射線技師長、
看護師長(6 名)

《協議事項・活動状況等》

- ・医療機器データベースの整備について

- ・ 機器操作・管理の研修実施状況の掌握について
- ・ 保守点検記録・取扱説明書・マニュアル・修理報告等の点検・確認について
- ・ 研修会について
- ・ MR 用酸素ボンベ補充の流れの確認について

研修会の開催

- ・ 平成 26 年 3 月 12 日 「医療機器の安全と電気」

行動制限最小化委員会

委員長 主任医長

委員構成 精神科医師、看護師長（2 名）、主任看護師（2 名）、准看護師

《協議事項・活動状況等》

- ・ 行動制限患者に対する病状改善について
- ・ 行動制限の状況の適切性について
- ・ 行動制限最小化に向けた取り組みについて

研修会の開催

- ・ 平成 26 年 1 月 31 日 「精神保健福祉法の改正について」
- ・ 平成 26 年 3 月 13 日 「行動制限最小化に向けた取り組みについて」

Ⅲ. 各種統計

延べ外来患者数 診療科別 () は診療実日数

診療科	延べ外来患者数			前年度比	
	平成23年度 (243 日)	平成24年度 (244 日)	平成25年度 (243 日)	増減数	伸 率
内科(循環器含)	61,130	62,192	64,143	1,951	3.1%
外 科	8,513	9,163	9,379	216	2.4%
整形外科	15,405	17,209	18,424	1,215	7.1%
脳神経外科	9,440	9,631	9,111	△ 520	-5.4%
小 児 科	17,152	17,071	16,262	△ 809	-4.7%
産婦人科	7,439	7,261	6,439	△ 822	-11.3%
精 神 科	14,799	14,694	15,010	316	2.2%
耳鼻いんこう科	6,655	6,375	6,667	292	4.6%
眼 科	15,114	15,851	14,706	△ 1,145	-7.2%
皮 膚 科	6,553	5,825	5,835	10	0.2%
泌尿器科	8,408	8,875	9,057	182	2.1%
麻 酔 科	0	0	0	0	0.0%
放射線科	1,091	1,159	1,206	47	4.1%
歯科口腔外科	11,713	13,436	12,956	△ 480	-3.6%
心臓血管外科	97	120	125	5	4.2%
形成外科	879	623	689	66	10.6%
合 計	184,388	189,485	190,009	524	0.3%

1 日平均外来患者数 診療科別

診療科	1 日平均外来患者数			前年度比
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
内科(循環器含)	251.6	254.9	264.0	9.1
外 科	35.0	37.6	38.6	1.0
整形外科	63.4	70.5	75.8	5.3
脳神経外科	38.8	39.5	37.5	△ 2.0
小 児 科	70.6	70.0	66.9	△ 3.1
産婦人科	30.6	29.8	26.5	△ 3.3
精 神 科	60.9	60.2	61.8	1.6
耳鼻いんこう科	27.4	26.1	27.4	1.3
眼 科	62.2	65.0	60.5	△ 4.5
皮 膚 科	27.0	23.9	24.0	0.1
泌尿器科	34.6	36.4	37.3	0.9
麻 酔 科	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	4.5	4.8	5.0	0.2
歯科口腔外科	48.2	55.0	53.3	△ 1.8
心臓血管外科	0.4	0.5	0.5	0.0
形成外科	3.6	2.5	2.8	0.2
合 計	758.8	776.7	781.9	5.2

平均値のため縦計とは合
数せず

延べ外来患者数 近隣市町別 () は診療実日数

市 町 名		延べ外来患者数			前年度比	
		平成23年度 (243 日)	平成24年度 (244 日)	平成25年度 (244 日)	増減数	伸 率
小 浜 市		134,983	137,735	137,410	△ 325	-0.2%
若 狭 町	旧 上中町	16,718	18,324	18,193	△ 131	-0.7%
	旧 三方町	7,135	6,453	6,525	72	1.1%
おおい町	旧 名田庄村	6,876	6,973	7,378	405	5.8%
	旧大飯町	7,411	7,878	7,858	△ 20	-0.3%
美 浜 町		740	843	929	86	10.2%
高 浜 町		6,585	7,823	8,124	301	3.8%
その他（県内）		1,195	1,037	968	△ 69	-6.7%
その他（県外）		2,745	2,419	2,624	205	8.5%
合 計		184,388	189,485	190,009	524	0.3%

1 日平均外来患者数 近隣市町別

市 町 名		1 日平均外来患者数			前年度比
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	
小 浜 市		555.5	564.5	563.2	△ 1.3
若 狭 町	旧 上中町	68.8	75.1	74.6	△ 0.5
	旧 三方町	29.4	26.4	26.7	0.3
おおい町	旧 名田庄村	28.3	28.6	30.2	1.6
	旧大飯町	30.5	32.3	32.2	△ 0.1
美 浜 町		3.0	3.5	3.8	0.3
高 浜 町		27.1	32.1	33.3	1.2
その他（県内）		4.9	4.3	4.0	△ 0.3
その他（県外）		11.3	9.9	10.8	0.9
合 計		758.8	776.7	778.7	2.1

平均値のため縦計
とは合致せず

延べ入院患者数 診療科別 () は診療実日数

診療科	延べ入院患者数			前年度比	
	平成23年度 (366 日)	平成24年度 (365 日)	平成25年度 (365 日)	増減数	伸 率
内科(循環器含)	51,344	49,827	48,805	△ 1,022	-2.1%
外 科	10,680	10,280	10,588	308	3.0%
整形外科	11,764	12,913	11,542	△ 1,371	-10.6%
脳神経外科	18,663	23,006	21,334	△ 1,672	-7.3%
小 児 科	1,650	1,712	1,359	△ 353	-20.6%
産婦人科	3,491	3,885	2,435	△ 1,450	-37.3%
精 神 科	32,084	30,983	29,153	△ 1,830	-5.9%
耳鼻いんこう科	2	0	0	0	0.0%
眼 科	2,349	2,524	1,826	△ 698	-27.7%
皮 膚 科	204	13	3	△ 10	-76.9%
泌尿器科	3,339	2,921	3,640	719	24.6%
歯科口腔外科	381	387	485	98	25.3%
心臓血管外科	0	0	0	0	0.0%
形成外科	0	0	0	0	0.0%
合 計	135,951	138,451	131,170	△ 7,281	-5.3%

1 日平均入院患者数 診療科別

診療科	1日平均入院患者数			前年度比
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
内科(循環器含)	140.3	136.5	133.7	△ 2.8
外 科	29.2	28.2	29.0	0.8
整形外科	32.1	35.4	31.6	△ 3.8
脳神経外科	51.0	63.0	58.4	△ 4.6
小 児 科	4.5	4.7	3.7	△ 1.0
産婦人科	9.5	10.6	6.7	△ 3.9
精 神 科	87.7	84.9	79.9	△ 5.0
耳鼻いんこう科	0.0	0.0	0.0	0.0
眼 科	6.4	6.9	5.0	△ 1.9
皮 膚 科	0.6	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	9.1	8.0	10.0	2.0
歯科口腔外科	1.0	1.1	1.3	0.2
心臓血管外科	0.0	0.0	0.0	0.0
形成外科	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	371.4	379.3	359.4	△ 19.9

平均値のため縦計とは合致せず

延べ入院患者数 近隣市町別 () は診療実日数

市 町 名		延べ入院患者数			前年度比	
		平成23年度 (366 日)	平成24年度 (365 日)	平成25年度 (365 日)	増減数	伸 率
小 浜 市		91,116	94,523	91,580	△ 2,943	-3.1%
若 狭 町	旧 上中町	10,713	12,356	8,779	△ 3,577	-28.9%
	旧 三方町	4,082	4,839	4,503	△ 336	-6.9%
おおい町	旧 名田庄村	8,368	8,343	6,708	△ 1,635	-19.6%
	旧大飯町	5,614	5,745	6,357	612	10.7%
美 浜 町		1,627	1,539	1,923	384	25.0%
高 浜 町		6,351	5,025	5,673	648	12.9%
その他（県内）		3,504	3,240	2,572	△ 668	20.6%
その他（県外）		4,576	2,841	3,075	234	8.2%
合 計		135,951	138,451	131,170	△ 7,281	-5.3%

1 日平均入院患者数 近隣市町別

市 町 名		1 日平均入院患者数			前年度比
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	
小 浜 市		249.0	259.0	250.9	△ 8.1
若 狭 町	旧 上中町	29.3	33.9	24.1	△ 9.8
	旧 三方町	11.1	13.2	12.2	△ 1.0
おおい町	旧 名田庄村	22.9	22.9	18.4	△ 4.5
	旧大飯町	15.3	15.7	17.4	1.7
美 浜 町		4.4	4.2	5.3	1.1
高 浜 町		17.3	13.7	15.4	1.7
その他（県内）		9.6	8.9	7.0	△ 1.9
その他（県外）		12.5	7.8	8.4	0.6
合 計		371.4	379.3	359.4	△ 19.9

平均値のため縦計
とは合致せず

平均在院日数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
一般病床合計	15.8	16.2	15.3

病床利用率（実稼動病床数による）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
一般	86.5%	89.7%	84.8%
療養	90.1%	94.8%	91.1%
結核	11.6%	7.7%	11.8%
精神	87.5%	84.8%	79.8%
合計	85.4%	87.2%	82.6%
感染症	0.0%	0.0%	0.0%

救急車搬送患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
日勤帯	712	630	607
休日・時間外	1,304	1,297	1,409
合計	2,016	1,927	2,016
一日平均	5.5	5.3	5.5

休日および時間外診療患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
延べ患者数	10,138	10,128	10,736
一日平均	27.7	27.7	29.4

へき地巡回診療患者数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
延べ患者数	1,093	1,057	905
一回平均	6.5	6.3	5.4

[へき地巡回診療地区]

堅海、根来、宮川地区（小浜市）
奥杉山、河内、西浦地区（若狭町）
音海、日引、上瀬地区（高浜町）

年間診療回数：計 1 6 8 回

手術件数（中央手術室における件数）

診 療 科	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
内科(循環器分含)	41	30	24	△ 6	-20.0%
外 科	359	371	354	△ 17	-4.6%
整形外科	235	285	305	20	7.0%
産婦人科	83	76	60	△ 16	-21.1%
耳鼻いんこう科	0	0	0	0	0.0%
泌尿器科	108	120	124	4	3.3%
脳神経外科	49	58	65	7	12.1%
眼 科	432	510	467	△ 43	-8.4%
歯科口腔外科	67	59	72	13	22.0%
心臓血管外科	1	1	1	0	0.0%
形成外科	89	62	73	11	17.7%
合 計	1,464	1,572	1,545	△ 27	-1.7%

分娩件数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
分娩件数	231	218	222	4	1.8%

人工透析治療件数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
昼間延べ数	11,925	12,241	13,124	883	7.2%
夜間延べ数	1,083	1,080	1,079	△ 1	-0.1%
合 計	13,008	13,321	14,203	882	6.6%

内視鏡検査件数 ※健診・ドックの検査件数を含む

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
上部消化管検査	2,372	2,461	2,501	40	1.6%
（粘膜切除術）	2	4	4	0	0.0%
（内視鏡的胃ろう増設術）	55	43	36	△ 7	-16.3%
下部消化管検査	903	942	1,022	80	8.5%
（大腸ポリープ切除術）	32	9	8	△ 1	-11.1%
（シグモイドファイバー）	7	2	1	△ 1	-50.0%
気管支ファイバー	20	25	84	59	236.0%
膵胆管造影検査	132	105	129	24	22.9%

薬剤件数

処方箋枚数

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
外 来	院内処方	7,794	7,891	8,071	180	2.3%
	院外処方	80,265	97,540	98,319	779	0.8%
入 院		30,528	39,825	38,332	△ 1,493	-3.7%
注 射		116,072	124,625	109,369	△ 15,256	-12.2%

調剤件数(全体)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
外 来		15,835	15,698	15,434	△ 264	-1.7%
入 院		67,021	84,927	80,978	△ 3,949	-4.6%

無菌調製件数(抗がん剤)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
外 来		567	610	593	△ 17	-2.8%
入 院		110	198	274	76	38.4%

無菌調製件数(TPN)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
入 院		1,749	2,465	767	△ 1,698	-68.9%

薬剤管理指導件数

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
I C U ※1		0	0	0	0	—
ハイリスク ※2		341	705	580	△ 125	-17.7%
そ の 他 ※3		257	608	507	△ 101	-16.6%
退院時服薬指導加算		57	178	151	△ 27	-15.2%
麻薬管理指導加算		29	56	39	△ 17	-30.4%

※1 救命救急入院料算定患者

※2 特に安全管理が必要な医薬品の使用患者

※3 ICU及びハイリスク以外の患者

画像検査・放射線治療件数（画像診断室集計）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
X線一般撮影	29,105	31,704	28,209	△ 3,495	-11.0%
C T	9,706	10,115	10,057	△ 58	-0.6%
M R I	2,706	3,160	3,250	90	2.8%
核医学検査(RI検査)	594	691	617	△ 74	-10.7%
血管造影	376	382	413	31	8.1%
骨塩定量検査	150	184	199	15	8.2%
超音波検査	3,417	3,503	3,768	265	7.6%
P E T／C T検査	263	296	292	△ 4	-1.4%
放射線治療 体外照射件数	861	931	1,086	155	16.6%

リハビリテーション件数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
理 学 療 法	30,104	29,977	28,695	△ 1,282	-4.3%
作 業 療 法	16,335	16,229	15,295	△ 934	-5.8%
言 語 療 法	7,140	6,851	6,708	△ 143	-2.1%

（上記各項目には、物理療法、心理検査等の件数を含む）

患者給食数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比	伸率
常 食	66,791	58,891	55,016	△ 3,875	-6.6%
軟 菜 食	130,982	134,966	128,209	△ 6,757	-5.0%
流 動 食	667	673	1,068	395	58.7%
特 別 食	152,766	166,491	159,812	△ 6,679	-4.0%

臨床検査件数 (主要なものを掲載)

血液生化学検査		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
AST		34,452	35,370	37,802	40,952	40,919
ALT		34,436	35,300	37,737	40,872	40,870
γ-GT		19,773	16,840	19,488	21,437	23,542
総コレステロール		15,266	13,696	13,943	15,689	16,734
HDLコレステロール		8,090	9,017	9,552	10,620	11,362
尿酸		15,615	14,865	16,660	18,260	17,508
血糖		30,427	30,679	32,895	34,905	35,463
ヘモグロビンA1C		11,022	11,169	10,980	11,381	9,731
一般検査						
尿検査定性(糖・蛋白・潜血他)		26,275	25,556	26,143	28,509	28,050
便潜血検査		2,405	2,596	2,703	2,965	2,431
血液学的検査						
一般血液検査(血球数等測定)		39,413	40,454	42,741	45,743	44,942
血液細胞像/白血球分類検査		12,452	14,864	18,403	22,369	22,888
プロトロンビン時間		5,210	5,996	6,951	7,567	7,707
Dダイマー		657	654	919	1,362	1,506
免疫・血清学的検査						
B型肝炎ウイルス抗原		5,274	5,284	5,083	5,029	5,115
C型肝炎ウイルス抗体		5,142	5,003	4,671	4,290	4,449
CEA		3,512	3,692	4,061	4,223	4,348
CA19-9		2,152	2,275	2,592	2,788	2,835
BNP		1,592	1,549	1,998	2,088	2,317
生理機能検査						
心電図		4,894	4,746	4,446	4,223	4,515
ホルター心電図		211	192	140	112	148
脳波		225	214	212	196	60
ABI		304	262	219	201	291
神経伝導速度		91	71	49	60	74
微生物学的検査						
一般細菌培養検査		3,556	4,470	5,902	6,391	6,754
結核菌培養検査		316	246	431	312	511
細胞診検査						
細胞診検査		3,333	3,320	3,252	3,183	2,924
病理組織検査						
病理組織検査		1,742	1,929	1,983	1,814	2,005
術中迅速病理検査		15	14	12	13	16
病理解剖件数		8	6	4	10	4

*臨床検査システムによる集計件数

*心電図には、時間外、救急室、一部病棟での実施分を含まず

地域連携・医療福祉相談件数

紹介率

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
24.9%	22.4%	25.8%	26.3%	26.3%

逆紹介率

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
17.0%	20.7%	19.8%	20.7%	21.7%

新規相談件数

	入 院	外 来	他院等より	計
件 数	406	76	0	482

新規相談の主訴別分類（重複あり）

転院、退院（在宅医療）等の調整	308 件
各種制度紹介、活用援助	217 件
医療費等の経済的問題に関すること	5 件
そ の 他	142 件

新規相談の受診科別分類（重複あり）

内 科	外 科	整形外科	脳神経外科	小児科
188	44	64	100	1
産婦人科	精神科	耳鼻いんこう科	眼 科	皮膚科
2	32	0	1	0
泌尿器科	循環器科	歯科口腔外科	救急総合診療科	他院等より
13	4	1	34	2

面接対応・電話対応・文書作成の延べ件数

	面接対応	電話対応	文書作成
入院（入所）	2,912	833	84
外来（通所）	1,612	438	261

※（入所）（通所）とは、併設の介護老人保健施設アクール若狭利用者を示す

精神科訪問看護実施回数

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
43	34	52	39	36

IV. 決算概要

平成 25 年度公立小浜病院組合病院事業報告書（抜粋）

概況

総括事項

全国的な医師不足、特に地方の医師不足は慢性化しており、医師確保は相当困難な状況が続いています。この医師不足により、一部の診療科を維持できない病院が増えてきており、地域医療の確保・継続が危ぶまれています。

看護師確保についても同様の状況にあり、看護師不足による休床・病棟閉鎖に踏み切る病院も出てきています。当病院組合においても内科・整形外科をはじめとする常勤医師の確保に苦慮しており、健全経営を阻害する大きな要因となっているところ です。

平成 25 年度についても、各事業ともに収益改善に努めて参りましたが、小浜病院事業、介護老人保健施設事業、レイクヒルズ美方病院事業ともに欠損を生ずる結果となりました。このような状況の中ではありますが、平成 26 年 1 月より電子カルテシステムが稼働し、院内医療情報の共有化だけでなく、地域の病診・病病連携の一層の充実を目指しております。

現在、国においては、急激な高齢化社会を見据えて、医療法と介護保険法の改革を一体化する診療報酬改定が進められています。当病院組合も引き続き、医師確保ならびに看護師確保を最重要課題とし、病院組合の各事業の役割をより明確化し、自律的な経営の下で良質な医療、介護を地域住民の皆様に継続して提供できますよう全力で取り組んで参ります。

なお、事業ごとの決算状況については、以下のとおりとなっています。

1) 患者数

外来患者数は、年間延べ 190,009 人(1 日平均 782 人)で、前年度に比較し 524 人(1 日あたり 5 人)増加し、入院患者数は、年間延べ 131,170 人(1 日平均 359 人)で、前年度に比較し 7,281 人(1 日あたり 20 人)減少しました。

2) 収益的収支

収入総額は、6,863,712,906 円で、前年度に比べ 101,223,862 円(1.5%)減少しました。一方、支出総額は、7,593,379,535 円で、前年度に比べ 146,607,061 円(2.0%)の増加となり、729,666,629 円の欠損を生じる結果となりました。

欠損金は、前年度に比べ、247,830,923 円増加しました。

3) 資本的収支

収入は、補助金 633,728,000 円、市町負担金 288,098,117 円、企業債 376,700,000 円など合計 1,305,372,113 円となり、支出では、建設改良費 1,043,481,781 円、企業債償還金 477,622,322 円など合計 1,545,292,103 円となりました。収入不足額の 239,919,990 円については、過年度分損益勘定留保資金 239,919,990 円で補てんしました。

建設改良費のうち病院建築は看護師等環境整備支援事業として、1,785,000 円を執行しました。また、資産購入については、医療機械として医療情報システム、災害医療体制資機材、眼科光干渉層計などを、備品として台風被害排水設備・放射線モニターなどを整備し、合計で 1,041,696,781 円を支出しました。

経営概要

(単位：千円)

年度別		平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	備 考
収益的	収 入	6,860,780	6,964,937	6,863,713	
	支 出	7,370,642	7,466,772	7,593,380	
	収 益	△ 509,862	△ 481,835	△ 729,667	
資本的	収 入	1,206,371	636,355	1,305,372	
	支 出	1,778,081	1,076,635	1,545,292	
	差	△ 571,710	△ 440,280	△ 239,920	
繰入金	損益勘定	619,875	604,438	615,488	
	資本勘定	315,756	357,536	288,098	
	合 計	935,631	961,974	903,586	
医業収支比率		90.5%	93.5%	87.7%	医業収入／医業費用
職員給与费率		63.1%	61.4%	64.2%	職員給与費／医業収益
年度末職員数		440 (127)	437 (132)	438 (125)	()は臨時職員の別掲数
病床利用率		85.4%	87.2%	82.6%	感染病床2床分を除く
病 床 数		456	456	456	

経営分析

分析項目		平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度
1 日 当 り 患 者 数	入 院 (診療実日数)	371人 (366日)	379人 (365日)	359人 (365日)
	外 来 (診療実日数)	759人 (243日)	777人 (244日)	782人 (243日)
	合 計	1130人	1156人	1141人
医 師 1 人 1 日 当 り 患 者 数	入 院	7.6人	8.2人	7.5人
	外 来	15.5人	16.8人	16.3人
	合 計	23.1人	25.0人	23.8人
医 業 収 支 前年度比率	医業収益の 前 年 度 比	102.90%	102.50%	97.70%
	医業費用の 前 年 度 比	101.28%	99.16%	104.18%
	差 引	1.62%	3.34%	△6.48%
患 者 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入	入 院	30,524円	30,474円	31,267円
	外 来	8,817円	8,983円	8,948円
	合 計	39,341円	39,457円	40,213円

収益的収入および支出（公立小浜病院組合）

収益的収入

区 分	平成23年度	平成24年度		平成25年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
小浜病院事業収益	6,860,779,510	6,964,936,768	1.5	6,863,712,906	△ 1.5
医業収益	6,055,043,109	6,206,711,218	2.5	6,063,795,059	△ 2.3
外来収益	1,625,839,808	1,702,104,135	4.7	1,700,153,617	△ 0.1
入院収益	4,149,792,424	4,219,195,729	1.7	4,101,320,298	△ 2.8
介護収益	0	0	0.0	0	0.0
その他医業収益	279,410,877	285,411,354	2.1	262,321,144	△ 8.1
医業外収益	680,676,443	605,835,089	△ 11.0	659,577,614	8.9
財産収益	58,902,946	60,441,675	2.6	71,607,815	18.5
受取利息	0	0	0.0		0.0
受取利息	0	0	0.0		0.0
患者外給食収益	1,063,661	658,114	△ 38.1	701,571	6.6
付添寝具料	838,620	791,370	△ 5.6	738,292	△ 6.7
他会計補助金	523,415,300	483,702,621	△ 7.6	507,331,937	4.9
市町補助金	10,087,680	10,229,760	1.4	10,087,680	△ 1.4
県助成金	4,377,000	6,859,000	56.7	11,630,000	69.6
国庫補助金	12,306,000	11,197,000	△ 9.0	13,016,000	16.2
若狭健康診断室受託料	0	0	0.0		0.0
地域リハビリ支援事業受託料	958,095	862,095	△ 10.0	862,095	0.0
地域療育拠点設置事業受託料	5,878,811	6,172,752	5.0	6,172,752	0.0
寄付金	0	0	0.0		0.0
その他医業外収益	62,848,330	24,920,702	△ 60.3	37,429,472	50.2
へき地医療拠点病院事業収益	24,490,640	27,211,230	11.1	25,316,270	△ 7.0
へき地巡回診療収益	7,014,640	6,992,230	△ 0.3	4,935,270	△ 29.4
補助金	17,476,000	20,219,000	15.7	20,381,000	0.8
高等看護学院収益	100,569,318	125,179,231	24.5	115,023,963	△ 8.1
負担金	14,097,000	14,574,000	3.4	16,856,000	15.7
助成金	86,472,318	110,605,231	27.9	98,167,963	△ 11.2
特別利益	0	0	0.0	0	0.0
固定資産売却益	0	0	0.0	0	0.0

区 分	平成23年度	平成24年度		平成25年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
介護老人保健施設事業収益	544,156,722	543,167,831	△ 0.2	550,759,052	1.4
施設運営事業収益	543,307,200	542,453,774	△ 0.2	550,164,534	1.4
施設介護報酬収益	334,286,754	329,239,859	△ 1.5	333,900,694	1.4
施設利用者負担金収益	36,689,329	36,148,759	△ 1.5	36,631,356	1.3
居宅介護料収益	73,466,169	76,910,908	4.7	79,212,610	3.0
居宅利用者負担金収益	8,031,224	8,304,660	3.4	8,303,854	△ 0.01
利用者等利用料収益	90,442,524	91,445,712	1.1	91,787,677	0.4
その他事業収益	391,200	403,876	3.2	328,343	△ 18.7
施設基本食事サービス料収益					
施設運営事業外収益	849,522	714,057	△ 15.9	594,518	△ 16.7
受取利息	0	0	0.0	0	0.0
その他施設運営事業外収益	849,522	714,057	△ 15.9	594,518	△ 16.7
県補助金	0	0	0.0	0	0.0
レイクヒルズ美方病院事業収益	1,002,655,297	957,950,574	△ 4.5	938,389,491	△ 2.0
医業収益	821,723,920	728,505,552	△ 11.3	718,621,448	△ 1.4
外来収益	229,394,155	214,073,476	△ 6.7	191,942,278	△ 10.3
入院収益	556,583,479	478,545,442	△ 14.0	497,527,308	4.0
その他医業収益	35,746,286	35,886,634	0.4	29,151,862	△ 18.8
医業外収益	180,931,377	229,445,022	26.8	219,768,043	△ 4.2
財産収益	1,874,879	1,730,630	△ 7.7	1,776,751	2.7
受取利息	0	0	0.0		0.0
患者外給食収益	253,300	1,100	△ 99.6	0	皆減
付添寝具料	99,882	55,922	△ 44.0	14,355	△ 74.3
他会計補助金	168,432,448	217,568,649	29.2	217,113,786	△ 0.2
助成金	0	0	0.0		0.0
基金繰入金	9,071,797	8,752,309	△ 3.5	0	皆減
その他医業外収益	1,199,071	1,336,412	11.5	863,151	△ 35.4
計	8,407,591,529	8,466,055,173	0.7	8,352,861,449	△ 1.3

※「皆増」は前年度に数値がなく、全額増加したものを示す。「皆減」は当年度に数値がなく、全額減少したものを示す。

収益の支出

区 分	平成23年度	平成24年度		平成25年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
小浜病院事業費用	7,370,641,956	7,446,772,474	1.0	7,593,379,535	2.0
医業費用	6,690,654,415	6,634,760,259	△ 0.8	6,912,053,033	4.2
給与費	3,818,426,142	3,813,297,925	△ 0.1	3,892,571,794	2.1
材料費	1,273,605,741	1,293,069,802	1.5	1,289,442,340	△ 0.3
経費	722,864,546	785,347,174	8.6	840,800,345	7.1
減価償却費	737,142,117	723,262,446	△ 1.9	653,253,256	△ 9.7
資産減耗費	125,226,635	0	皆減	199,812,761	皆増
研究研修費	13,389,234	19,782,912	47.8	36,172,537	82.8
統轄管理費	42,498,502	44,857,636	5.6	45,670,902	1.8
給与費	39,654,479	41,001,928	3.4	41,820,640	2.0
経費	2,844,023	3,855,708	35.6	3,850,262	△ 0.1
医業外費用	513,526,798	616,047,262	20.0	496,599,729	△ 19.4
支払利息及び企業債取扱諸費	225,207,973	219,529,766	△ 2.5	211,139,524	△ 3.8
患者外給食材料費	1,131,245	866,757	△ 23.4	702,825	△ 18.9
患者外寝具委託費	631,343	629,618	△ 0.3	629,618	0.0
地域リハビリ支援事業費	988,907	888,477	△ 10.2	886,773	△ 0.2
繰延勘定償却	145,676,320	272,407,955	87.0	160,133,069	△ 41.2
消費税	9,027,800	10,190,100	12.9	9,719,200	△ 4.6
積立金	0	0	0.0		0.0
その他医業外費用	130,863,210	111,534,589	△ 14.8	113,388,720	1.7
へき地医療拠点病院費	24,093,335	26,806,894	11.3	25,012,675	△ 6.7
へき地巡回診療事業費	24,093,335	26,806,894	11.3	25,012,675	△ 6.7
高等看護学院費	99,868,906	124,300,423	24.5	114,043,196	△ 8.3
給与費	85,940,118	107,234,334	24.8	94,735,199	△ 11.7
教材費	1,675,845	1,737,520	3.7	1,770,532	1.9
研究研修費	2,260,486	2,601,408	15.1	3,337,293	28.3
経費	9,992,457	12,727,161	27.4	14,200,172	11.6

区 分	平成23年度	平成24年度		平成25年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
介護老人保健施設事業費用	554,254,266	566,920,422	2.3	578,365,008	2.0
施設運営事業費用	526,090,010	539,641,410	2.6	551,934,276	2.3
給与費	378,681,663	386,958,876	2.2	397,223,250	2.7
材料費	44,659,131	48,605,925	8.8	48,365,397	△ 0.5
経費	33,403,006	34,326,086	2.8	36,358,750	5.9
委託費	25,787,835	25,744,945	△ 0.2	24,960,870	△ 3.0
研修費	258,623	482,685	86.6	317,327	△ 34.3
減価償却費	42,584,752	43,522,893	2.2	43,609,864	0.2
資産減耗費	715,000	0	皆減	1,098,818	皆増
施設運営事業外費用	28,164,256	27,279,012	△ 3.1	26,430,732	△ 3.1
支払利息	19,133,397	18,274,341	△ 4.5	17,397,900	△ 4.8
繰延勘定償却	3,308,000	3,308,000	0.0	3,308,000	0.0
消費税	310,200	322,500	4.0	328,100	1.7
雑支出	5,412,659	5,374,171	△ 0.7	5,396,732	0.4
レイクヒルズ美方病院事業費用	1,102,646,235	1,083,012,630	△ 1.8	1,053,574,022	△ 2.7
医業費用	1,048,410,852	1,029,217,963	△ 1.8	998,820,362	△ 3.0
給与費	651,281,415	652,881,240	0.2	632,714,691	△ 3.1
材料費	178,664,736	157,422,021	△ 11.9	138,352,507	△ 12.1
経費	141,032,097	140,444,118	△ 0.4	145,739,879	3.8
減価償却費	76,308,343	77,345,655	1.4	73,975,715	△ 4.4
資産減耗費	0	44,750	皆増	7,253,858	16,109.7
研究研修費	1,124,261	1,080,179	△ 3.9	783,712	△ 27.4
医業外費用	54,235,383	53,794,667	△ 0.8	54,753,660	1.8
支払利息及び企業債取扱諸費	33,941,491	32,962,395	△ 2.9	31,833,924	△ 3.4
患者外寝具委託費	50,100	28,051	△ 44.0	7,200	△ 74.3
繰延勘定償却	4,728,250	4,728,250	0.0	4,728,250	0.0
消費税	1,417,100	1,411,000	△ 0.4	1,122,200	△ 20.5
その他医業外費用	14,098,442	14,664,971	4.0	17,062,086	16.3
計	9,027,542,457	9,096,705,526	0.8	9,225,318,565	1.4

※「皆増」は前年度に数値がなく、全額増加したものを示す。「皆減」は当年度に数値がなく、全額減少したものを示す。

資本的收入および支出（公立小浜病院組合）

資本的收入

区分	平成23年度	平成24年度		平成25年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
小浜病院事業資本的收入	1,206,370,784	636,172,786	△ 47.3	1,305,372,113	105.2
補助金	297,692,570	36,843,000	△ 87.6	633,728,000	1620.1
市町負担金	315,756,214	357,353,782	13.2	288,098,117	△ 19.4
企業債	589,000,000	233,700,000	△ 60.3	376,700,000	61.2
固定資産売却代金	0	0	0.0	0	0.0
修学資金貸付金返還金	3,922,000	8,276,004	111.0	6,845,996	△ 17.3
基金繰入金	0	0	0.0	0	0.0
レイクヒルズ美方病院事業資本的收入	70,154,685	63,337,972	△ 9.7	112,170,144	77.1
市町負担金	54,182,920	47,046,719	△ 13.2	93,170,144	98.0
企業債	0	0	0.0	19,000,000	0.0
固定資産売却代金	0	0	0.0	0	0.0
基金繰入金	15,971,765	16,291,253	2.0	0	△ 100.0
合 計	1,276,525,469	699,510,758	△ 45.2	1,417,542,257	102.6

資本の支出

区分	平成23年度	平成24年度		平成25年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
小浜病院事業資本の支出	1,778,080,746	1,076,635,412	△ 39.4	1,545,292,103	43.5
建設改良費	1,038,677,938	446,394,404	△ 57.0	1,043,481,781	133.8
企業債償還金	720,554,808	611,009,008	△ 15.2	477,622,322	△ 21.8
修学資金貸付金	18,848,000	19,232,000	2.0	24,188,000	25.8
予備費	0	0	0.0	0	0.0
介護老人保健施設事業資本の支出	56,029,862	46,988,123	△ 16.1	47,559,014	1.2
建設改良費	13,566,345	3,665,550	△ 73.0	3,360,000	△ 8.3
企業債償還金	42,463,517	43,322,573	2.0	44,199,014	2.0
予備費	0	0	0.0	0	0.0
レイクヒルズ美方病院事業資本の支出	70,154,685	63,337,972	△ 9.7	112,170,144	77.1
建設改良費	11,000,000	3,000,000	△ 72.7	50,625,000	1587.5
企業債償還金	59,154,685	60,337,972	2.0	61,545,144	2.0
予備費	0	0	0.0	0	0.0
計	1,904,265,293	1,186,961,507	△ 37.7	1,705,021,261	43.6

V. 公立病院改革プラン

概要・評価

平成 2 5 年度

杉田玄白記念公立小浜病院
改革プラン実績評価書

平成 2 6 年 8 月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

◎ はじめに

病院改革プラン（以下、「改革プラン」という。）は、平成１９年１２月に総務省において策定された「公立病院改革ガイドライン」に沿って平成２１年３月に策定され、その取り組み状況についての点検・評価をおこなう為、評価委員会が設置された。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表等を含む５名の委員で構成され、平成２５年度決算の状況を含め、改革プランの実施状況の点検・評価を実施した。

１.評価区分の基準

「計画・実績」「改革プランにおける数値目標等（実績・目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように４段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

２.総合評価

昨年度来からの評価結果に対する経過を踏まえ、一応の努力はみられるものの、引き続き経常収支比率等の改善を目指して頂きたい。

今後も、常勤医師・看護師の確保に注力し、診療機能の充実、経営改善を図るとともに地域の基幹病院としての役割を更にしっかりと担っていただきたい。

Ⅰ.「公立病院として今後果たすべき役割」

①初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

入院患者数が減少し、入院・外来共に収益は減少した。しかし救急科専門医の３名体制が継続し、救急医療が充実することによって、公立病院として地域の救急医療を担っていることは、高く評価できる。

②生活習慣病に適切に対応する医療提供

健診者数・健診収益ともに増加している。今後は専従医師の確保に注力し、地域の

予防医療に取り組んでいただきたい。

③地域災害医療センターとしての医療機能の提供

DMA T活動、および各種の訓練・研修会への参加等の積極的な姿勢は評価できる。又、平成25年度は機材の整備も進み災害時の医療機能確保へ対応している。今後も災害拠点病院としての機能を果たしていただきたい。

④へき地医療拠点病院としての機能の提供

患者数は高齢化に伴い徐々に減少傾向にあるが、無医地区への巡回診療はへき地医療拠点病院として高く評価できる。

⑤小児医療・産科医療の確保

地方において、小児科医3名 産科医2名を維持しながら地域医療に貢献していることは高く評価できる。

⑥研修機能の充実

認定看護師研修への参加等、看護師の研修体制を整備している。又、臨床研修医は平成25年度も引き続きフルマッチであり評価できる。今後も嶺南医療振興財団奨学生の確保・定着に注力することを期待する。

⑦看護師の養成・確保

さまざまな取組をおこなってはいるが、平成25年度は採用者数と退職者数の差が1名の増で看護師の確保がなされているとは言い難い。今後は現在の取組の他、看護師の定着及び、併設の公立若狭高等看護学院卒業生の確保の取組が望まれる。

⑧地域医療機関との連携の推進

紹介率・逆紹介率に対する取り組み姿勢については一定の評価ができる。しかしながら、当地域の診療所数と医療提供体制を考慮すると、残念ながらこれ以上の紹介率・逆紹介率の増加は期待しがたい状況にある。

「嶺南」二次医療圏ではないが、紹介率・逆紹介率の向上、患者数増加対策、ひいては増収のために、小浜市と生活圏の一致する京都府舞鶴市方面、「中丹」二次医療圏に属する「国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院」および「独立行政法人 国立病院機構 舞鶴医療センター」等との連携を更に向上させることが必要である。

Ⅱ.「経費削減・抑制対策」

①給与費の抑制

電子カルテ導入に際しての、超過勤務手当の増加は考慮する。医療技術職員の増加も、診療報酬請求の基準上、必要性を認める。

②経費の削減

今後は消費税率のアップにも注視し 薬品費、診療材料費の価格交渉等により対医業収益で減少を目指してもらいたい。

Ⅲ.「収入増加・確保対策」

①急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。

急性期病院として、平均在院日数の増が抑制されていることは高く評価できる。

今後は、病床利用率を確保し、収益の増加を図ることが望まれる。

②亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。

診療報酬改定によって、亜急性期医学管理料が削除となるため、今回の評価はしないこととする。

③初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。

初診時特定療養費・一部診断書料金の見直しにより増収を図っている点は評価できる。紹介外来制の診療科を開放し、初診時特定療養費の徴収による増収を期待する。

④診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。

診療報酬改定説明会等へ多くの職員が参加しており、成果を出していることは評価できる。今後も DPC を有効に活用し、収益増を目指して頂きたい。

⑤良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。

診療情報管理士の本来の仕事ではないが、収益性の向上を図るには、DPC病院として診療情報管理士の育成に取り組む姿勢は評価できる。

⑥地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。

紹介率・逆紹介率は微増しているが、地域の医療環境を考慮すると紹介率に関する地域医療支援病院の現行施設認定基準を満たすことは困難と考えられる。地域医療支援病院としての機能は十分に充たしていると認められるので、政治的配慮が必要な問題として地域の状況に見合った基準の見直しに期待する。

改革プランにおける数値目標等（実績・目標）

（単位：百万円）

収支		平成２４年度 決算	平成２５年度 プラン (A)	平成２５年度 決算（B）	決算-プラン B－A	平成２６年度 プラン
病院事業収益		6,965	6,767	6,864	97	6,767
	うち外来収益	1,702	1,588	1,700	112	1,588
	うち入院収益	4,219	4,187	4,101	▲ 86	4,187
	うち医業外収益	669	668	635	▲ 33	668
病院事業費用		7,447	7,026	7,593	567	7,026
	うち給与費	3,376	3,270	3,391	121	3,270
	うち材料費	1,293	1,420	1,289	▲ 131	1,420
	うち経費	785	750	841	91	750
	うち減価償却費	996	782	1,013	231	671
純損益		▲ 482	▲ 259	▲ 730	▲ 471	▲ 259
累積欠損金		3,899	4,840	4,629	▲ 211	4,840
資金収支		514	523	283	▲ 240	523
不良債務		－	－	－	－	－

財務に係る数値目標	平成２４年度 決算	平成２５年度 プラン (A)	平成２５年度 決算（B）	決算-プラン B－A	平成２６年度 プラン	自己評価	委員会評価
経常収支比率	93.6	96.3	90.4	▲ 5.9	96.3	×	×
（減価償却費を除く）	103.6	106.5	98.9	▲ 7.6	106.5	×	×
医業収支比率	94.9	92.8	89.2	▲ 3.6	92.8	×	×
職員給与費率	53.1	53.6	54.4	0.8	53.6	△	△
病床利用率（一般）	85.0	81.0	80.4	▲ 0.6	81.0	△	△
病床利用率（療養）	94.8	90.0	91.1	1.1	90.0	○	○
病床利用率（全体）	84.3	82.2	79.9	▲ 2.3	82.2	△	△
外来患者数（１日平均）	776.9	810.0	781.9	▲ 28.1	810.0	△	△

平成25年度 杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン評価シート

公立病院として今後果たすべき役割

嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。									
役割と計画		実 績			進捗の判断		自己評価	委員会評価	
① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供					①長期減少傾向にあった外来患者数は、平成24年度に続き、平成25年度においても上向いた。 平成20年度以降、順調に増加してきた入院患者数は平成25年度において減少に転じた。それに伴い入院収益が減少した。 ②平成22年度は、救急専門医師が2名であったが、平成23年度以降は3名に増員したことにより救急医療体制が充実し、患者数の増加が続いている。 ③救命救急センターを持つ地域の中核病院として、地域の救急医療に貢献している。	○	○		
② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供					①平成24年度より、協会けんぽ生活習慣病予防健診、市町個別がん検診に参加したことにより、健診者数は増加した。 ②専従の医師確保に苦慮している。	○	○		
役割と計画		実 績			進捗の判断		自己評価	委員会評価	
③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供		4月	淡路島での地震（震度6弱）により隊員召集・待機		有資格の職員（医師、看護師）の退職により、チーム編成が難しい状況となったが、訓練や研修会へは積極的に参加している。平成25年度中に緊急車両（救急車）が配備され、有事の際にはいち早く現場への移動が可能となり、さらに、県の補助により、チーム資機材の追加配備が実施された（ベンチレーター、AED、エコー等）ことにより、機動的な活動が期待できる。 新規の隊員養成については、継続して県当局に養成研修会への参加を要望中である。	○	○		
		6月	福井県DMAT TM 連絡協議会（1名参加）						
		8月	政府主催 広域患者搬送訓練（全国規模）隊員4名が参加し愛知県内での訓練活動を実施						
		10月	DMAT隊員技能維持研修（石川県金沢市）（1名参加）						
		※奇数月の第2木曜日に定例の隊員ミーティングを実施し、情報交換や資機材点検を実施							
		※平成25年度の福井県総合防災訓練は、ごく小規模での実施計画となり、嶺北の5チームを対象として実施されたため、当院は参加せず							
④ へき地医療拠点病院としての機能の提供					へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当しているが、地域の過疎化により受診者は減少している。しかし、交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。 また、名田庄診療所の要請により医師を派遣した。	○	○		
⑤ 小児医療・産科医療の確保					地方の医療機関で医師不足が深刻化する中、小児科医3名、産科医2名を維持しながら地域医療を担っている状況にある。 （平成25年4月より小児科は3名体制となった。） 小児医療については、休日の小児医療の確保の他、嶺南地域の小児療育医療に取り組んでおり、平成24年度に小児療育施設が完成した。 産科医療では、地域の妊産婦が安心して分娩できるよう医療体制を維持していく。 しかし収益面では、少子化による患者数の減少により悪化している。	○	○		
		小児医療	外 来 延 患 者 数	17,152人				17,071人	16,262人
			入 院 延 患 者 数	1,650人				1,712人	1,359人
			外 来・入院収益	148,557千円				146,195千円	129,633千円
		産科医療	外 来 延 患 者 数	7,439人				7,261人	6,439人
			入 院 延 患 者 数	3,491人				3,885人	2,435人
			外 来・入院収益	161,893千円				168,752千円	124,807千円
			正 常 分 娩	110件				100件	133件
			異 常 分 娩	77件				75件	29件
			帝 王 切 開	44件				42件	40件
			計	231件				217件	202件

役割と計画	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																														
⑥ 研修機能の充実	①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを平成22年度に購入し、研修に利用している。 ②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会の開催や講演会などの受講が、当院に居ながら可能になり、継続的に利用している。 ③研修医については、平成25年度も引き続きフルマッチであり、研修修了者1名が後期研修に残った。 ④医師の国内研修制度を整備し、研修を推奨している。 (単位：人) <table><tr><th></th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th><th>平成25年度</th></tr><tr><td rowspan="5">学会 出身</td><td>医 師</td><td>228</td><td>246</td><td>247</td></tr><tr><td>看 護 師</td><td>97</td><td>154</td><td>165</td></tr><tr><td>医 療 技 術 員</td><td>75</td><td>139</td><td>90</td></tr><tr><td>事 務 、 他</td><td>72</td><td>81</td><td>65</td></tr><tr><td>計</td><td>472</td><td>620</td><td>567</td></tr><tr><td rowspan="4">臨床 研修 医</td><td>病 院 単 独</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>たすきがけ医科</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td># 産 科</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>救 急 救 命 士 研 修</td><td>12</td><td>16</td><td>1</td></tr></table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	学会 出身	医 師	228	246	247	看 護 師	97	154	165	医 療 技 術 員	75	139	90	事 務 、 他	72	81	65	計	472	620	567	臨床 研修 医	病 院 単 独	7	7	8	たすきがけ医科	1	1	0	# 産 科	1	0	0	計	9	8	8	救 急 救 命 士 研 修	12	16	1	①新人はもとより職場復帰者の研修においても、より安全に技術の向上が図れる体制が整った。 ②地域性の問題を解消し医療知識の向上が図れるようになった。現在は毎週金曜日に福井大学の研修医・医療従事者向けコアレクチャーなどを受講している。 ③今後も研修医の指導を充実させ、研修医を確保・定着を図るとともに嶺南医療振興財団の奨学生を確保する。 ④医師の技術習得・他病院での研修に対する支援制度確立を図った。 ⑤看護師については、引き続き認定看護師の養成に努力しており、平成25年度では、1名が認定され、計3名となった。新たに4名が研修に参加した。また、専任教員養成研修においては、平成25年も1名が受講した。	○	○
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																																															
学会 出身	医 師	228	246	247																																														
	看 護 師	97	154	165																																														
	医 療 技 術 員	75	139	90																																														
	事 務 、 他	72	81	65																																														
	計	472	620	567																																														
臨床 研修 医	病 院 単 独	7	7	8																																														
	たすきがけ医科	1	1	0																																														
	# 産 科	1	0	0																																														
	計	9	8	8																																														
救 急 救 命 士 研 修	12	16	1																																															
⑦ 看護師の養成・確保	(単位：人) <table><tr><th></th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th><th>平成25年度</th></tr><tr><td rowspan="3">看護 師</td><td>新 採 用</td><td>19</td><td>17</td><td>20</td></tr><tr><td>退 職</td><td>16</td><td>23</td><td>19</td></tr><tr><td>増 減</td><td>3</td><td>-6</td><td>1</td></tr><tr><td rowspan="3">看護 学生</td><td>入 学 生</td><td>37</td><td>32</td><td>44</td></tr><tr><td>卒 業 生</td><td>20</td><td>32</td><td>31</td></tr><tr><td>小浜病院組合就職者</td><td>6</td><td>12</td><td>11</td></tr></table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	看護 師	新 採 用	19	17	20	退 職	16	23	19	増 減	3	-6	1	看護 学生	入 学 生	37	32	44	卒 業 生	20	32	31	小浜病院組合就職者	6	12	11	①看護師の確保については、7：1看護体制を維持するための人数確保に努力している。引き続き、若狭高卒の卒業生を確保するとともに、他の看護学校・看護大学の新卒者や潜在看護師の確保を図る。 ②看護師確保の為、修学資金を月5万円に増額するとともに、看護大学進学者等への奨学金制度を平成25年度より施行した。 ③看護師の養成については、9年連続で国家試験合格率が100%の実績を残せた。今後も、学生の獲得を図る。	△	△																
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																																															
看護 師	新 採 用	19	17	20																																														
	退 職	16	23	19																																														
	増 減	3	-6	1																																														
看護 学生	入 学 生	37	32	44																																														
	卒 業 生	20	32	31																																														
	小浜病院組合就職者	6	12	11																																														
⑧ 地域医療機関との連携の推進	<table><tr><th></th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th><th>平成25年度</th></tr><tr><td>紹 介 患 者 数</td><td>3,597人</td><td>3,779人</td><td>3,945人</td></tr><tr><td>逆 紹 介 患 者 数</td><td>2,258人</td><td>2,355人</td><td>2,485人</td></tr><tr><td>紹 介 率</td><td>25.8%</td><td>26.3%</td><td>26.3%</td></tr><tr><td>逆 紹 介 率</td><td>19.7%</td><td>20.7%</td><td>21.7%</td></tr></table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	紹 介 患 者 数	3,597人	3,779人	3,945人	逆 紹 介 患 者 数	2,258人	2,355人	2,485人	紹 介 率	25.8%	26.3%	26.3%	逆 紹 介 率	19.7%	20.7%	21.7%	内科、整形外科を紹介制にした影響もあり、紹介率・逆紹介率ともに増加傾向にある。 地域の医療機関との連携について連絡・協議を行う体制作りに取り組み、紹介率、逆紹介率の向上、高額医療機器・病床の共同利用等、地域の基幹病院としての機能の向上に取り組んで行きたい。	△	△																										
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																																															
紹 介 患 者 数	3,597人	3,779人	3,945人																																															
逆 紹 介 患 者 数	2,258人	2,355人	2,485人																																															
紹 介 率	25.8%	26.3%	26.3%																																															
逆 紹 介 率	19.7%	20.7%	21.7%																																															

経費削減・抑制対策	実 績			進捗の判断		自己評価	委員会評価
① 給与費の抑制 ・業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 ・医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。	(人数は4月1日付)				①職員数は減少しているが、平成25年度においては、電子カルテの導入作業による超過勤務等の増加により給与費は増加し、対医業収益比は悪化した。 ②業務委託の拡大は、職員の退職の状況等を考慮しながら引き続き検討する。	△	△
	職員数	平成23年度	平成24年度	平成25年度			
	医 師	43 (8) 人	42 (13) 人	45 (10) 人			
	看 護 師	241 (74) 人	240 (78) 人	233 (69) 人			
	医 療 技 術 員	68 (5) 人	69 (5) 人	72 (7) 人			
	事 務 ・ 他	95 (31) 人	95 (35) 人	91 (41) 人			
	計	447 (118) 人	446 (131) 人	441 (127) 人			
	給 与 費	3,386,602千円	3,376,122千円	3,391,178千円			
	対医業収益比(%)	54.3%	53.1%	54.4%			
② 経費の削減 ・診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。また、物品の一括管理（SPD）の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。 薬品費の削減を図る。					①薬品費削減を図るため後発品の使用を拡大している。入院収益の減に伴い、薬品費も減少した。 ②診療材料費削減を図るため、同等品で安価なものへ切替等努力しているが、手術材料等の増加により、対医業収益比は悪化した。 ③経費については、価格高騰で光熱水費は増加傾向にあるが、業者交渉による削減努力を行っている。 委託費については、職員採用を抑え派遣等への切替の他、検査委託、画像診断委託等の業務量の増により、委託費が増加傾向にある。	△	△
		平成23年度	平成24年度	平成25年度			
	薬 品 費	644,914千円	672,921千円	656,915千円			
	対医業収益比(%)	10.7%	10.8%	10.8%			
	診 療 材 料 費	512,801千円	498,819千円	507,382千円			
	対医業収益比(%)	8.5%	8.0%	8.1%			
	経 費	722,864千円	785,347千円	840,800千円			
	対医業収益比(%)	11.9%	12.7%	13.9%			
	う ち 委 託 費	385,090千円	421,501千円	463,162千円			

収入増加・確保対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。	<table><tr><th></th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th><th>平成25年度</th></tr><tr><td>病床利用率（全体）</td><td>82.5%</td><td>84.3%</td><td>79.9%</td></tr><tr><td>平均在院日数（一般）</td><td>16日</td><td>16日</td><td>16日</td></tr></table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	病床利用率（全体）	82.5%	84.3%	79.9%	平均在院日数（一般）	16日	16日	16日	救急科での1泊入院、クリニカルパスの活用などにより、平均在院日数は低く推移している。入院患者数の減少により、病床稼働率は低下した。	△	△								
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																					
病床利用率（全体）	82.5%	84.3%	79.9%																					
平均在院日数（一般）	16日	16日	16日																					
② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。（年間 21,900千円）	<table><tr><th></th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th><th>平成25年度</th></tr><tr><td>亜急性期病床</td><td>20床</td><td>20床</td><td>20床</td></tr><tr><td>1日平均患者数</td><td>18.3人</td><td>18.1人</td><td>12.5人</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>91.3%</td><td>90.4%</td><td>62.5%</td></tr></table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	亜急性期病床	20床	20床	20床	1日平均患者数	18.3人	18.1人	12.5人	病床利用率	91.3%	90.4%	62.5%	亜急性期病棟は、施設基準の改正等により、平成25年度をもって廃止し、同一フロアの一般病床とともに療養病棟へ変更した。 今後も、患者の病態等の状況等を踏まえ柔軟に対応したい。	－	－				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																					
亜急性期病床	20床	20床	20床																					
1日平均患者数	18.3人	18.1人	12.5人																					
病床利用率	91.3%	90.4%	62.5%																					
③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。	平成23年12月より、初診時特定療養費・一部診断書料金について県内の病院料金を考慮し増額改定した。	平成22年度と比較し、平成25年度の手数料収益は 4,678千円の増収となった。	○	○																				
④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。	(平成25年度診療報酬関係研修会参加状況) 診療情報管理士専門課程 2名参加 診療情報管理士基礎課程 4名参加 D P C分析セミナー 3名参加 第40回診療録情報管理懇話会 1名参加 第17回中国診療情報管理研修会 1名参加 県I C D コーディング勉強会 2名参加 第3回全国医事医療研究会 1名参加 診療報酬管理研修会 1名参加 診療報酬改定セミナー 19名参加 診療報酬改定説明 2回（所属長会議）	医師をはじめ、看護師、医療技術員に対しても、診療報酬改定の院内講習会を実施した。更に事務部において研修、情報収集、分析を行い各職種に対し問題提起すると同時に、適切なコーディング等によりD P C を有効に活用し収益増を目指す。 その為、診療情報管理士の取得育成のために研修派遣をおこなっている。	○	○																				
⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類包括評価（D P C）準備病院に平成20年度申請した。	平成22年7月よりD P C 請求開始。 (平成24年度) 診療情報管理士基礎課程を2名受講。 診療情報管理士専門課程を2名受講。 診療情報管理士試験に3名合格となった。 (平成25年度) 診療情報管理士基礎課程を4名受講。 診療情報管理士専門課程を2名受講	院内の診療情報管理士は5名となった。今後も引き続き診療情報管理士養成に取り組み、D P C *2を有効に活用する。 (平成26年度) 診療情報管理士基礎課程を2名受講中。 診療情報管理士専門課程を4名受講中。	○	○																				
⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。	<table><tr><th></th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th><th>平成25年度</th></tr><tr><td>紹介患者数</td><td>3,597人</td><td>3,779人</td><td>3,945人</td></tr><tr><td>逆紹介患者数</td><td>2,258人</td><td>2,355人</td><td>2,485人</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>25.8%</td><td>26.3%</td><td>26.3%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>19.7%</td><td>20.7%</td><td>21.7%</td></tr></table>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	紹介患者数	3,597人	3,779人	3,945人	逆紹介患者数	2,258人	2,355人	2,485人	紹介率	25.8%	26.3%	26.3%	逆紹介率	19.7%	20.7%	21.7%	地域医療支援病院の認定要件が緩和されることを期待したが、現時点での認定取得は困難である。	×	×
	平成23年度	平成24年度	平成25年度																					
紹介患者数	3,597人	3,779人	3,945人																					
逆紹介患者数	2,258人	2,355人	2,485人																					
紹介率	25.8%	26.3%	26.3%																					
逆紹介率	19.7%	20.7%	21.7%																					

*1 D M A T …医師・看護師・医療職及び事務職員で構成され、大規模災害等が発生した事故などの現場に、急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。

*2 D P C …診断群分類包括評価（D P C）を用いた入院医療費の定額支払い。

公立病院改革プランの概要

団 体 名		公立小浜病院組合										
プ ラ ン の 名 称		杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン										
策 定 日		平成21年3月26日										
対 象 期 間		平成21年度 ～ 平成27年度										
病院 の 現 状	病 院 名	杉田玄白記念公立小浜病院										
	所 在 地	福井県小浜市大手町2番2号										
	病 床 数	456床(一般290床 結核8床 感染2床 療養50床 精神100床 ドック6床)										
	診 療 科 目	内科・呼吸器科・循環器科・外科・整外・脳外・産科・児科・耳科・眼科・泌科・皮科・放科 麻科・心血外科・形外・精科・神科・リハ科・歯口科										
公立病院として今後果たすべき役割(概要)		嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。 ① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供 ② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供 ③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供 ④ へき地医療拠点病院としての機能の提供 ⑤ 小児医療・産科医療の確保 ⑥ 研修機能の充実 ⑦ 看護師の養成・確保 ⑧ 地域医療機関との連携の推進										
一般会計における経費負担の考え方(繰出基準の概要)		・ 1床あたりの普通交付税額相当分 ・ 救命救急センター運営に係る特別交付税額相当分 ・ 学生1人あたりの普通交付税額相当分 ・ 企業債元利償還額の普通交付税額相当分										
経営 効 率 化 に 係 る 計 画	財務に係る数値目標 (主なもの)		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考
	変 更 後	経常収支比率	91.0%	85.7%	95.1%	88.5%	89.7%	93.7%	96.3%	99.4%	100.7%	
		(減価償却費を除く)	96.2%	98.3%	106.8%	98.9%	100.2%	104.1%	106.5%	108.1%	109.2%	
		医業収益比率	88.3%	81.7%	84.4%	86.3%	89.1%	91.9%	92.8%	94.7%	95.4%	
		(減価償却費を除く)	93.9%	95.0%	96.2%	97.2%	100.7%	103.2%	103.4%	103.6%	104.0%	
		職員給与費比率	60.5%	59.3%	57.5%	56.4%	54.4%	53.6%	53.6%	53.6%	53.5%	
		材料費比率	24.9%	25.3%	24.0%	23.9%	23.6%	23.5%	23.3%	23.1%	22.9%	
		経 費	11.9%	12.6%	12.2%	12.4%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	
		病床利用率	73.0%	71.1%	77.8%	76.7%	81.6%	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	
	変 更 前	経常収支比率				89.3%	89.6%	93.6%	96.3%	99.3%	100.6%	
		(減価償却費を除く)				99.7%	100.1%	104.0%	106.4%	108.1%	109.1%	
		医業収益比率				87.1%	89.0%	91.9%	92.8%	94.7%	95.3%	
		(減価償却費を除く)				98.2%	100.6%	103.1%	103.3%	103.6%	103.9%	
		職員給与費比率				55.8%	54.5%	53.6%	53.6%	53.6%	53.5%	
		材料費比率				23.7%	23.7%	23.5%	23.3%	23.1%	22.9%	
		経 費				12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	
		病床利用率				82.2%	85.6%	86.7%	86.7%	86.7%	86.7%	
	上記目標数値設定の考え方		・ 支出においては、現金支出を伴わない高額の「減価償却費」等が含まれており、平成26年度までの黒字化は困難である。(経常黒字化の目標年度: 27年度) ・ 平成21年8月に看護の質の向上を図るため、7:1施設基準を取得した。そのため、入院患者数、入院単価を見直し、平成22年度より数値目標を変更した。									

					団体名 (病院名)		杉田玄白記念公立小浜病院					
公立病院としての医療機能に係る数値目標（主なもの）		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考	
		入院患者数(人)	114,012	116,800	127,750	125,925	134,322	135,050	135,050	135,050	135,420	
		手術件数(件)	1,599	1,732	1,818	1,909	2,004	2,024	2,024	2,024	2,030	
		健診件数(件)	796	1,090	1,300	1,365	1,430	1,445	1,445	1,445	1,449	
		研修医受入数(人)	1	4	6	8	8	8	8	8	8	
経営効率化に係る計画	数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期	民間的経営手法の導入	・ 病院給食業務の一部を外部委託している。 ・ 施設内の清掃業務・警備業務を外部委託している。 ・ 外来投薬の院外処方化を平成17年度から実施している。 ・ 医事業務の一部を機械化し、平成21年4月から運用を開始する。 ・ 電話交換手業務を外部委託の方向で検討中。 ・ 施設・設備の管理業務を一括して外部委託の方向で検討中。									
		事業規模・形態の見直し	病床運営 ・ 病床数は現行の450床を維持する。 ・ 救急・急性期機能に特化し、亜急性期病床を有効利用する。 ・ 維持期の患者については他施設へ紹介するなど、一層の連携を進める。									
		経費削減・抑制対策	① 給与費の抑制 ・ 業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 ・ 医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。 ② 経費の削減 ・ 診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。 - また、物品の一括管理(SPD)の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。 ・ 高度医療施設整備事業(第3期工事)の工事費および医療機器購入については、出来るだけ事業費の削減を図る。									
		収入増加・確保対策	① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。 ② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。(年間 21,900千円) ③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。 ④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。 ⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価(DPC)準備病院に平成20年度申請した。 ⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。									
	その他											
各年度の収支計画		別紙1のとおり										
その他の特記事項	病床利用率の状況	17年度 86% 18年度 83% 19年度 73%										
	病床利用率の状況を踏まえた病床数等の抜本見直し、施設の増改築計画の状況等	① 病床数の見直し ・ 病床数は現行の450床とし、平成24年度には利用率82%をめざす。 ・ 健診ベット6床についても現状を維持する。 ② 施設の増改築計画 ・ 平成14年4月に設置された「公立小浜病院高度医療施設整備計画策定委員会」の答申を受け、平成15年度より、施設整備事業を進めてきたが、平成21年度から3ヶ年計画で最終事業となる第3期工事に着手の予定。 - 第3期工事の骨子は診療棟の増築、既存施設の改修・解体、患者用駐車場整備であるが、あわせて福井県エネルギー研究開発拠点化計画に基づく病院医療機能の拡充にも取り組む。 (既存施設のうち、旧病棟は昭和55年以前に設計された建物であり、耐震強度基準を満たしていないため解体撤去し、狭隘化している患者用駐車場を拡張したい。)										

		団体名 (病院名)	杉田玄白記念公立小浜病院
再編・ネットワーク化に係る計画	二次医療圏内の公立病院等配置の現況	本院が所在する福井県嶺南医療圏には、次の公立病院および公的病院が開設されている。 ・ 市立敦賀病院(敦賀市・375床)・国立病院機構福井病院(敦賀市・320床) ・ レイクヒルズ美方病院(若狭町・美浜町・100床) ・ 国保上中病院(若狭町・75床) ・ 社会保険高浜病院(高浜町・115床) (参考資料:嶺南医療圏における病院の概要・福井県医療体制図)	
	都道府県医療計画等における今後の方向性		
	再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期>	<内 容> 医療圏は2つの地域に区別されるが、本院が属する若狭地域にあつては、本院が唯一の基幹病院である。 (参考資料:嶺南医療圏における病院の概要・福井県医療体制図) 医療機関との連携 ・ 既に레이크ヒルズ美方病院とは医師の支援・職員の人事交流・患者紹介・逆紹介を行なっている。また上中病院を含む地域の医療機関と連携を図り、患者紹介・逆紹介を行なうとともに、CT・MRI・PET-CT検査を受託しており今後も地域の医療機関との連携を強化して行きたい。
経営形態見直しに係る計画	経営形態の現況 (該当箇所)に ☒ を記入)	☒ 公営企業法財務適用 ☐ 公営企業法全部適用 ☐ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☒ 一部事務組合・広域連合	
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所)に ☒ を記入、検討中の場合は複数可)	☒ 公営企業法全部適用 ☒ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☐ 民間譲渡 ☐ 現状維持を含め様々な形態を検討 ☐ 診療所化 ☐ 老健施設など、医療機関以外の事業形態への移行	
	経営形態見直し計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期> 平成21年度 調査研究 平成22年度 方向性とりまとめ	<内 容> 本院の使命と役割、さらに地域医療の確保・充実などの観点に立ち、平成21年度より、病院組合事業間で設置されている「病院組合事業運営会議」において、調査・研究したいと考えています。 平成22年度内には、病院としての方向性をとりまとめ、関係自治体と協議する予定です。
点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	外部有識者・住民代表・行政代表を含む「病院評価委員会」を平成21年度に設置予定	
	点検・評価の時期(毎年〇月頃等)	毎年度9月末を目途とする。	
その他特記事項			

(別紙1)

団体名 (病院名)	杉田玄白記念公立小浜病院
--------------	--------------

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位: 百万円、%)

年度		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
区 分	1. 医 業 収 益 a	5,108	4,952	5,180	5,597	5,781	6,050	6,099	6,099	6,099	6,114
	(1) 料 金 収 入	4,828	4,715	4,899	5,293	5,466	5,725	5,774	5,774	5,774	5,786
入	(2) そ の 他	280	237	281	304	315	325	325	325	325	328
	うち 他 会 計 負 担 金	112	48	23	23	23	23	23	23	23	23
入	2. 医 業 外 収 益	646	719	742	1,421	601	618	673	668	662	696
	(1) 他会計負担金・補助金	318	381	427	457	449	466	519	514	508	543
入	(2) 国 (県) 補 助 金	203	195	192	179	11	11	11	11	11	11
	(3) そ の 他	125	143	123	785	141	141	143	143	143	142
入	経 常 収 益 (A)	5,754	5,671	5,922	7,018	6,382	6,668	6,772	6,767	6,761	6,810
	1. 医 業 費 用 b	5,481	5,605	6,338	6,632	6,700	6,789	6,633	6,570	6,439	6,408
支	(1) 職 員 給 与 費 c	2,941	2,996	3,073	3,220	3,259	3,292	3,270	3,270	3,270	3,270
	(2) 材 料 費	1,348	1,231	1,311	1,344	1,381	1,430	1,431	1,420	1,408	1,399
支	(3) 経 費	513	587	651	684	718	744	750	750	750	752
	(4) 減 価 償 却 費	335	332	883	811	755	781	723	671	552	528
支	(5) そ の 他	344	459	420	573	587	542	459	459	459	459
	2. 医 業 外 費 用	533	625	570	751	511	647	598	456	366	356
出	(1) 支 払 利 息	135	211	256	245	235	240	229	218	207	198
	(2) そ の 他	398	414	314	506	276	407	369	238	159	158
出	経 常 費 用 (B)	6,014	6,230	6,908	7,383	7,211	7,436	7,231	7,026	6,805	6,764
	経 常 損 益 (A)-(B) (C)	-260	-559	-986	-365	-829	-768	-459	-259	-44	46
特別損益	1. 特 別 利 益 (D)	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	0	253	0	0	0	0	0	0	0	0
特別損益	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	-225	0	0	0	0	0	0	0	0
	純 損 益 (C)+(F)	-260	-784	-986	-365	-829	-768	-459	-259	-44	46
不良債権	累 積 欠 損 金 (G)	390	1,174	2,160	2,525	3,354	4,122	4,581	4,840	4,884	4,838
	流 動 資 産 (ア)	4,387	1,539	1,071	1,249	1,028	960	1,201	1,545	1,811	2,128
不良債権	流 動 負 債 (イ)	2,800	472	308	366	382	395	399	399	399	400
	うち 一 時 借 入 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不良債権	翌 年 度 繰 越 財 源 (ウ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当 年 度 同 意 等 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (エ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不良債権	不 良 債 権 差 引 [(イ)-(エ)] - [(ア)-(ウ)] (オ)	-1,587	-1,067	-763	-883	-646	-565	-802	-1,146	-1,412	-1,728
	経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	95.7	91.0	85.7	95.1	88.5	89.7	93.7	96.3	99.4	100.7
不良債権	不 良 債 権 比 率 $\frac{(F)}{(A)} \times 100$	-31.1	-21.5	-14.7	-15.8	-11.2	-9.3	-13.1	-18.8	-23.2	-28.3
	医 業 収 支 比 率 $\frac{(C)}{(A)} \times 100$	93.2	88.3	81.7	84.4	86.3	89.1	91.9	92.8	94.7	95.4
不良債権	職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{(C)}{(a)} \times 100$	57.6	60.5	59.3	57.5	56.4	54.4	53.6	53.6	53.6	53.5
	地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額 (H)										
不良債権	資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{(A)} \times 100$										
	病 床 利 用 率	83.1	73.0	71.1	77.8	76.7	81.6	82.2	82.2	82.2	82.2

団体名 (病院名)	杉田玄白記念公立小浜病院
--------------	--------------

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
区 分											
収 入	1. 企 業 債	2,820	4,206	37	200	721	147	50	50	50	50
	2. 他 会 計 出 資 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 他 会 計 負 担 金	51	91	107	208	324	316	357	278	197	196
	4. 他 会 計 借 入 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 他 会 計 補 助 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 国 (県) 補 助 金	414	554	8	0	0	0	0	0	0	0
	7. そ の 他	12	17	165	328	425	3	3	3	3	3
	収 入 計 (a)	3,297	4,868	317	736	1,470	466	410	331	250	249
	うち翌年度へ繰り越される 支 出 の 財 源 充 当 額 (b)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支 出	純計(a)－[(b)+(c)] (A)	3,297	4,868	317	736	1,470	466	410	331	250	249
	1. 建 設 改 良 費	3,348	4,924	57	524	1,244	210	53	53	53	53
	2. 企 業 債 償 還 金	171	228	484	701	731	707	611	438	451	463
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0								
	4. そ の 他	16	15	20	24	23	24	24	24	24	24
差 引	支 出 計 (B)	3,535	5,167	561	1,249	1,998	941	688	515	528	540
	差 引 不 足 額 (B)－(A) (C)	238	299	244	513	528	475	278	184	278	291
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	238	135	14	270	528	475	278	184	278	291
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額										
	3. 繰 越 工 事 資 金										
	4. そ の 他	0	164	230	243	0	0	0	0	0	0
	計 (D)	238	299	244	513	528	475	278	184	278	291
補てん財源不足額 (C)－(D) (E)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当年度同意等債で未借入 又 は 未 発 行 の 額 (F)											
実 質 財 源 不 足 額 (E)－(F)											

- 複数の病院を有する事業にあつては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
- 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収 益 的 収 支	(19,994) 430,663	(19,094) 428,703	(21,195) 449,603	(20,983) 479,155	(20,983) 471,763	(20,983) 488,147	(20,983) 540,897	(20,983) 536,392	(20,983) 530,230	(20,983) 534,574
資 本 的 収 支	(0) 51,172	(0) 91,006	(0) 106,947	(0) 208,298	(0) 323,624	(0) 315,759	(0) 357,963	(0) 278,216	(0) 196,823	(0) 195,781
合 計	(19,994) 481,835	(19,094) 519,709	(21,195) 556,550	(20,983) 687,453	(20,983) 795,387	(20,983) 803,906	(20,983) 898,860	(20,983) 814,608	(20,983) 727,053	(20,983) 730,355

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務省自治財政局長通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。

1) 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

(単位:人)

		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
1日平均 患者数	外 来	758.8	776.9	781.9
	入 院	371.5	379.3	359.4
1日平均 救急患者	外 来	29.4	29.6	33.0
	入 院	8.0	7.4	7.1
1日平均 救急患者	時間外	27.7	27.7	29.4
	救急車	5.5	5.3	5.5

救命救急センター 市町別取扱い患者数

(単位:人)

		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
小浜市		9,099	9,433	9,891
若狭町	旧上中町	1,278	1,374	1,434
	旧三方町	374	462	325
おおい町	旧名田庄村	580	560	500
	旧大飯町	620	617	693
美浜町		56	39	41
高浜町		664	622	646
その他(県内外)		1,026	880	1,107
合計		13,697	13,987	14,637

若狭地域における救急車搬送状況について

平成23年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	25	557	654	961	2,197
うち小浜病院	17	466	578	860	1,921
若狭消防組合管外 ②	0	71	33	24	128
舞鶴共済病院	0	32	17	17	66
舞鶴医療センター	0	14	8	7	29
舞鶴赤十字病院	0	1	0	1	2
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	25	628	687	985	2,325

平成24年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	40	515	711	849	2,115
うち小浜病院	25	429	614	766	1,834
若狭消防組合管外 ②	0	69	19	22	110
舞鶴共済病院	0	34	8	16	58
舞鶴医療センター	0	10	7	5	22
舞鶴赤十字病院	0	1	0	0	1
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	40	584	730	871	2,225

平成25年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	40	551	547	1,004	2,142
うち小浜病院	30	462	471	908	1,871
若狭消防組合管外 ②	0	80	35	19	134
舞鶴共済病院	0	52	17	13	82
舞鶴医療センター	0	9	15	6	30
舞鶴赤十字病院	0	1	0	0	1
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	40	631	582	1,023	2,276

2) 生活習慣病に適切に対応する医療の提供

(単位:人)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数
人間ドック	705	512	723	447	1,139	495
PET健診	22	6	40	15	35	10
脳ドック	68	25	62	13	88	38
人間ドック+脳ドック	67	49	46	38	54	36
人間ドック+PET健診	4	3	3	2	－	－
特定健診	63	7	81	9	90	11
婦人科癌検診	21	3	－	－	－	－
協会けんぽ	－	－	124	74	216	148
市町個別がん検診	－	－	48	－	68	－
受診者数合計	950	605	1,127	598	1,690	738
健診収入	49,146,087円		51,817,738円		54,832,169円	

3) 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

「評価シート記載の通り」

4) へき地医療拠点病院としての機能の提供

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
巡回診療日数	168	168	168
1回平均患者数	6.5	6.3	5.3

年度別へき地診療実人数調

(単位:人)

年度	堅海	上根来 (上根来・下根来)	宮川	音海	日引	上瀬	奥杉山	河内	西浦 (常神・神子)	合計
	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数
20	407	211	140	120	30	50	36	46	598	1,638
21	393	222	114	102	24	45	26	38	395	1,359
22	357	200	94	91	24	41	35	45	378	1,265
23	253	167	91	58	14	32	48	42	388	1,093
24	239	139	62	47	23	25	62	43	417	1,057
25	196	119	39	43	24	37	56	40	351	905

5) 小児医療・産科医療の確保

(単位:人)

			平成23年度	平成24年度	平成25年度
1日平均 患者数	小 児	外来	70.6	70.0	66.9
		入院	4.5	4.7	3.7
	産 科	外来	30.6	29.8	26.5
		入院	9.5	10.6	6.7
分娩件数	正 常		110	100	133
	異 常		77	75	29
	帝王切開		44	42	40
	計		231	217	202
分娩収入(自費非課税分)			89,563,135円	85,573,580円	82,345,620円

6) 研修機能の充実

学会・研修会等への出席

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医 師	228	246	247
看 護 師	97	154	165
医療技術員	75	139	90
事 務 職 他	72	81	65

臨床研修医の状況

(単位:人)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度
病 院 単 独		7	7	8
大学との たすき掛	医科	1	1	0
	歯科	1	0	0
合 計		9	8	8

救急救命士の研修状況

(単位:人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
救急救命士の研修	12	16	1

7) 看護師の養成・確保

(単位:人)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度
養成所入学者		37	32	44
卒業 者	小浜病院組合	6	12	11
	そ の 他	14	20	20
	計	20	32	31
看護 師	新採用者	19	17	20
	退 職 者	16	23	19
	増 減	3	-6	1

8) 地域医療機関との連携の推進

平成25年度 医療機関別

紹介患者件数

田中整形外科医院	365
にしお内科クリニック	336
名田庄診療所	267
小津外科医院	255
上中病院	220
千葉医院	184
舞鶴共済病院	166
高浜病院	126
堀口医院	105
なごみ診療所	103
福井大学医学部付属病院	103
山手医院	100
いちせクリニック	96
吉井医院	77
田中病院	76
西津診療所	62
歯科大下医院	60
京都大学医学部付属病院	55
レイクヒルズ美方病院	53
市立敦賀病院	52
敦賀温泉病院	51
中名田診療所	50
嶺南病院	49
村上眼科医院	46
まつき歯科医院	34
和田診療所	32
関根医院	32
福井済生会病院	28
とむらクリニック	26
国立福井病院	24
中山クリニック	23
三方診療所	23
木村医院	21
福井県立病院	20
小計	3,320
その他(19件未満)	625
総計	3,945

逆紹介患者件数

舞鶴共済病院	189
福井大学医学部付属病院	158
上中病院	122
京都大学医学部付属病院	105
小津外科医院	98
名田庄診療所	96
高浜病院	91
田中整形外科医院	90
にしお内科クリニック	85
なごみ診療所	69
千葉医院	68
吉井医院	68
田中病院	54
レイクヒルズ美方病院	43
山手医院	41
西津診療所	31
福井済生会病院	31
中名田診療所	30
歯科大下医院	28
嶺南病院	27
まつき歯科医院	25
市立敦賀病院	23
国立福井病院	22
木村医院	21
福井県立病院	20
舞鶴医療センター	20
小計	1,655
その他(19件未満)	830
総計	2,485

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

区分	氏 名	所属団体・役職等
委員長	白髪 昌世	広島国際大学医療経営学部医療経営学科 教授
委 員	濱詰 健二	小浜信用金庫 理事
委 員	吉井 正雄	小浜医師会 会長
委 員	吉村 忠康	小浜市民生部 部長
委 員	宮脇 美恵子	福井県連合婦人会 副会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 開催日

平成26年8月20日(水) 午後7時より 於:杉田玄白記念公立小浜病院 9階会議室

VI. 醫師臨床研修概要

平成 25 年度 杉田玄白記念公立小浜病院卒後臨床研修

～ 地域・初期医療から高度医療まで ～

目的

基本必修科目は勿論、選択科目についても、診療科の枠に囚われることなく、幅広い症例に接し、医師としての基本的な能力・技能・知識の修得を目指します。

特徴

1. 地域唯一の総合病院であり、基本的疾患の診療を数多く経験することができます。また、医療圏唯一の救命救急センターにて、1 次～3 次まで幅広い症例に接することができ、救急専門医によるマンツーマン指導など充実したプライマリケアの研修を行うことができます。
2. へき地医療拠点病院として、地域医療の現場を体験することができるほか、精神科病棟、介護保健の研修についても併設施設で行うことができます。
3. 充実した待遇面などバックグラウンドもしっかりしていますので、安定した環境の中で研修生活を送ることができます。

プログラムの診療科及び期間（※ 各科研修内容詳細は後記参照）

年目	1 年目		1 年目又は 2 年目		2 年目	
研修科	内 科	救急科	外 科 (2)、麻酔科 (1)、 精神科 (1)、小児科 (2)、 産婦人科 (1) ※ 2 科目選択	選択科	地域 保健	地域 医療
期間	6 ヶ月	3 ヶ月	2～4 ヶ月	9～11 ヶ月	3 週 間	1 月

協力病院・施設

2 年目 選択分野 … 福井大学医学部附属病院、舞鶴共済病院

地 域 医 療 分 野 … 高浜町国民健康保険和田診療所、おおい町保健・医療・福祉総合施設診療所、レイクヒルズ美方病院

地 域 保 健 分 野 … 福井県赤十字血液センター、福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター、介護老人保健施設アクール若狭



各科研修内容

<1 年次必修診療科の研修内容>

内 科	原則として患者 1 名ごと指導医 1 対 1 のペアを組み、マンツーマン指導を受ける。特に最初の 1 ヶ月は医師としての心構え、態度を学ぶ。初年度時はプライマリケアの研修に重点を置き、患者の全体像をとらえる訓練をする。呼吸器と血液疾患を中心に 3 ヶ月、循環器、糖尿病・内分泌および腎疾患を中心に 3 ヶ月でローテーションする。
外 科	指導医が 1 対 1 で研修に当たる。消化器疾患を中心に診断、手術適応の判断、周術期管理および外科救急疾患のプライマリケアについて基本的な考え方を身につける。なるべく多くの手術に参加し、外科基本手技（切開、結紮、止血、縫合、穿刺、トレーニングなど）の原則を習得する。
救急総合診療科	救急総合診療科（救命救急センター）において指導医とともに初期診療に参加し、救急医療におけるトリアージ、心肺蘇生法などを研修する。必要に応じて初期診療後に各専門医について、診断、治療について指導を受ける。
麻 酔 科	手術症例の術前診察、術中管理、術後観察に参加する。麻酔管理を通じて気道確保、気管内挿管、人工呼吸、静脈路確保、動脈穿刺など全身管理に必要な基本手技を習得する。

<2 年次必修診療科の研修内容>

小 児 科	小児の特性と小児疾患の特異性を把握し、common diseaseを中心とした診療を研修するとともに、できるだけ多くの救急疾患を経験する。児の発達に合わせた診察法、家族への説明法を理解し、幼児期以降の簡単な採血・点滴などを習得する。
産 婦 人 科	指導医、研修医で構成されるチームの一員として研修を行ない、女性特有の疾患の初期診療、女性特有のプライマリケアを理解する。妊娠褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を身につける。
精 神 科	精神疾患に対する理解を深めると同時に、患者（および家族）が身体的症状と同時に、不安、恐怖、苦悩などの精神症状を内在させていることを、常に忘れないようにする事を目標とする。
地域保健・医療	小浜保健所、僻地巡回診療、若狭健康診断室（成人病センター）、介護老人保健施設アクール若狭、医療福祉相談室などにおいて、地保健、医療、検診、介護などの制度と実際について学ぶ。また福井県赤十字血液センターによる採血業務に参加する。

<2 年次選択科目の研修内容>

選 択 科 目	それぞれの科の専門性、特殊性を理解し、遭遇する頻度の高い疾患について診断、治療の基本を学ぶとともに初期診療に参加する。 内科（腎臓、呼吸器、循環器、消化器）、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、精神科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、救急総合診療科
---------	---

症例検討会・講習会等

4月 1日	オリエンテーション
4月 2日	接遇講習会
4月 3日	個人情報、防災、医療安全講習会
4月 3～4日	薬剤部、画像診断センター、臨床検査科 研修
4月10日	献血講習会（福井赤十字血液センター）
4月24日	医療倫理講演会 小杉教授（京都大）
6月28日	CVカテ講習会
11月 9日	トリアージ研修会
11月10日	ICLS講習会
2月 1日	研修医研究発表

その他

研修医当直症例検討会（第1水曜日・第3水曜日）

講師 福井大学地域医療推進講座 寺澤教授、北野講師

救急モーニングカンファレンス（週2回）

講師 当院救急総合診療科医師

注射講習会（5月）看護部合同、医局カンファレンス（年10回）

各科カンファレンス（週1回程度）

院外講習会 福井県レジデントキャンプ

研修医研究発表

I 「独歩で受診した軽症に見える患者が重大疾患であった症例」

発表 研修医1年目 相河 伸俊

II 「診断に苦慮した膝窩部腫瘍の一例」

発表 研修医1年目 陳 又豪

III 「診断に苦慮した不明熱の1例」

発表 研修医1年目 近藤 至徳

IV 「小浜病院での研修1年間を過ごして」

発表 研修医1年目 青山 太郎

V 「内視鏡下手術におけるスコピスト経験～全ての道はスコピストに通ず～」

発表 研修医2年目 佐藤 博文

VI 「重症慢性閉塞性肺疾患のため全身麻酔が困難な患者に対して超音波ガイド下神経ブロックで手術を施行しえた上腕骨骨幹部骨折の1例」

発表 研修医2年目 三原 聡仁

VII 「心原性脳梗塞かBADか診断に苦慮した右LSA領域脳梗塞の1例」

発表 研修医2年目 山下 北斗

VIII 「稀だが緊急かつ重症疾患の経験」

発表 研修医2年目 石上 雄一朗

VII. 公立小浜病院組合 構成施設の紹介

公立若狭高等看護学院

介護老人保健施設アクール若狭

レイクヒルズ美方病院

公立若狭高等看護学院

所在地 福井県小浜市大手町 12 号 48 番地
tel 0770-52-0162
fax 0770-52-0554

学 院 長 吉 田 治 義
副 学 院 長 百 合 淳 子
事 務 長 北 原 幹 三

職員構成 教務主任 1 名、専任教員 8 名（非常勤 1 名含む）、その他の職員 1 名（看護師）、事務職員 1 名、院外講師 34 名、院内講師 36 名 （平成 26 年 4 月現在）

開校年月日 平成 2 年 4 月 1 日

修 業 年 限 3 年（定員 1 学年 40 名）（男女共学）

卒業後の資格 看護師国家試験受験資格、保健師・助産師学校受験資格、養護教諭養成課程受験資格、専門士

教育理念 生命の尊厳と人間愛を根底に、健康なその人らしい生活を営めるように援助する看護の精神を養う。
調和のとれた社会人としての人間形成をめざし、自主的に学ぶ看護者を育成する。



平成 25 年度のあゆみ

学生確保においては、平成 22 年からは入学生 30 名以上の確保ができ、平成 25 年は入学生 44 名が確保できました。平成 26 年に県内 3 校目となる看護大学が新設されることとなり、今まで以上に学生確保が困難となることが予測されます。そのため、平成 26 年度推薦入学試験から全国枠を設けました。

超高齢化社会を迎え、健康で自立した生活の維持に対する人々の願いが高まるなか、看護職者に求められる役割はますます大きくなっています。また、看護職は雇用が確実で経済的に自立できる職種としても魅力あるものになっています。そのため高校新卒者だけでなく、大学卒者、就業体験のある社会人などの入学が増える中、学生の多様化に対応するために教員の確保と質の向上が必要となります。

当学院でも、年々社会人学生が増加傾向にあります。社会人の多様な背景、状況をふまえた上での教育方法の検討、看護実践能力、研究能力の向上を図るための学会、研修会に積極的に参加し、今まで以上に専任教員の質の向上に努めています。

教員の確保では、平成 24 年に 2 名、平成 25 年に 1 名が教員養成講習会を受講し、本年度教員 9 名が確保できました。

平成 25 年 6 月 27 日に近畿厚生局の指導調査を受けました。文書による指摘事項はありませんでしたが、指定規則違反となった 1 年生の定員超過についての対策、自己点検・評価の取り組み、カウンセラーの確保等の課題についての指導を受けました。

平成 26 年 1 月には、看護師等教育環境強化システム整備事業としてテレビ会議システムが導入されました。これの活用により県内看護学校における会議、各委員会、研修会等の参加が増え、教員の自己研鑽の機会になることが期待されます。

平成 25 年度の主な行事

宿泊研修	平成 25 年 4 月 26 日（金） ～27 日（土）	三方青年の家 1 年生 44 名参加
球技大会	平成 25 年 5 月 1 日（水）	
看護の日記念式	平成 25 年 5 月 14 日（火）	
学院祭	平成 25 年 10 月 31 日（木） ～11 月 2 日（土）	テーマ「つながる」
講演会	平成 25 年 10 月 31 日（木）	「命の授業」腰塚勇人氏
防火訓練	平成 25 年 11 月 28 日（木）	
卒業記念講演	平成 26 年 2 月 22 日	「花といのち」前野博紀氏

学生出身地内訳（平成 26 年 4 月現在）

	1 学年(25 期生)	2 学年(24 期生)	3 学年(23 期生)	計
小 浜 市	6	14	9	29
若 狭 町	1	3	6	10
おおい 町	0	2	0	2
美 浜 町	0	0	0	0
高 浜 町	4	1	1	6
その他県内	11	7	5	23
県 外	10	18	5	33
計	32	45	26	

平成 24 年 3 月卒業生（20 期生）卒業生 20 名中

県内就職者 7 名		県外就職者 13 名	
杉田玄白記念公立小浜病院	6 名	舞鶴共済病院（京都府）	3 名
国立病院機構福井病院	1 名	国立病院機構京都医療センター（京都府）	2 名
		市立福知山市民病院（京都府）	1 名
		第二岡本総合病院（京都府）	1 名
		北陸病院（石川県）	1 名
		関西大学附属枚方病院（大阪府）	1 名
		近畿大学付属堺病院（大阪府）	1 名
		加古川医療センター（兵庫県）	1 名
		江南厚生病院（愛知県）	1 名
		国立病院機構北海道がんセンター（北海道）	1 名

平成 25 年 3 月卒業生（21 期生）卒業生 32 名中

県内就職者 19 名		県外就職者 13 名	
杉田玄白記念公立小浜病院	10 名	舞鶴共済病院（京都府）	1 名
レイクヒルズ美方病院	2 名	国立病院機構舞鶴医療センター（京都府）	2 名
国立病院機構福井病院	3 名	丹後中央病院（京都府）	1 名
市立敦賀病院	1 名	堀川病院（京都府）	1 名
福井済生会病院	2 名	厚生会木沢記念病院（岐阜県）	1 名
福井循環器病院	1 名	大津赤十字病院（滋賀県）	1 名
		高島市民病院（滋賀県）	1 名
		国立循環器病研究センター（大阪府）	1 名
		関西電力病院（大阪府）	1 名
		兵庫県立西宮病院（兵庫県）	1 名
		板橋中央総合病院（東京都）	1 名
		KKR札幌医療センター（北海道）	1 名

平成 26 年 3 月卒業生（22 期生）卒業生 31 名中

県内就職者 15 名		県外就職者 16 名	
杉田玄白記念公立小浜病院	11 名	板橋中央総合病院（東京都）	1 名
国立病院機構福井病院	1 名	高島平中央総合病院（東京都）	1 名
福井勝山総合病院	3 名	中京病院（愛知県）	1 名
		大津赤十字病院（滋賀県）	2 名
		国立病院機構東近江総合医療センター（滋賀県）	1 名
		舞鶴共済病院（京都府）	2 名
		京都第二赤十字病院（京都府）	1 名
		第二岡本総合病院（京都府）	1 名
		JR大阪鉄道病院（大阪府）	1 名
		千里中央病院（大阪府）	1 名
		医学研究所北野病院（大阪府）	2 名
		神鋼会神鋼病院（兵庫県）	1 名
		西脇市立西脇病院（兵庫県）	1 名

介護老人保健施設 アクルル若狭



所在地 福井県小浜市大手町 2 番 2 号

tel 0770-52-0989

fax 0770-52-0978

施設長 服部 泰章

総看護師長 大森 美代子

事務長 田邊 靖雄

開設年月日 平成 12 年 3 月 29 日

入所定員 100 名（認知症専門棟定員 30 名含む・短期入所 空床利用）

通所定員 40 名

室状況 個室 18 室、2 人室 1 室、4 人室 20 室

構造 鉄筋コンクリート 4 階建

基本理念 急速に進展する人口の高齢化により、21 世紀には 100 万人を越すであろうと言われている寝たきり高齢者にとって、ふさわしい生活の場は住みなれた家庭であることを鑑み、その自立を支援し、家庭への復帰を目指すために適切な医療ケアや看護、介護及びリハビリテーションを併せて提供する施設であり、運営にあたっては、明るく家庭的な雰囲気のもとに地域や家庭との結びつきを重視する事を基本としています。

- 運営方針**
- 1) 要介護高齢者の家庭復帰を最大目標（寝たきりの克服）とし、理学療法、作業療法、言語療法などのリハビリテーションを最重要点に、医療ケアや看護、介護及び日常生活サービスを一体的に提供する。
 - 2) 在宅介護支援の一環として短期入所療養介護、通所リハビリテーションなどのサービスを提供し、地域内の関係機関と調整、連携の上、在宅生活者を支援し、地域老人福祉のためのセンター的役割を担う。
 - 3) 一般社会により近い療養生活環境を提供するとともに、利用者様それぞれの生き方を大切にし、個性に合わせた処遇を勧め、入所者様をご家庭に戻られることを前提に、施設と家庭との接点を増やし、意思の疎通を図る。
 - 4) 明るく清潔で文化的な療養生活を提供するため、環境の整備、運営の充実に努める。

職 員 数 正職員数 64 名 非常勤職員数 8 名 （平成 26 年 4 月現在）

平成 25 年度の総括

当年度の 1 日平均利用者数は、入所 98.5 人、短期入所 1.2 人、通所リハビリテーション 31.4 人でした。施設の稼働率に大きな変化は無く、入所、短期入所を合わせてほぼ満床に近い稼働率を維持しております。平成 25 年度は老健施設の役割の一つである在宅復帰に着目し、在宅復帰率の向上に努めました。在宅復帰による退所者の増加、また体調不良等による緊急入院での退所者の増加により、稼働率の低下が懸念されましたが、杉田玄白記念公立小浜病院の地域連携室と密に連絡・調整を行い、稼働率を低下させず運営することができました。

通所リハビリテーションの利用者の延べ人数は 8,139 人、対前年比で 317 人増加、また 1 日平均利用者数も 31.4 人、対前年比 1.0 人の増加となりました。平成 21 年度より実施しております祝祭日での受入につきましても、利用者や家族からも好評であり、平日と同様の利用者数となってきております。しかし、年々、利用者数は増加してきておりますが、目標数値（1 日平均 34 人～35 人）は未達成であります。

今後におきましても、入所、短期入所、通所リハビリテーションの各サービスの質の向上に努め、また、地域連携室および近隣の居宅介護支援事業所との連携を強化し、より多くの方に安心して利用していただけるよう努めていきたいと考えております。

入所利用者数		平成 21 年 度	平成 22 年 度	平成 23 年 度	平成 24 年 度	平成 25 年 度
小 浜 市		32,469	31,348	32,096	32,711	31,198
若 狭 町	(旧上中町)	2,097	1,839	1,679	1,589	1,771
	(旧三方町)	172	549	449	530	687
おおい町	(旧名田庄村)	309	1,391	1,081	611	1,513
	(旧大飯町)	395	350	6	0	483
美 浜 町		0	0	275	191	0
高 浜 町		0	0	172	0	0
県 内		0	248	349	365	312
県 外		59	15	0	0	0
合 計		35,501	35,740	36,107	35,997	35,964
1 日平均 (人)		97.3	97.9	98.7	98.6	98.5

短期入所利用者数		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
小 浜 市		792	566	328	368	421
若 狭 町	(旧上中町)	0	0	25	0	0
	(旧三方町)	0	0	0	0	0
おおい町	(旧名田庄村)	7	0	0	0	0
	(旧大飯町)	0	0	0	0	0
美 浜 町		0	0	0	6	0
高 浜 町		0	0	0	0	0
県 内		0	0	0	0	0
県 外		0	0	0	0	0
合 計		799	566	353	374	421
1 日平均 (人)		2.2	1.6	1.0	1.0	1.2

通所リハビリテーション利用者数		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
小 浜 市		6,270	6,043	6,947	7,037	7,506
若 狭 町	(旧上中町)	427	452	501	762	633
	(旧三方町)	0	0	0	0	0
おおい町	(旧名田庄村)	34	50	87	23	0
	(旧大飯町)	0	0	0	0	0
合 計		6,731	6,545	7,535	7,822	8,139
1 日平均 (人)		26.9	25.8	29.1	30.4	31.4
営 業 日 数		250	254	259	257	259

事業会計

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
事業収益	540,227	534,796	544,157	543,168	550,759
事業費用	539,775	542,163	554,254	566,920	578,365
利 益	452	△7,367	△10,097	△23,753	△27,606

レイクヒルズ美方病院

所 在 地 福井県三方上中郡若狭町気山 315 号 1 番地の 9
tel 0770-45-1131 fax 0770-45-2420

開設年月日 平成 15 年 7 月 1 日

病 院 長 入 江 善 二

副 院 長 東 博 司

総看護師長 竹 内 みゆき

事 務 長 中 山 浩



病 院 理 念 私たちは、地域密着型病院として、安心・安全・満足の医療を実践し、地域から信頼される病院を目指します。

- 病院基本方針
- 1) 初期治療から高齢者医療まで、幅広い医療を提供します。
 - 2) 周辺の地域医療機関との連携を図ります。
 - 3) 患者様の権利や安全を尊重し、説明と同意に基づいた医療を行います。
 - 4) 自治体病院として、公共性と経済性を大切にして、健全経営に努めます。
 - 5) つねに自己研鑽に励み、医療の質の向上に努めます。

職 員 数 正職員数 79 名 非常勤職員数 17 名 (平成 26 年 4 月現在)

診 療 科 内科、小児科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科

病 床 数 一般 42 床、療養 58 床

施設基準の承認に関するもの

一般病棟入院基本料 (15 : 1)、看護補助加算 1 (30 : 1)、療養環境加算、看護配置加算、療養病棟入院基本料 2 (看護 25 : 1) (看護補助 25 : 1)、療養病棟療養環境加算 1、薬剤管理指導料、脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)、検体検査管理加算 (Ⅰ)、コンタクトレンズ検査料 1、ニコチン依存症管理料、CT 撮影及び MRI 撮影、小児科外来診療料、がん治療連携指導料、救急搬送患者地域連携受入加算

入院時食事療養に関するもの

入院時食事療養 (Ⅰ)、入院時生活療養 (Ⅰ)

指定医療機関等

健康保険法 生活保護法 国民健康保険法 原爆被爆者医療(一般) 労働者災害補償法
小児慢性特定疾患治療研究事業、特定疾患治療研究事業

地域医療にとっては非常に厳しい環境の中で、平成 25 年度病院目標の達成に向かって職員一同邁進いたしました。

1) 経営改善

平均外来患者数 76 人／日 単価 12,800 円

平均入院患者数 88 人／日 単価 17,000 円

2) 在宅支援体制の整備

3) 地域との連携強化

4) 地域への P R 活動の推進

5) 地域の予防医療の促進（健診・検診含む）

が、平成 25 年度の目標でした。その総括は以下の如くです。

1) 平均外来患者数	59 人／日	達成度	77.6%
外来単価	13,460 円	〃	105.2%
平均入院患者数	86 人／日	〃	97.7%
入院単価	15,766 円	〃	92.7%

平成 25 年度の外來患者は非常勤医師の派遣の中止、および薬剤長期投与の傾向が増加継続しており、患者数は減少、単価は増になりました。入院患者については平成 25 年 8 月より一般病床を 42 床に減床し、療養病床を 58 床に増床したことにより下半期では計画どおりの患者数を確保することができました。平成 26 年度は引き続き地域の強い要望である老老介護の負担軽減や、寝たきり老人の減少の為、地域の皆様との連携強化により患者数の増を図るべく努力しています。

2) 在宅支援体制の整備

平成 25 年度の訪問診療延べ人数は 102 人で前年度に比べ 79 人減少しました。訪問看護については 0 人でした。今後、診療体制の確保に基づき訪問診療件数を増加させていきたいと考えています。また医療保険での訪問事業以外に、介護保険での訪問事業も視野に入れ在宅支援体制を整備したいと考えております。

3) 地域との連携強化

平成 25 年度の当院への転院紹介は 119 件の受入を致しました。介護・福祉施設からの入院は 50 件でした。

退院患者数は 222 件で、在宅へは 106 件（47.8%）、介護・福祉施設へは 34 件（15.3%）、転院 12 件（5.4%）、死亡退院 70 件（31.5%）となっています。

外来患者の紹介状況は、年間 428 件で、他病院 199 件、診療所 197 件、介護老人保健施設等 32 件でした。

今後とも病病・病診連携を図り、初期治療と共に慢性期・維持期の医療を提供してまいります。

4) 地域へのPR活動の推進

25年度は広報誌の発行は出来ませんでしたが、町の広報機関を通じて外来の情報等をPRしました。平成26年度は広報誌の発行を予定しています。

5) 地域の予防医療の促進

25年度も定期予防接種、任意予防接種の契約を、若狭町、美浜町と年間を通じて締結し予防医療の促進に努めました。しかしながら接種件数は24年度と比較し454件の減と大幅に減少しました。今後も引き続いて健診・検診業務のPRを強化し、予防接種広域事業にも積極的に対応していきます。

平成 25 年度 病院年報
(第 12 号)

平成 27 年 3 月発行
杉田玄白記念公立小浜病院

〒917-8567
福井県小浜市大手町 2-2

TEL 0770-52-0990

FAX 0770-53-3745

<http://www.obamahp-wakasa.jp>